

平、川原町木津太郎平、松澤元吉、守山町菱和平、大瀧治平、御馬出町頭川善平等を襲撃して、前同様の暴舉に出で、後ち米商會所に到り、表裏の戸締りを破壊して、闖入せんとしたるも果たさず、外圍に鐵柵を廻らすべく二重に積みたる礎を押し崩し、所前の敷石を削ぎ取翌二十一日午前一時過引揚たり、而して取引所に對し、比較的損害を與へざりし理由如何と云ふに、其當時は外國米を以て受渡に代用を許され、従つて定期米は正米に比し、二圓以上も割安なりしを以てなり、此椿事中警官は總出を以て鎮撫に努め、各方面より應援として、駆付たる數十名の巡查は、死力を盡して鎮壓せるも、衆寡敵せず、巡查中數名の負傷者を出し、或は暴徒に取圍まれて防衛的に拔劍し、數名の暴徒に重傷を負はしめたる等、慘憺なる光景實に名狀すべからず、

七月癸未

四日、丙戌關野善次郎外四名、衆議院議員に當選す、

〔富山新報〕

告示第六十七號

第一 舉區 關野善次郎

礎部 四郎
 第二選舉區 田村 惟昌
 第三選舉區 南 磯一郎
 第四選舉區 島田 孝之

右衆議院議員ニ當選ス、

明治二十三年七月四日

富山縣知事 藤島正健

〔富山縣内務部地方課調査〕

衆議院議員 (當選者)

選舉區	氏名	選舉年月日	退職年月日
第一區	礎部 四郎	明治二十三年七月一日	明治二十三年十一月(列事任命)
同	關野善次郎	同	明治二十四年十二月二十五日
第二區	田村 惟昌	同	同
第三區	南 磯一郎	同	同
第四區	島田 孝之	同	同

今上天皇明治二十三年

五五九

第一區	石坂專之介	明治二十三年十一月二十五日	同
第一區	岩城隆常	明治二十五年二月十五日	明治二十六年十月二十七日(死亡)
同	原弘三	同	明治二十六年二月三十日
第二區	谷順平	同	同
第三區	稻垣示	同	同
第四區	武部其文	同	明治二十六年五月十七日(當選無效)
第四區	島田孝之	明治二十六年六月十六日(補選)	明治二十六年二月三十日
第一區	關野善次郎	明治二十六年十一月十日(補選)	同
第一區	關野善次郎	明治二十七年三月一日	明治二十七年六月二日
同	原弘三	同	同
第二區	野村修造	同	同
第三區	稻垣示	同	同
第四區	島田孝之	同	同
第一區	金岡又左衛門	明治二十七年九月一日	明治三十年十二月二十五日

同	內山正治	同	同
第二區	漆間民夫	同	同
第三區	南島間作	同	同
第四區	島田孝之	同	同
第一區	內山松世	明治三十一年三月十五日	明治三十一年六月十日
同	金山從革	同	同
第二區	西田收三	同	同
第三區	坂井敬義	同	同
第四區	大矢四郎兵衛	同	同
第一區	內山松世	明治三十一年八月十八日	明治三十五年八月十八日
同	金岡又左衛門	同	同
第二區	西田收三	同	同
第三區	稻垣示	同	同
第四區	大矢四郎兵衛	同	同

〔富山縣報〕

明治二十三年五月十六日紀事欄五

衆議院議員選舉人并投票所員數、本縣管内ニ於テ、衆議院議員選舉權ヲ有スルモノ、直接國稅十及ヒ其投票所員數ヲ各選舉區ニ區別スレハ左ノ如シ、

選舉區	郡市名	選舉人員	投票所數
第一區	富山市	一〇八	一
	上新川郡	二、四九五	二五
	婦負郡	一、二七〇	一四
計		三、八七三	四〇
第二區	下新川郡	九二五	一一
	計	九二五	一一
第二區	高岡市	九九	一
	射水郡	二、二四三	一七
計		二、三四二	一八
第四區	礪波郡	三、五五六	二七
	計	三、五五六	二七
總計		一〇、六九六	九七

〔法令全書〕

法律第三號 明治二十二年 抄

衆議院議員選舉法

第三十條 選舉ノ投票ハ、通常七月一日ニ之ヲ行フ、但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ、勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ定メ、少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ、

衆議院議員選舉法附錄

富山縣 議員總數五人

- 第一區 上新川郡 二人
- 第二區 下新川郡 一人
- 第三區 射水郡 一人
- 第四區 礪波郡 一人

〔富山縣報〕

告示第二十二號

今上天皇明治二十三年

衆議院議員選舉投票用紙樣式左之通相定ム、

明治二十三年三月七日

富山縣知事藤島正健

(印ハ朱書)

○ 衆議院議員選舉投票用紙 富山縣		
被選人	選人	
何某	何	某
何某印	(富山縣何郡(市)何町村何番地)	

富山縣告示第六十六號

第四選舉區、選出衆議院議員武部其文ニ對スル島田孝之ノ起訴ニ係ル當選訴訟大坂控訴院ニ於テ、本年一月三十一日、當選無効ト判決セラレ、被告ニ於テ上告中ノ處、客月十七日棄却相成、武部其文ノ當選無効ト確定相成候ニ付、更ニ當選人左ノ通確定ス、

明治二十六年六月十六日

富山縣知事德久恒範

第四選舉區 島田孝之

富山縣告示第四百十九號

衆議院議員選舉法第七十五條ニ依リ、當選證書ヲ附與シタルモノ左ノ如シ、

明治三十五年八月十八日

富山縣知事 小倉 久

富山市選舉區

關野善次郎

高岡市選舉區

鳥山敬二郎

郡部選舉區

大橋十右衛門

上野安太郎

田村惟昌

金岡又左衛門

〔富山縣内務部地方課調査〕

衆議院議員(當選者)

選舉區	氏名	選舉年月日	退職年月日
富山市	關野善次郎	八明治三十五年	十明治三十八年日
高岡市	烏山敬二郎	同	同
郡部	大橋十右衛門	同	同
同	上野安太郎	同	同
同	田村惟昌	同	同
同	金岡又左衛門	同	同
同	大矢四郎兵衛	同	同
富山市	牧野平五郎	三明治三十六年	十明治三十六年
高岡市	安藤謙介	同	同
郡部	米澤紋三郎	同	同

同	大矢四郎兵衛	同	同
同	上野安太郎	同	同
同	安念次左衛門	同	同
同	田村惟昌	同	同
富山市	關野善次郎	三明治三十七年	三明治四十七年
高岡市	烏山敬二郎	同	同
郡部	米澤紋三郎	同	同
同	田村惟昌	同	同
同	安念次左衛門	同	同
同	上野安太郎	同	同
同	金岡又左衛門	同	同
富山市	牧野平五郎	五明治四十五年	
高岡市	筱井甚吉	同	
郡部	岡崎佐次郎	同	

同	西能源四郎	同
同	上野安太郎	同
同	神保東作	同
同	伊東祐賢	同

〔富山縣內務部地方課調査〕

衆議院議員選舉權ヲ有スルモノ(明治三十五年八月選舉人納稅資格直接國稅十四圓以上)

選舉區 選舉人員

富山市 五〇二

高岡市 三三三

郡部 一七、七二一

計 一八、五四五

〔法令全書〕

法律第七十三號 明治三十三年三月二十八日

衆議院議員選舉法別表

富山縣

富山市 一人

高岡市 一人

郡部 五人

〔參考〕

〔開國五十年史〕

上抄

- 第一 議會 明治二十三年十一月十九日——二十四年三月八日
- 第二 議會 會二十四年十一月二十一日——十二月二十五日解散
- 第三 議會 會二十五年五月六日——六月十四日
- 第四 議會 會二十五年十一月二十九日——二十六年三月三日
- 第五 議會 會二十六年十一月二十八日——十二月三十日解散
- 第六 議會 會二十七年五月十五日——六月二日解散
- 第七 議會 會二十七年十月十八日——十月二十一日
- 第八 議會 會二十七年十二月二十四日——二十八年三月廿七日
- 第九 議會 會二十八年十二月二十八日——二十九年三月廿八日

今上天皇明治二十三年

五六九

- 第十議 會二十九 年十二月二十五日——三十年三月二十四日
- 第十一議 會三十年十二月二十四日——十二月二十五日解散
- 第十二議 會三十一年五月十四日——六月十日解散
- 第十三議 會三十一年十二月三日——三十二年三月九日
- 第十四議 會三十二年十一月二十二日——三十三年二月廿三日
- 第十五議 會三十三年十二月二十五日——三十四年三月二十四日
- 第十六議 會三十四年十二月十日——三十五年三月九日
- 第十七議 會三十五年十二月九日——十二月二十八日解散
- 第十八議 會三十六年五月十二日——六月五日
- 第十九議 會三十六年十二月十日——開會二日解散
- 第二十議 會三十七年三月十八日——同三十日
- 第二十一議 會三十七年十一月二十八日——三十八年二月廿八日
- 第二十二議 會三十八年十二月二十五日——三十九年三月廿八日

九日、辛卯畫家木村雅經歿す、

〔大日本人名辭書〕

木村雅經は畫工なり、立獄と號す文政八年越中富山に生

る十二歳の時江戸の畫所に入學し、狩野伊川、晴川勝川、三法眼に就き、苦學三十餘年、幕府の兩本丸御用を勤め、維新後圖書局勸農局を始め、新皇居東宮御所並に東京府廳等の繪畫に力を盡し、大に譽賛せらる。畫風は唐宋元明に倣ひ、米人にして其門下たる者數人あり、第二回博覽會には妙技二等賞を得、共進會の度毎に銀印銅印を授與せられ、第三回博覽會には和漢樓閣山水を出品して、勁健細微の評をうく、明治二十三年七月九日肺患に罹りて歿す、享年六十四、

〔富山縣水害誌〕

明治二十三年七月十九日、各川出水、神通川午後四時三十分

一丈三尺五寸ニ至リ、市中流失一戸、全潰六戸、半潰十戸、浸水五千五百四十戸、死亡男四人、田一町八反、道路十二ヶ所、延長百九十間、橋梁流破八架、堤防一ヶ所、此延長四間、破壞五ヶ所、此延長二十三間ナリ、

二十五日、丁未森山茂、富山縣知事に任す、

〔官報〕

第二一二三號

明治二十三年七月二十五日

任富山縣知事

元老院議官從四位勳三等

森山 茂

今上天皇明治二十三年

五七一

叙勅任官二等賜下級俸 富山縣知事從四位勳三等 森山 茂
任千葉縣知事 富山縣知事正六位勳六等 藤島正健

二十九日、辛亥馬場道久、貴族院議員に任せらる、

〔富山縣內務部地方課調査〕

貴族院議員

氏名	任命年月日	退職年月日
馬場道久	明治廿三年九月廿九日	明治三十年九月廿八日
菅野傳右衛門	同 三十年九月廿九日	同 卅三年三月十九日
高廣次平	同 卅三年六月十三日	同 卅六年二月六日
井上清治	同 卅六年五月五日	同 卅七年九月廿八日
中田清兵衛	同 卅七年九月廿九日	同 卅九年九月十二日
淺野長太郎	同 卅九年十二月十三日	

〔參考〕

〔法令全書〕

勅令第十一號 明治二十二年 抄
二月十一日

貴族院令

第六條 各府縣ニ於テ、滿三十歳ノ男子ニシテ、土地或ハ工業商業ニ付、多額ノ直接國稅ヲ納ムル者、十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ、其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ、七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ、其ノ選舉ニ關スル規則ハ、別ニ勅令ヲ以テ定ム、

勅令第七十九號 明治二十二年 抄
六月四日

貴族院多額納稅者議員互選規則

第十四條 選舉ハ、六月十日府縣廳ニ於テ之ヲ行ヒ、府縣知事又ハ其ノ代理者之ヲ管理ス、

〔富山縣統計書〕

明治三十九年

貴族院多額納稅議員互選調	明治三十九年十一月十五日現在
納稅額	住所身分職業
九、五三、六七四	上 <small>五選權ヲ有スル者</small> 新川郡東岩瀬町平民商
	馬場道久
	<small>五選權ヲ有セサル者</small>

今上天皇明治二十三年

七、四三九、七二三	高岡市木舟町		菅野傳右衛門
六、一四九、四三三	上平新川郡東岩瀬		米田サト
五、一三七、九一三	四畷平波郡農	高廣次平	
四、六八三、八七〇	野東畷平波郡農	田中清文	
四、五九三、〇八〇	善下町新川郡農入	米澤紋三郎	
四、二四五、九四一	平婦民郡速星村	淺野長太郎	
三、八七七、八三三	善下町新川郡農入	米澤與三次	
三、八七三、〇六一	平新川郡肥滑川商町	齋藤仁左衛門	
三、八七二、二七五	平高岡市	平能五兵衛	
三、七九一、二九一	平東畷波郡柳瀬村	佐藤助九郎	
三、四九四、二〇〇	富山種商市平民	中田清兵衛	木津太郎平
三、四八五、三七五	高岡市上商川		
三、二七〇、六三〇	善下町新川郡農入		米澤實
三、一四四、〇六一	平婦民郡速星村	井上清治	

三、一一六、四四八	富山金銭市付士業族	内野信一	
三、〇四二、三三〇	善下町新川郡農入		竹内彌三右衛門
二、九二三、二〇六	下東村畷平波郡農庄	根尾宗四郎	
二、九二一、〇七〇	野東村畷平波郡農山	菊野久太郎	
二、七三九、二八〇	町下平新川郡農泊	阿部孫右衛門	

三十一日、癸第三回内國勸業博覽會出品受賞者中、本縣人二百十八名あり、

〔法令全書〕

農商務省告示第十一號 明治二十年 十二月廿九日 抄

第三回内國勸業博覽會規則

第一章 總則

第一條 本會ハ、明治二十三年四月一日ヨリ、七月三十一日マテ、東京上野公園 内ニ開設ス、

〔農商務大臣官房博覽會課調査〕

第三回内國勸業博覽會

今上天皇明治二十三年

富山縣ノ部

(出品) 工業 八一五點

美術 六〇

農業山林及園藝 三一六九

鑛業及冶金術 二三三

水産 二二三三

教育及學藝 八一八

機械 四

計 五、一二二點

(受賞) 二等有功賞 三點

三等有功賞 二六

三等妙技賞 一

褒狀 一八八

計 二一八點

〔參考〕

〔法令全書〕

第四回内國勸業博覽會事務局告示第一號

明治二十六年九月八日

第四回内國勸業博覽會規則

第一章 總則

第一條 第四回内國勸業博覽會ハ、明治二十六年勅令第十六號ニ依リ、明治二十八年四月一日ヨリ、七月三十一日マテ、京都市上京區岡崎町ニ開設ス、

〔農商務大臣官房博覽會課調査〕

第四回内國勸業博覽會

富山縣ノ部

(出品) 工業 一、六三五點

美術及美術工藝 二三

農業森林及園藝 五

水産 三四

教育及學藝 二六

鑛業及冶金術 七

計 二、二六點

(受賞) 有功二等賞 三點

有功三等賞 一七

妙技三等賞 三

褒狀 一二五

計 一四八點

〔法令全書〕

農商務省告示第四十一號

明治三十四年四月十八日 抄

第五回内國勸業博覽會規則

第一章 總則

第一條 本會ハ、大阪府大阪市南區天王寺今宮ニ、附屬水族館ハ同府堺市大湊

通公園内ニ設置シ、明治三十六年三月一日ヨリ七月三十一日マテ、之ヲ開會

ス、但シ動物館ノ開期ハ、同年五月一日ヨリ同月十五日マテ、及同月二十六日

ヨリ六月九日マテトス、

〔富山縣内務部勸業課調査〕

今上天皇明治二十三年

第五回内國勸業博覽會本縣人出品

點數 三千四百十三點

代價 金三万三千三百三十九圓四十四錢七厘

人員 千五百十六人

同上受賞

名譽銀牌 一 點 一等賞 五 點

二等賞 十五 點 三等賞 八十六 點

褒狀 三百四十一點 計 四百四十八點

十月 乙卯

神通川洪水、損害甚多し、

〔富山縣下水害記〕

二十三年十月四日、午後十時より北風に捲かれて、降雨は篠を衝く計り、五日の午前は、風雨殊に一層の猛烈を加へ、市街を環りて流れたる神通川は、忽ちに水嵩を増し、午後八時過ぎには、早や市中の西部は街上へ浸水するに到り、○中午後九時頃より床下を浸たし、暗黒なる夜の事なるに、加へて雨は小休なく、燈灯も風に吹消され、周章狼狽一方ならざりしが、六日午前一

時頃に一旦減水の模様あり、是れにては先づ安心ならんと云ふ間もなく、午前三時頃より濁流は滔々として千里一瀉の勢ひを傾け來り、市中の大半はことごとく床の上に達し、壘を溜すものあれば、箆筒を浸たすもあり、寝ねるまゝ背中の冷たきにおどろきて、須破水よと叫ぶ家もありし、最も市中の東北部は夜の十一時頃より、熊野川の決水と神通川の溢水にて、多く床上を浸したりし由、西部の一半は神通川通り、有澤堤防の破れたる爲め、一時に洪水となり、裁判所師範學校等も水に浸り、二番町警察署の門前まで、小舟を以て通行するに到れり、されは宵より水を知らざりし山王町、越前町、一番町、千石町等の大數は床上を浸さるゝに到り、夜の曉方までは四方に呼叫ぶ聲聞えいと物凄かりし、夜も早や明けぬ、幸に九時頃に水は大半落ちたれども、薪を流し井を塞き、かまをを没し火を消し、何れも朝飯の支度を爲せしは、正午過なりし、かゝる水災の有りは、富山市にて古今未曾有の事にて、老年の人と雖とも、更に經驗なき事なる由なり、明治四年頃一度大水の有りしか、是れは天正年間佐々成政の領地たりし時常願寺川洪水にて、日中上野村のふもとを流れ居りし舊川筋を變し、只今の新川筋と附けかはりたる時に、富山一般水に没せりと、僅かに口碑に傳はり

し以後二百有餘年の水なりと云ふ、其の明治四年の大水に比すれば此度の水は實に一層の虐勢を極めたりと云へば、殆んど古來より例しなき事と知るべし。

〔富山市沿革志〕

十月四日、五日ノ兩日間斷ナク、雨フリ、六日各川非常ニ満水漲溢シ、就中神通川ノ如キハ、我カ富山市ノ咽喉タル、磯部堤防ヲ衝潰シ、溢水ハ大字五十二ヶ町村ニ奔逸シ逆行ス、此ノ時家屋ノ浸水四千六百九十七戸、納屋ノ破壊一棟、堤防ノ破害八ヶ所、此ノ延長四十七間二尺、道路ノ破害三十五ヶ所、此ノ延長四千六百五十二間三尺、橋梁ノ流失六架、其ノ破壊二十六架、此ノ間數五十六間五尺、段別ノ荒蕪田八段一畝十七步、畑八段六畝、共ニ計ルニ一町六段七畝十七步、其ノ浸水田七町七段七畝十七步、畑一町一段六畝二十七步、共ニ計ルニ八町九段四畝十四步ナリ、

〔参考〕

〔富山縣下水害記〕

本縣に於て、昨二十三年中暴風の爲め、被害を受けたる取調に、
一 死亡者 九名 一 負傷者 十二名 一 家屋流失 十二戸 一 同破

損 十一戸 一同浸水 七千二十九戸 一 田畑荒蕪 四百四十五町二反十步 一 浸水反別 七千七百七十四町九反一畝二十八步 一 堤防破壊 五百六十三ヶ所 一 延長 二萬二千二百七十四間二尺 一 橋梁の破壊 百五十七ヶ所 一 延長 六百四十三間四尺
右被害中最も慘狀を極めしは、十月一日より五日間、諸川出水、就中神通川は平水より一丈五尺の高點に達し、富山市街にて人家の浸水は、四千六百九十七戸なりと云、

富山市に執達吏役場を設く、

〔富山地方裁判所調査〕

執達吏任免異動並事務開始

富山區裁判所

明治廿三年十月十八日、竹林良太郎任命、同年十一月、富山市内に役場ヲ設ケ、事務ヲ開始ス、
略○中

魚津區裁判所

明治廿四年十一月六日、喜多直弘任命、同年十一月日不詳、魚津町内に役場ヲ

設ケ、事務開始中、同三十八年十二月十一日、富山區所屬ニ補セラル、○中
高岡區裁判所

明治廿三年十月廿四日、瀬川富太任命、同年十月卅一日、高岡市内ニ役場ヲ設ケ、
ケ、事務開始中、同卅六年七月二日、富山區所屬ニ補セラル、○中

杉木新區裁判所

明治廿六年四月十日、新井四郎任命、同年十一月十四日、出町内ニ役場ヲ設ケ、
事務開始中、同卅七年五月十六日、高岡區所屬ニ補セラレ、卅七年以後杉木新
區裁判所ニ於テ、裁判事務ヲ取扱ハサルコト、ナリシ爲メ之ヲ止ム、

備考 明治卅七年中、専ラ依頼者ノ利便ヲ計リ、勞各自ノ收入ヲ均等シ、諸種ノ
弊害ヲ防ガンガ爲メ、各執達吏ハ其所屬同職者ト申合セ、從來各々構ヒシ役
場ヲ廢シ、合同役場ヲ設ケタリ、

明治二十四年辛卯

紀元二千五
百五十二年

一月 朔 亥

九日、^{乙未}教育勅語謄本を、公私立學校に交付す、

〔富山縣報〕

富山縣訓令第二號

郡市役所 町村役場
縣立學校 市町村立學校
私立學校

明治二十三年十月三十日、教育ニ關シ 勅語ヲ下シ賜ハリシヲ以テ、其謄本並
ニ文部大臣ノ訓示各一通宛、文部省ヨリ公私立學校ヘ交付セラル、因テ今之ヲ
配付ス、學校職員ニアリテハ深ク 聖旨ヲ奉體シ、常ニ薰陶教誨ニ懈ラス、左ニ
掲クル所ノ、勅語奉讀會心得ニ據リ、生徒ヲ集メテ 勅語ヲ奉讀シ、且之ヲ解釋
敷衍シテ、諄々訓誨シ、生徒ヲシテ感佩實踐スル所アラシムヘシ、

明治二十四年一月九日

富山縣知事森山 茂

勅語奉讀會心得 ○省 略

是月、風雪、人家を倒す、

〔三日市警察分署調査〕

明治二十四年一月十六日ヨリ降雪、三日市町邊ハ積
雪七尺餘ニ及ヒ、加フル颶風起リ、同二十七日マテニ、三日市、生地、村椿等各町村
ノ家屋潰倒スルモノ四十棟、内山村ニ於テ、女二人壓死ス、

今上天皇明治二十四年

五八三

〔泊警察分署調査〕

明治二十四年一月、積雪多大ニシテ、人家ノ壓潰セラル、

モノ九戸、

三月丙戌朔

三十日、乙卯礪波郡立野村火あり、

〔戸出警察分署調査〕

明治二十四年三月三十日、立野村大字立野村ヨリ出火

シ南風激シキ爲メ、延焼百三十戸ニ及フ、

三十一日、丙戌上新川郡五百石町火あり、

〔五百石警察分署〕

明治二十四年三月三十一日、五百石町大字松本開、酒井小

平ヨリ出火シ、延焼八十一戸ニ及フ、

五月丁亥朔

十日、丙申高岡市木町火あり、

〔高岡市革沿志〕

明治二十四年五月十日午前十一時、木町炭谷佐太郎ノ家ヨ

リ出火シ、開發町及開發村ニ飛火シ延焼ス、

〔高岡市役所調査〕

明治廿四年五月十日、當市木町出火、延焼戸數八十三、

七月戊子朔

十九日、甲辰各川洪水、慘狀を極む、因りて特に侍従を遣はし、救恤金を下賜せらる、國庫亦大に土木費を補助す、

〔越中史畧〕

同二十四年七月十九日、越中諸川洪水暴溢し、神通川水量高點一

丈三尺五寸、常願寺川同一丈六尺、黒部川同一丈一尺、庄川同一丈五寸に至り、各

川沿岸の被害慘狀を極めたり、即ち全縣下に於て、家屋の流失三十戸、同浸水七

千五百九十六戸、溺死者十六人、田地の流亡千四百七十六町七段八畝三步、同浸

水三千三百七十一町七段二畝十三歩の多きに達す、天皇皇后兩陛下、罹災人

民の困難を憫然に思召され、御救恤として、天皇より金千五百圓、皇后より

金五百圓を下し賜ひぬ、又同年右水害に付、國庫より金六十七萬六千三百五十

四圓九十九錢を補助し、地方税より土木費金三十七萬三千四百九十一圓十八

錢二厘を支出し、以て大に常願寺川等の水防工事を興しぬ

〔富山市沿革志〕

明治二十四年七月十九日、各川非常ニ暴漲シ、水量高點、神通

川ハ午後四時三十分、一丈三尺五寸ニ上ホリ、忽チ富山市街ノ人家ヲ浸セシヲ

以テ、市民ハ大ニ周章狼狽セシカ、家屋ノ流失一戸、全潰六戸、半潰十戸、浸水五千

五百四十戸、死亡者男四人、流亡地一町八段、浸水地四町八段四畝、道路ノ被害十

ニヶ所、此ノ延長百九十間、橋梁ノ流失十四架、其破壊八架、堤防ノ決潰一ヶ所、此ノ延長四間、破壊五ヶ所、此ノ延長二十三間ナリ、

〔新庄警察分署調査〕

明治二十四年七月十九日、常願寺川出水、上新川郡島村

領字中川口前ノ堤防ヲ破壊シ、島村全村二十一日間浸水セリ、流失反別六百町歩ニシテ、被害民ノ多數ハ、北海道及ビ中新川郡下段村へ、移住スルニ至レリ、

〔八尾警察署調査〕

水害ノ慘狀聖聽ニ達シ、實況視察トシテ、毛利侍從職御派

遣トナリ、明治廿四年八月廿二日、鶴坂村ヲ川舟ニ乗リ、各村ニ於ケル堤防破壊ノ箇所ヲ、親シク視察セラレ、侍從歸京ノ後、被害民ニ對シ、一戸ニ付二圓乃至六圓宛ノ、御下賜金アリタリ、

〔上新川郡藤木尋常小學校報告〕

該水害視察トシテ、我皇特ニ毛利侍從ヲ

派遣シ給ヒ、恩賜金ヲ賜ハリ、其他有志ノ寄附金備荒貯蓄ノ救助ヲ受ケシモノ、本村全戸三百ニ對シ、貳百三十戸ノ多キニ達セリ、而シテ此金一千二百圓ナリ

〔法令全書〕

勅令第二百四十七號

明治二十四年 抄
十二月廿六日

愛知、岐阜、富山、福岡四縣ノ土木費補助ニ充ツル爲左ノ金額ヲ支出ス、
一金百拾六萬四千六百八拾貳圓九拾六錢六厘 愛知縣震災費補助
一金貳百八萬千五百五拾四圓六拾七錢 岐阜縣震災費補助
一金六拾七萬六千三百五拾四圓九拾九錢 富山縣水害費補助
一金三拾五萬三千九百貳拾八圓拾壹錢四厘 福岡縣水害費補助

〔富山縣內務部會計課調査〕

明治二十四年度、土木費國庫補助金八〇一、三五四、九九〇

八月 朔己未

稻垣示等、政社北陸自由黨を組織す、

〔富山警察署調査〕

明治廿四年八月、射水郡自由派稻垣示、富山市自由派横山

隆通等ニテ、政社北陸自由黨ヲ組織シ、同廿六年五月二十五日解散ス、

九月 朔庚寅

二日、^{辛卯}高岡市源平板屋町火あり、

〔高岡市沿革志〕

九月二日午前二時、源平板屋町湯屋某ノ家ヨリ出火シ、五十

戸ヲ類焼ス、

今上天皇明治二十四年

五八七

三十日、己未暴風雨、庄川出水、

〔新湊警察署調査〕

明治二十四年九月三十日、暴風雨アリ、同時ニ庄川出水シ、新湊町海岸字六渡寺町、及放生津町領、堤防約二百四間缺壊シ、又放生津潟廻リ堤防中、字放生津町、法土寺町、荒屋町ノ領、四百四十五間缺壊シタリ、

〔富山縣警察部保安課調査〕

庄川出水堤防三百間缺壊、田地ノ流失十町歩餘是月、黒部川ノ愛本橋成る、

〔富山縣内務部土木課調査〕

國道線、下新川郡下立村大字中ノ口村、愛本村大字中ノ口村間、黒部川ヲ横斷スル愛本橋ハ、明治廿四年九月、架設工事竣功ヲ告ケタルモノニシテ、其延長ハ三十五間三分、幅員ハ拾九尺九寸トス、

〔下新川郡愛本尋常小學校報告〕

愛本橋ハ愛本村大字中ノ口村ト、下立村トノ黒部川ノ峽流ニ架セル刳橋ニシテ、他ニ見サル所ノ奇橋ナリ、寛永三年村人相謀リテ、一橋ヲ架シ、寛文二年刳橋ニ架換往來ニ便セシヲ始メトシ、明曆二年加賀藩主ヨリ、匠官ヲ遣シ築造セシメ、其後二十年乃至三十年毎ニ改造セシト云フ、然ルニ文久年間架設ノモノ朽腐シ、明治二十三年、兩岸ノ岩石上ニ石造ノ橋臺ヲ築キ、之レニ木ノ拱橋ヲ架セルモノナリ、

十月 庚申

十六日、乙亥礪波郡石動町火あり、

〔石動警察署調査〕

明治二十四年十月十六日、石動町大字飯田町ヨリ出火、全焼五十戸、

十一月 辛卯

第四十七銀行、富山に移轉す、

〔株式會社第四十七銀行調査〕

明治十一年十月十八日、東京府華族水野忠敬等發起シ、國立銀行條例ニ據リ、資本金九萬五千圓ヲ以テ、第四十七國立銀行ト稱シ、千葉縣市原郡八幡町ニ設立セラレ、明治二十四年十一月、富山市中町九番地ニ移轉ス、之レヨリ先キ明治十六年九月、山野清平等ニヨリ創立セラレタル、株式會社富山銀行ト稱スルモノアリ、資本金拾萬圓ヲ以テ業務ヲ經營モシモ、第四十七國立銀行ノ株式全部ヲ擧ケ、買受クルニ及ヒ解散シ、其業務ヲ繼承セリ、明治二十五年九月、資本金ヲ拾五萬圓ニ増加シ、明治二十九年十月七日ニ至リ、又資本ヲ増シテ參拾萬圓トナセリ、明治三十年十二月十日現時ノ富山市中町貳拾五番地ニ移リ、明治三十一年一月二十日、國立銀行營業滿期前特別處分法

ニ據リ、其組織ヲ變更シ、名稱ヲ株式會社第四十七銀行ト改ムルト同時ニ、資本金ヲ六拾萬圓ニ増加ス、而シテ明治三十二年四月、貯蓄銀行業ヲ兼營シ、明治四十年三月十五日、更ニ資本金ヲ倍加シ百貳拾萬圓トナス、現今拂込濟資本額ハ八十四萬圓ナリ、

十二月 辛酉

片貝川の經田橋成る、

〔富山縣内務部土木課調査〕

河川名	長	幅	竣工年月	摘	要
片貝川	一〇三〇	二〇	明治廿四年	里道、經田村大字、石田新田村間	

是歲、高岡市に高岡新報の發刊あり、

〔高岡市沿革志〕

明治二十四年、曾ツテ發刊セル高岡商況ハ禁止ヲ受ケ、續キテ高岡新報ヲ發刊シタリ、○中二十六年七月十三日、高岡新報ヲ高岡商業新報ト改題ス、

〔參考〕

〔高岡警察署調査〕明治二十一年二月二日、高岡商況ヲ發行ス、

〔富山縣警察部保安課調査〕

卅二年八月五日、高岡商業新報ヲ高岡新報ト改題ス、

明治二十五年壬辰

純元二千五百五十二年

三月 壬辰

八日、己亥富山縣を大阪鐵山監督署の管轄に屬せらる、

〔法令全書〕

農商務省令第三號 明治二十五年 抄 三月八日

鐵山監督署名稱位置及管轄區域、左表ノ通相定ム、

鐵山監督署名稱位置及管轄區域表

名	稱	位	置	管轄區域
大坂鐵山監督署	攝津國大坂	富山縣		

外○富山縣以

勅令第四百十八號

明治三十六年 抄 十月三十日

鐵山監督署名稱位置及管轄區域表

今上天皇明治二十五年

名	稱	位	置	管轄區域
東京鑛山監督署		武藏國東京	富山縣	

外○富山縣以
は省略

附則

本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス、

勅令第九十九號 明治三十八年 抄
三月二十八日

鑛山監督署名稱位置管轄區域表

名	稱	位	置	管轄區域
大阪鑛山監督署		大阪府大阪市	富山縣	

外○富山縣以
は省略

附則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ施行ス、

四月 朔 癸亥

二十六日、^{戊子}射水郡堀岡村火あり、

〔新湊警察署調査〕

明治二十五年四月二十六日、射水郡堀岡村大字明神新村小竹吉右衛門所有納

屋ヨリ出火、五十戸以上ヲ燒失セリ、

二十九日、^{辛卯}射水郡大島村、村會議員選舉競争の爲め死傷者あり、

〔射水郡大島村小學校報告〕

村會議員選舉事件

明治時代ニ至リ、各地ニ政黨ノ團結起ルヤ、大島村ハ殊ニ政黨熱高マリ來リ、市町村制度實施以來、大同派、改進黨ノ兩派アリテ、競争常ニ盛ナリ、明治二十五年四月二十九日、村會議員半數改選執行ニ際シ、大同派ハ津田某、中谷某ヲ首トシ、改進黨ハ小川某、西田某ヲ首トシテ、各候補者ヲ立テ、選舉ノ競争ヲナセシガ、大同派ハ到底勝算ナキヲ認メシニヤ、同日未明ニ數多ノ徒黨ヲ集メ、隊ヲ組ミテ各凶器ヲ持シ、関ヲ發シテ大字小島村ニ設ケタル、村會議員選舉場ヲ不意ニ侵襲シタリ、選舉場ノ番人堀田利助ハ、及傷即死シ、堀田半助、宮腰久三郎ノ兩人ハ重傷ヲ負ヒ、日ヲ經ズシテ死亡シ、輕重傷者六名アリ、一時甚ダ騒然ヲ極メタリ、カクテ選舉ハ結了シテ改進黨派ノ勝利ニ歸シ、加害者ノ主ナルモノハ、各判官ノ手ニ縛セラレテ刑ニ處セラレタリ、

五月 朔 癸巳

今上天皇明治二十五年

二日、^甲常願寺川出水、

〔富山縣警察部保安課調査〕

明治二十五年五月二日、常願寺川出水、利田、大森、

舟橋等各村ニ氾濫シ、田地ノ流失七十餘町步、家屋ノ流失亦數戸アリタリ、

十一日、^卯神通川、常願寺川等また出水、

〔富山縣水害誌〕

明治二十五年五月十一日、神通川大水、水量一丈三寸、浸水家

屋三百餘戸、

常願寺川筋 東水橋町堤敷流亡五十間、流失人家一戸、同納屋一棟、流亡反別三

反步、利田村浸水人家二十五戸、西三郷村道路破壞百十九間、流亡反別七十

七丁、堤防欠所百間、

上市川筋 上市町堤防岸崩十二間、同欠壞拾五間、

白岩川筋 弓庄村浸水人家七戸、流亡橋梁拾五間、東三郷村浸水人家十九戸、浸

水反別十町、舟橋村浸水人家二戸、全納屋一棟、流失人家一戸、全納屋一棟、道

路岸崩五十間、流亡反別五反、東三郷村流失納屋一棟、浸水人家三戸、

二十日、^壬上瀧町外十六個町村組合、合口用水を開通す、

〔上新川郡役所調査〕

明治二十五年五月二十日、合口用水開通、

〔富山縣内務部地方課調査〕

常願寺川以西合口用水町村組合事業(上新川郡長管理)

本組合ヲ設置セルハ、明治二十四年七月十九日、未曾有ノ大洪水ノ爲メ、該川兩岸堤防ハ大半破壞シ、沿岸耕地幾千町トナク荒蕪ニ歸シ、名狀スヘカラサル慘害ヲ呈シタル際、時ノ知事郡長ハ苦心ノ結果、内務省ヨリ、デレーク工師(和蘭人)ヲ聘シ、現時ノ急ト將來ノ害ヲ防クノ策ヲ講スルハ、方法ノ第一ナリトシ、同氏ノ意見ヲ徵シタルニ、堤防破壞ノ原ハ洪水其主因タリシト雖トモ、各所堤腹ニ用水取入口ヲ設ケ、常ニ引用ノ水路ハ之カ媒介トナリテ、水勢ヲ傾斜横流セシメ、年々堤防ヲ破壞スルニ外ナラストナシ、茲ニ常願寺川ノ河身改良ヲ斷行シ、之ニ伴ヒ西岸各所ヨリ引用スル、用水取入口ヲ悉皆閉鎖シ、上流安全ノ地位ニ於テ、舊來ノ各個用水取入口ニ代フルニ、合併幹川水路ヲ開鑿シ、是ヨリ各所ニ配水シテ、一ハ堤防ノ破壞ヲ豫防シ、一ハ各個用水ノ費用ヲ減セントシ、管理者タル郡長ハ幾多ノ日時ヲ費シテ、漸ク其斷行ヲ見ルニ到レリ、之レカ新鑿費トシテ、地方稅補助金壹万七百參拾五圓八拾四錢二厘、及組合公借金壹万八千二百二拾二圓九拾八錢參厘ヲ組合會ニ於テ決議セシメ、工事ニ着手シ、遂ニ水路

延長六千四百八拾間、川底平均幅四拾貳尺深九尺ノ合同水路ヲ新鑿シ、關係民ノ安全ト用水ノ完全トヲ計レリ、本用水ハ、本幹流ノ二大隧道ト、上瀧砂溜水吐キ迄ハ、地方稅補助ヲ以テ支辨セルモ、水路延長六百六拾間ハ、其工事最モ至難ナリシ爲メ、豫定ノ灌溉水ヲ引キ入ル、事能ハサルニ到リ、落成以來年々修補改築増設等ヲ爲シ、當初ヨリ明治三十九年度、經常豫算迄ニ費シタル經費、總額參拾四萬七千五百六拾四圓六拾四錢壹厘ニ及ヘルモノナリ、

〔上新川郡濱黑崎尋常小學校報告〕

明治二十四年中、岩栗用水、太田用水、清水

俣用水、筏川用水、横内用水、廣田針原用水、島用水ノ七用水ヲ、合口トシテ開鑿シタルモノハ、即チ今ノ上瀧町外十六ヶ町村組合、合口用水ト稱スル大用水ナリ、

〔上新川郡大庄高等小學校報告〕

常願寺川、本川、派流東ニ秋ヶ島釜淵、仁右衛

門、高野三千俵、利田、西ニ岩操、太田、清水又、筏川、横内、上江山、室新庄、嶋廣田、針原ノ各用水アリテ、東水受高一万七千貳百五十三石、西水受高六万五千百三十九石、四斗五升、合セテ八萬二千三百九十二石、四斗五升ニ減水ノ節、配水スルノ舊慣ナリシガ、明治二十四年「デレ」工師ノ設計ニテ、西全部ノ合口用水ヲ新鑿シ、舊慣ノ配水法一變セリ、

二十五日、上新川郡西水橋町火あり、

〔滑川警察署調査〕

明治二十五年五月二十五日、西水橋町大字山王町神田宗

次郎ヨリ出火、六十餘戸ヲ焼失セリ、

六月 朔 甲子

神通川の有澤橋成る、

〔富山縣内務部土木課調査〕

河川名	長	幅	竣工年月	摘	要
神通川	一八四、 <small>四</small>	二、 <small>四</small>	明治二十五年六月十	里道	上新川郡堀川村大字布瀬村間、 婦負郡神明村大字有澤村間

〔富山市沿革志〕

明治二十五年七月二日、有澤橋渡橋式ヲ行ハル、

七月 朔 甲午

一日、新嘗祭供御の新穀獻納を許さる、

〔富山縣報〕

訓令第六十三號

郡市役所 町村役場

新嘗祭ノ儀ハ、毎年登熟ノ新穀ヲ以テ、畏クモ 天皇陛下御親祭アラセラレ、國家ノ嚴儀歷朝繼續、數千年來變易アルコトナシ、蓋シ民命ヲ重ンシ以テ祭ラセ給フモノニシテ、億兆生活スル處ノ食ハ、當初 天祖ノ賜ナルコトヲ忘レシメス、彌農事ヲ勵マシメ給フヘキ重祀ナレハ、國民タルモノ誰レカ此意ヲ奉體シ、聖意ニ副ヒ奉ランコトヲ欲セザランヤ、故ニ毎年新嘗祭ニ當リ、地方有志農民ヨリ、新穀ノ初穂ヲ獻納センコトヲ出願セハ、採納ノ上神饌ノ資ニ供セラレ度旨、其筋ヘ悃願シタルニ今ヤ之ヲ裁可セラレタルヲ以テ、國民ハ此貴重ノ神饌ヲ獻スルノ榮ヲ得國ノ大本タル農事ヲ貴フノ風ヲ起シ、國家ヲ利スル處大ナリト云ハサルヘカラス、依テ篤ク此旨ヲ了得シ、周チク之ヲ縣下人民ニ知ラシメ、左記手續ニ據リ、略す左記年々耕作スル處ノ新穀ヲ、獻納ノ儀出願スル者アラハ、夫々取計フヘシ、

明治二十五年七月一日

富山縣知事森山 茂

〔參考〕

〔富山縣內務部勸業課調査〕

明治四十年新嘗祭新穀初穂獻納者

- 精米 中新川郡西加積村 藏井 宗平
- 同 下新川郡荻生村 稻垣豊次郎
- 同 婦負郡黒瀬谷村 村杉 義信
- 同 上新川郡針原村 長崎元次郎
- 同 射水郡新湊町 中瀬 七造
- 同 婦負郡寒江村 酒井 俊作

十四日、丁縣會議員選舉競争の爲め、礪波郡に死傷者あり、

〔富山縣報〕

告示第三十六號

左ノ通、縣會議員半數改選及補闕選舉ヲ行フ、

明治二十五年六月十日

富山縣知事森山 茂

區	城	選舉開會 月日	選舉開會 時刻	投票開閉 時刻	選舉スヘキ 員ノ數
上新川郡及富山市ノ内元		七月十一日	午前六時	午後四時	補半 四改選 一人
婦負郡及富山市ノ内元		七月十一日	午前六時	午後四時	半數 改選 二人

今上天皇明治二十五年

五九九

下新川郡	七月十四日	午前六時	午後四時	中數改選三人
射水郡及高岡市	七月十一日	午前六時	午後四時	中數改選三人
礪波郡	七月十四日	午前六時	午後四時	中數改選二人 補闕選舉一人

〔西礪波郡西中尋常小學校報告〕

招魂碑

政黨之興、大別爲二、曰吏派、曰民派、宮田翁屬所謂民派者、翁名豐四郎、越中國礪波郡若林村人也、考名某、妣紫藤氏、家世業農、爲人淳樸、勇於爲義、會本縣更選縣會議員、設選舉場于郡之出町、支場于般若立野、石動、波波、戶出、井波、福野諸所、若林村屬石動、二派各爭選舉、吏派頗肆猛暴、翁奮曰、吾生遭聖代、何畏彼猛暴而不推選良士、爲乃先其期、一夕拉同志森崎辻田、佐野、藤岡四人、往投石動旅舍、比鷄鳴、戶外驟聞兇漢數十、吶喊襲擊、翁遂斃於證及掛刺之下、年六十四、同志四人亦傷、實明治二十五年七月十四日也、頃者同志者深惜翁之義烈、胥謀建招魂碑、寄狀請余撰文、乃記願末于碑陰、

明治二十六年十二月

從二位勳一等伯爵大隈重信撰

八月乙丑

從五位

牟田口元學書

二十日、甲申德久恒範、富山縣知事に任す、

〔官報〕

明治二十五年八月二十日

任富山縣知事

兵庫縣書記官正六位勳六等德久恒範

非職被仰付

富山縣知事森山茂

十月丙寅

十二日、丁未富山市内に公證事務を開始す、

〔富山地方裁判所調査〕

公證事務

一 富山區裁判所管内

明治廿五年十月十二日、富山市内ニ、役場ヲ設ケ事務ヲ開始ス略○中

二 魚津區裁判所管内

明治三十四年九月廿五日、富山區管内、公證人赤松小一郎兼管ヲ命セラルル（役

場ヲ設ケス

三高岡區裁判所管内

明治廿六年六月廿一日、富山區管内、公證人赤松小一郎兼管ヲ命セラル、高岡市内ニ役場ヲ設ケ、期日ヲ定メ出張事務取扱中、三十一年七月二日、兼管ヲ免セラル

四杉木新區裁判所管内

明治三十四年九月廿五日、高岡管内、公證人岸六郎兼管ヲ命セラル

十一月

七日、礪波郡平村石灰採掘場崩壊し、坑夫等二十四名壓死す、

〔富山縣報〕

告諭第二號

本年十一月七日、管下礪波郡平村大字梨谷村字羽二上ニ於テ、石灰石採掘場ノ巖石俄然崩壊シ、石灰窰及坑夫小屋ヲ潰倒シ、坑夫並ニ運搬人夫二十四名壓死シ、非常ノ慘狀ヲ極メタリ、右崩壊ノ原因ヲ調査スルニ、從來ノ採掘法タル上層ヨリセスシテ、専ラ下層ヲ掘込ミ、自然上層ヲ突出セシムルニ至リタルト、崩壊

セシ近傍ノ巖石ヲ檢スルニ、往々巖面ニ破綻線ノ存スルモノアルヲ見レハ、蓋シ右層ノ突出セシ部分ニ、破綻線ヲ生シ、之ニ雨水ノ滲透シテ、竟ニ其部分ノ崩壊ヲ來シタルモノト察セラル、故ニ該業ヲ營ム者ハ、自今此點ニ心ヲ用ヒ、從來ノ採掘法ヲ改メ、決シテ危險ノ採掘ヲ爲サ、ルハ勿論、能ク巖石ヲ檢シ其質ノ硬軟ニ依テ、適當ノ處置ヲ施シ、豫テ危險ヲ避クルノ方法ヲ講スヘシ、若シ危險ノ虞アリト視認スルトキハ、既ニ許可ヲ與ヘタル場所ト雖モ、隨時其採掘ヲ中止セシムルコトアルニ依リ、不都合ナキ様注意スヘシ、

明治二十五年十二月九日

富山縣知事德久恒範

十日、富山市東堤町火あり、

〔富山市沿革志〕

明治二十五年十一月十日午前二時、東堤町古川小三郎ノ家

ヨリ出火ス、會々南風強ク火勢盛ナルモ、水利ニ乏シク北ニ向ヒテ延焼シ八時ニ至リテ鎮火ス、世ニ布小燒燒失地ハ十四町ニ亘リ、戸數ハ同居等ヲ合セ、全燒總數四百七十四戸、半燒潰家十九戸ニシテ、此ノ外全燒納屋二棟、神社一字ナリ、遠明尋常小學校モ亦此ノ災ニ罹ル、而カモ市中ノ目貫トモ稱スヘキ處ヲ失ヘルハ、洵ニ惜ムヘキナリ、

今上天皇明治二十五年

六〇三

二十六日、戌夜、下新川郡生地町火あり、

〔三日市警察分署調査〕 明治廿五年十一月廿六日午後十時、下新川郡生地町大字生地町、太田重五郎所有濱納屋ヨリ失火シ、家屋五十五、倉庫四、納屋十五ヲ延焼シ、翌日午前七時鎮火セリ、


十二月丁卯

十三日、卯射水郡布勢村に、私立圖書館文庫の開館あり、

〔圖書館設置之趣意書〕

略○上地方教育ノ普及ヲ賛ケ、人智ノ發達ヲ進ムルモノ、唯圖書館在ルノミ、予輩此ニ見ルアリ、微力ヲ顧ミス、力ヲ専ラ之ニ用ヒ、其筋ノ許可ヲ得テ、一ノ圖書館ヲ設立シ、現今圖書ノ數一萬六千八百五十二冊ヲ購セリ、是九半ノ一モニシテ、如カス、今ヨリ一層進シ、以テ聊カ之カ缺點ヲ裨補スルアラントス、抑モ亦人文進化ノ資料ニ供スルニ足ランカ、希クハ幸ニ天下慈善ノ諸士ヨ、地方ヲ自暴スル無ク、贊助ノ勞ヲ取り給ヘ、國家秀才ノ諸子ヨ、天資ノ美玉ヲ自棄スル無ク、依テ以テ此カ彫琢ノ勞ヲ取レ、

明治二十五年十二月十三日開館

富山縣射水郡布勢村富山縣唯一枇杷錢太郎文庫 

是歲、痘瘡流行す、

〔富山縣衛生第三次年報〕

年	號	患死別	痘瘡
明治廿五年		患	一、一三五
		死	三七八

常願寺川の河身改修を行ふ、

〔富山縣内務部土木課調査〕

常願寺川の改修

常願寺川ハ、元ト河幅百間内外ニシテ、堤防ハ所々ニ散在シ、兩岸ナル自然ノ高キ地盤ヲ利用シ、護岸トセシ緩流ニシテ、河底常ニ深ク、島村大字大中島、前ノ如キハ水面ヨリ堤上迄約參間ニシテ、年中水澄ミ魚族モ棲息シタリシニ、安政五年ノ大洪水ハ、流水ト共ニ夥多ノ砂石ヲ流下シ、堤塘ハ悉ク破壊セラレ、非常ノ慘害ヲ極メタルニ依リ、多大ノ勞力ト工費ヲ費シ、堤防ヲ築設セシト雖モ、爾後

今上天皇明治二十五年

六〇五

ハ急流ト變シ、出水毎ニ流下スル砂石ハ河床ニ滯積シ、大日橋上流ハ、河幅ノ廣キ四百五十拾間ニ餘リ、狭キハ幅二百四十間ナルニ拘ハラズ、下流ニ於テ最モ狹小ナル部分ハ、河幅九十間内外ニシテ屈曲甚シキニ依リ停滯セシ土砂ハ積ンテ山ノ如ク、川床ヨリ田面ノ低キコト壹丈以上ニ達シ、加之本川左岸ノミノ灌漑田反別ハ、十七ヶ町村ニシテ、六千五百廿餘町歩ニ要スル、各用水取入口ハ數ヶ所アリ、其ノ取入レニ際シテハ、數多ノ假堰ヲ築造スルヲ以テ、水利ヲ阻碍シ土砂ノ堆積ヲ多カラシメ、洪水ニ際シ堤防ノ破壊ハ、用水口附近ニ多ク、明治拾五年以來、明治貳拾四年迄、拾年間ニ八回ノ破堤ヲ見タリ、就中明治貳拾四年七月拾九日貳拾日兩日ノ大洪水、七月十九日午後一時、岩崎寺村ニテ堤防ノ破堤ハ、本堤貳番堤ヲ合シ、延長四千三百餘間、缺堤ノ延長千二百餘間ニシテ、道路橋梁ヲ破壊シ、田圃及ビ家屋ヲ流出シ、剩サヘ溺死者ヲ生ジ、其慘狀ヤ最モ多大ニシテ、其被害ノ大部分ハ島村地内ニシテ、三ヶ年間同一箇所ニ於テ破壊シ、堆積セシ土砂ハ益々多キヲ加ヘ、全川傾斜シ其ノ下流ニ於テ、從來ノ川床ノ外ニ別ニ自然ノ河川ヲ作ルニ至リ、復舊工事ヲ施スモ、到底其効ナキ而已ナラス、却テ倍々危害ヲ増大ナラシムル虞アルニ依リ、一ハ用水口ヲ合併シ、一ハ築堤ノ大

部分ニ變更工事ヲ起スヲ以テ得策ト認メ、内務省御雇工師「デレ」ケ民ノ計畫ニ依リ、左岸用水ハ合併シ、上瀧町ニテ隧道ヲ穿テ、常西合口用水ヲ、右岸ハ利田村下流用水ヲ合併シ、常東合口用水ヲ新設シ、以テ用水ニ關スル害ヲ除キ、左岸大字上瀧村ヨリ大場前迄、堤防ノ復舊ヲ施シ、大字中川口前ヨリ、流末大字針原横越村迄、堤防ヲ改築シ、右岸大字岩崎寺ヨリ半屋村迄ハ、護岸工事又ハ復舊工事ヲ施シ、大字日置村ヨリ利田村迄、並ニ大字柴草村ヨリ流末大字辻ヶ堂村間、堤防ヲ改築セリ、就中下流ニ於ケル、狭小ニシテ屈曲セル舊川左岸長二千四百餘間、川幅平均九十八間ナリシヲ、新川ハ、左岸長千九百餘間、此川幅百九十間ニ改修シ、以テ停滯セシ土砂ノ排出ヲ計リシ結果、今ヤ本川中常盤橋下流ハ、年々川床ノ低下ヲ示セリ、其低下約三、尺乃至四、尺而シテ變更工事ノ概要ハ左ノ如シ、

常願寺川改修等間數工費

- 一 堤防修築 左岸長一萬八千八百八十餘間、右岸長三千六百三十餘間
- 一同 修繕 左岸長二千六百八十餘間、右岸長二千八百八十餘間

但シ舊川幅ハ約百五十間内外ナルヲ、改修後ノ川幅ハ平均貳百間内外ニ改築セリ、

一工費金九拾五萬七千餘圓ニシテ、潰地買收費金九萬九千五百餘圓、雜費金七千八百餘圓ヲ要セリ、

〔上新川郡藤木尋常小學校報告〕

明治廿四年常願寺川洪水及同二十五年河身改修

常願寺川ハ年々泥砂ヲ流下シ、日ニ月ニ河心ヲ高メ、洪水氾濫シツ、アリシ、就中明治廿四年七月十九日、左岸中川口前堤防ヲ決潰シ、二十一日間本村全部ヲ浸シ、本村總反別七百餘町ノ内、五百四五十町ヲ荒シタリ、且此水害ト前後シテ三回ノ洪水アリ、本村ハ非常ノ苦境ニ陥リ、他國他郡ニ移轉セシモノ百五十戸ニ及ヘリ、依テ同年本縣知事森山茂氏、深ク同情ヲ表シ、政府ニ向テ河身改修ヲ請願シ、時ノ村長島崎良太郎、有志石黒忠左衛門二氏ハ、官廳ニ歎願シ或ハ帝國議會ノ通過ニ盡力セシカバ、明治二十五年政府ヨリ九十五萬圓ノ國庫補助金ヲ下附アリ、縣會又十萬圓ノ費金ヲ支出シ、計壹百五萬圓ヲ以テ、内務省御雇技師蘭人「デレーケ」氏ノ設計ニ依リ、河身ヲ改メ、川幅ヲヒロメ、保岸ヲ堅固ニセシム、是ヨリ川底漸ク低マリ、水勢緩和シ村民安堵スルニ至レリ、此河身改修ニ際シ本村ノ地ニテ川敷ニ收用サレシ反別ハ、正田百町、荒五十町ニシテ買上代金

ハ一反歩ニ付、正田廿四圓、荒四圓ヨリ十圓マテナリキ、

〔中新川郡西水橋尋常小學校報告〕

明治二十五年、時ノ縣知事森山茂氏、常願

寺河身改修ノ大工事ヲ起工シ、本流ヲ今ノ地ニ導キ、字今川下ニ注流セシメンヨリ、以來甚シキ水害ヲ見ス、沿岸ノ民大ニ其堵ニ安ンスルヲ得ルニ至レリ、該工事ノ結果當町ノ田圃ニシテ、潰地トナリシモノ段別十四町二段九畝四歩ナルモ、奔流激川ノ跡變シテ、數百歩ノ砂積トナリ、コレヲ開墾シテ得タル田圃ハ段別十六町七反八畝二十歩ニシテ、爾後又其ノ一部國道線路ニ通スル地ハ改修シテ宅地トナシ、今ヤ商估軒ヲ連ネ其繁華實ニ當町第一等ニ位シ、全ク舊時ノ面影ヲ存セサルニ至レリ、

明治二十六年癸巳

紀元二千五百五十三年

二月 己巳

常願寺川の常願寺橋成る、

〔富山縣内務部土木課調査〕

河川名	橋名	長	幅	竣工年月	摘	要
常願寺川	常願寺橋	一九〇一・一六	三	明治二十六年二月	國道、上新川郡濱島崎村大字平櫻村、中新川郡西水橋町大字辻ヶ堂村	間

今上天皇明治二十五年 二十六年

六〇九

常願寺川ノ改修ニ伴ヒ新ニ架設シタルモノナリ、

三月丁酉

三日、紀巡回教師を置く、

〔富山縣報〕

告示第十二號

明治二十六年度地方稅巡回教師設置方法、左ノ通相定ム、

明治二十六年三月三日

富山縣知事徳久恒範

巡回教師設置方法

第一條 本縣ニ巡回教師ヲ置キ、左ニ掲クル各種ノ實業ヲ傳習ス

織物 絹、双子、木綿、飛白、麻織ノ類ヲ主トス、

染物 紺色、及各種染色、紮染、形付類ヲ主トス、

銅器 美術的意匠及彫鏤ヲ主トス、

漆器 美術的意匠、及各種塗方、髹工ヲ主トス、

酒造 伊丹釀造法ヲ主トス、

製茶 輸出向製茶法ヲ主トス、

製・絲 製絲改良ヲ主トス、

養蠶 飼育方法ヲ親シク當業者ニ講話説示スルヲ主トス、

第二條 前條實業ノ傳習ヲ受ケントスルトキハ、傳習ヲ受クヘキ有志者壹名

又ハ數名協同シ、所轄郡市役所ヲ經テ、本年三月二十日マテニ、出願許可ヲ受

ケ實業傳習所ヲ設置スヘシ、

但養蠶製絲ハ、巡回講話ヲ主トスルヲ以テ、別ニ傳習所設置ヲ要セス、○中

第十條 巡回教師ノ給料及旅費日當ハ、地方稅ヲ以テ之ヲ支辨シ、其他ノ費用

ハ一切設置者ノ負擔トス、○中

五月戊戌

十二日、巳上新川郡東水橋町火あり、

〔滑川警察署調査〕

明治二十六年五月十二日午後三時、東水橋町大字新町大

島清次郎方ヨリ出火、全焼三百廿二戸ニシテ、午後七時鎮火セリ、

十九日、丙辰巡回農事講習所を開設す、

〔富山縣報〕

告示第三十八號

左記日割箇所ニ於テ、巡回農事講習所開設各所每期各五十名ヲ限リ、入所差許候條、志願ノ者ハ各開所前二十日限リ、其旨所轄郡市役所ヲ經、出願スヘシ、

明治二十六年五月十九日

富山縣知事徳久恒範

一 自明治二十六年六月十七日	至同 七月六日	礪波郡福野町大字福野村
一 自同 十一月十一日	至同 月三十日	
一 自明治二十六年七月十二日	至同 月三十一日	高岡市横田町
一 自同 十二月六日	至同 月二十五日	
一 自明治二十六年八月七日	至同 月二十六日	婦負郡古里村大字長澤新村
一 自同 二十七年一月六日	至同 月二十五日	
一 自明治二十六年九月一日	至同 月二十日	上新川郡新庄町大字町新庄村
一 自明治二十七年二月一日	至同 月二十日	
一 自明治二十六年十月十七日	至同 十一月五日	下新川郡入善町
一 自明治二十七年三月一日	至同 月二十日	

但富山市ハ、婦負郡區域、射水郡ハ高岡市區域ニ合併ス、

○日所とも其後異動のものあり、

六月 己巳

三日、^{辛未}工藝品陳列場を高岡市に開設す、

〔富山縣報〕

本縣工藝品陳列場開場報告

來ル六月三日ヨリ、本縣工藝品陳列場開場候條、出品望ノ者ハ、本年四月告示第二十三號、同場規則ニ依リ、出品スヘシ、

明治二十六年五月二十六日

富山縣

〔高岡市沿革志〕

明治二十六年六月三日、富山縣工藝品陳列場ヲ、櫻馬場病院

跡ニ創設ス、

〔參考〕

〔富山縣報〕

富山縣告示第百二十二號

富山縣工藝品陳列場本年九月三十日限リ廢止ス、

明治二十七年九月三十日

富山縣知事徳久恒範

是月、高岡市に北陸新聞發刊あり、

〔高岡警察署調査〕

明治二十六年六月、北陸新聞ヲ發行ス、編輯人ハ西師意ニ

シテ、同二十八年廢刊セリ、

八月 庚午

今上天皇明治二十六年

二十三日、^壬神通川洪水、

〔富山市沿革志〕 明治二十六年八月二十三日、神通川出水シ、水量高點一丈一尺九寸ニ上ホリ、富山市大字ノ内七軒町三十九戸、鐵砲町二十五戸、平吹町五十戸、桃井町百二戸、總曲輪八十七戸、諏訪河原六十七戸、磯町九戸、土居原町十二戸、浸水ス、共ニ計ルニ四百一十一戸ナリ、

二十六日、^乙僧日阜寂す、

〔上新川郡堀川^{新等}小學校報告〕

故日蓮宗管長僧正中田日阜傳

上人名ハ日阜、字ハ秀泰、春應院ト號ス、上新川郡堀川村大字上本郷村ノ産ニシテ、中田治郎兵衛ノ五男ナリ、天保七年五月五日出生ス、九歳ニシテ富山大法寺ニ入り、清師ニ從テ薙髮ス、稍々長シテ優院那日輝ノ道風ヲ慕ヒ、加賀ニ行キ其門ニ入ル、未タ幾ナラスシテ嶄然頭角ヲ現ス、^略○中日阜二十五歳ニシテ、相ノ三浦ニ往キ、居ルコト凡三十年、清淡道ヲ樂ミ、專ラ其真ヲ養ヒ、傍ラ本住大光妙藏三寺ニ歷任シ、且ッ本山大明寺ヲ輔ケテ、其門末三十餘箇寺ヲ統率シ、整釐スルトコロ極メテ多ク、繙素依テ以テ重キヲ爲セリ、日阜相陽ニ在リ、超然寰外ニ表

出シ、無盡ノ風月ヲ吟哦シ、以テ餘生ヲ終ラント欲セシニ、明治維新廢佛毀釋ニ際シ、一家ノ推ス所途ニ辭スルヲ得ス、日薩日修ノ兩先輩ト相提携シ、岡山ニ大坂ニ東京大檀林ニ教師ニ任シ、興學ニ布教ニ一身以テ宗家ニ許スモノ、實ニ十五年ナリキ、而シテ夙夜吃々倦マツルノ極、遂ニ不起ノ病ヲ致セリ、コレヨリ先日薩日修兩先輩ノ管長職ニアルヤ、日阜病軀ヲ提ケテ實ニ其顧問タリ、參謀長タリキ、尋テ日蓮總本山身延山久遠寺ニ入り、第七十六世ノ法燈ヲ挑グ、日蓮宗ノ管長トナルヤ、先師ノ遺志ヲ繼キ、大ニ學徒ヲ集メ、循々トシテ教ヘテ倦ムヲ知ラス、蒙ヲ啓クニ其繼蕃スルトコロヲ以テス、是ニ於テ創立日淺ク設備未完成セサルニ、四方負笈ノ徒、雲集シテ既ニ堂ニ充テリ、然ルニ其講ヲ重ルコト五十回、忽チ病ニ罹リキ、徒衆渴仰ノ情察スルニ餘アリ、而モ其短日月ノ間講學布教ノ傍、御料林永代委託ノ公許ヲ得タルカ如キ、又多年難問題タリキ、大學院ノ設立案ヲ忽チ議決セシメシカ如キ、學德以外別ニ一大手腕ヲ有セルヲ見ルヘシ、コ、ニ於テカ、其成功實ニ闔宗ノ刮目期待セシ所ナリシニ、獅床拂ヲ執ルコト僅ニ一年、明治二十六年八月二十六日、五十七歳ニシテ歟然寂ヲ示ス、惜ムヘキナリ〔中田家記錄ニ依ル〕

九月 辛丑

五日、乙、富山縣農會の組織あり、

〔富山縣農會調査〕

富山縣農會ハ明治二十六年九月五日ノ創立ニシテ、當時縣農事試驗場長山口恭次郎、射水郡藪波淨慧、同瀧水蒸汁、礪波郡上田慶二、上新川郡橋米次郎、下新川郡松井甚作ノ諸氏發起トナリ、礪波農會、射水農會、氷見農會、進德會、矯風會、南中北ノ三婦負農會、野方農會、中央農會、大日本農會、下新川郡支會、青年研農會ノ各代表者ト、富山五番町光嚴寺ニ會シ、一大團結ヲ爲シ富山縣農會ト稱シ、同三十年四月一日、正式ノ發會式ヲ舉行ス、同年五月、縣令第三十七號ヲ以テ、各級農會準則ヲ發布セラレタルヲ以テ、本會ハ町村農會ノ設立ヲ勸誘シ、即チ三十一年十月ヨリ、各町村競フテ之ヲ設立シ、同十二月迄、其數七十八ニ及フ、同三十三年二月、勅令第三十號ヲ以テ、農會令ヲ發布セラレタルヲ以テ、會則ヲ變更シ從來ノ組織ヲ改正シ、上新川郡農會長浮田總淑外六名ノ名義ヲ以テ、富山縣農會設立ヲ、農商務大臣ニ申請シ、同三十三年六月十六日付ヲ以テ認可ヲ得タリ、同三十八年十一月、勅令第二百二十五號ノ發布ニ伴ヒ、同三十九年二月二十六日附

ニテ、農會令ノ條件具備ヲ農商務大臣ニ届出テタリ、
其他各郡農會ノ創立ヲ舉クレハ左ノ如シ、

上新川郡農會	明治二十九年十月二十五日
中新川郡農會	同 年十一月 日
下新川郡農會	同 年十一月二十八日
婦負郡農會	同 年 十月 日
射水郡農會	同 二十五年七月 日
氷見郡農會	同 年十二月二十七日
西礪波郡農會	同 二十九年十二月九日
東礪波郡農會	同 年十一月十五日

〔參考〕

〔富山縣報〕

富山縣令第三十七號

農會規則、左ノ通相定ム、

明治三十年五月二十八日

富山縣知事石田貫之助

農會規則

- 第一條 農會ハ、農事ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス、
- 第二條 農會ハ、町村農會、郡農會、縣農會ノ三種トス、
- 第三條 町村農會ハ、其町村內農業及農業ニ關係アル者ヲ以テ組織ス、但土地ノ便宜ニ依リ、町村組合農會ヲ設クルコトヲ得、市ノ農業者ハ、便宜最寄ノ町村農會ヘ加入スルコトヲ得、郡農會ハ、其郡各町村農會評議員、縣農會ハ各郡農會評議員ヲ以テ組織ス、
- 第四條 農會ニ於テ、施行スヘキ事業ノ概目左ノ如シ、
 - 一 農事試驗場、又ハ模範農場ヲ設クル事、
 - 二 種苗交換會、品評會、農談會開設ノ事、
 - 三 田區改正ノ事、
 - 四 利水排水ノ事、
 - 五 米質米製等改良ノ事、
 - 六 堆積肥ヲ製造シ、餅等ノ高價ナル肥料ヲ減スル事、
 - 七 石灰濫用ヲ防ク事、

八苗代、

- 九 二毛作獎勵ノ事、
- 十 害虫驅除及豫防ノ事、
- 十一 草稗除去ノ事、
- 十二 蔭樹伐除ノ事、
- 十三 蠶桑改良ノ事、附共同稚蠶飼育獎勵ノ事、
- 十四 畜産蕃殖改良ノ事、
- 十五 農具改良ノ事、
- 十六 精農者及其他農事上功勞アルモノニ賞與ヲ行フ事、
- 十七 農事統計及農事改良成績等報告ノ事、
- 十八 森林繁殖保護ニ關スル事、
- 十九 農事ニ關シ、官廳並ニ上級農會ノ諮問ニ應答シ、又ハ意見ヲ開陳スル事、

略

十月 辛未

六日、兩醫會設置規則を定む、

今上天皇明治二十六年

〔富山縣報〕

縣令第六十二號

醫會設置規則左之通相定ム、

明治二十六年十月六日

富山縣知事徳久恒範

醫會設置規則

第一條 開業醫師ハ、左ノ事項ヲ審議スル爲メ、醫會ヲ組織スヘシ、

一 醫學ノ發達、及地方病ノ探究、

二 公私衛生、及傳染病豫防、

三 醫風ノ改良、

四 醫業、及衛生ニ關スル法律規則ノ普及、

五 官公署ヨリ諮詢セル事項、

第二條 醫會ヲ分テ、部醫會、郡醫會、縣醫會ノ三種トス、

部醫會ハ、一郡ヲ數區ニ分割シテ之ヲ設ケ、其區域內在住ノ開業醫師相會ス

ルヲ謂ヒ、郡醫會ハ、一郡市內在住ノ開業醫師全員相會スルヲ謂ヒ、縣醫會ハ

各部醫會ヨリ委員一名市醫會ヨリ委員三名ヲ互選シ相會スルヲ謂フ、

第三條 部醫會、市醫會ハ、一年三回以上、郡醫會、縣醫會ハ、一年一回以上開設ス

ヘシ、○下

〔參考〕

〔富山縣報〕

富山縣令第十五號

明治二十六年、十月本縣令第六十二號醫會設置規則左ノ通改正ス、○規則

明治二十九年三月六日

富山縣知事徳久恒範

富山縣令第十四號

明治二十九年、三月富山縣令第十五號廢止ス、

明治三十二年四月七日

富山縣知事金尾稜殿

富山縣令第十三號

醫師會規則施行細則、左ノ通相定ム、○細則

明治四十年三月一日

富山縣知事川上親晴

〔富山縣警察部衛生課調査〕

明治三十四年、醫籍名簿ヲ調製ス、當時醫師現在

六百六十五名ナリ、

今上天皇明治二十六年

十四日、暴風、海陸共に害を被むる、

〔新湊警察署調査〕

明治二十六年十月十四日、午前六時ヨリ強風微雨ヲ交へ暴風雨トナリ、時ニ間斷スルコトアルモ、漸次風勢ヲ増シ、翌十五日午前二時ニ至リ、海岸一帯ニ激浪起リ、之ニ沿ヒタル家屋五十五戸ヲ全潰シ、半潰ノモノ五十戸、浸水スルモノ六十一戸ニ及ヒ、宅地缺壊八反三畝、道路ノ缺壊三十四間、海岸堤防突堤等缺壊約九百二間、此被害額一萬四千七百四十四圓餘ニ達セリ、

〔越中史略〕

同二十六年十月十四日、同十五日、颶風あり、越中の沿海各地を侵す、即ち新湊、伏木、水見、滑川等、最も大なる害を被りぬ、

十一月 壬寅

十八日、己未上新川郡滑川町等海嘯あり、

〔官報〕

明治二十六年十一月三十日

海嘯被害 富山縣本月十八日ノ海嘯○中被害ノ狀況左ノ如シ、

上新川郡滑川町海嘯被害ノ狀況ハ、本月二十日電報ヲ掲載セシカ、尙ホ其實況

ヲ調査スルニ、同十七日ハ暴風ノ警報アリシモ、唯降雨ノミニテ、風勢ハ左マテ強烈ナラサリシカ、滑川町ハ同日午後十二時頃ヨリ海上波濤穩カナラス、延テ翌十八日午前三時頃ニ至リ、激浪山ノ如ク襲來シ、堤防ヲ破壊シ、陸上ニ打上ケ、沿岸ノ人民ハ、其尋常ナラサルヲ察シ、方ヲ極メテ之ヲ防禦セシモ、其勢猛烈ニシテ殆ト當リ難ク、遂ニ家屋ニ侵入シ、棟柱ヲ摧破シ、屋舎ヲ破壊スル等、頗ル暴威ヲ逞クセリ、之カ爲メ人民逃避ノ際、破壊ノ木材ニ觸レ、或ハ逆浪ノタメニ捲倒サレ、負傷セシ者十二人ニ及ヘリ、又家具ヲ運搬スルノ暇ナク、流失セシ者モアリ、頗ル悲惨ノ狀況ナリシカ、同日午後ニ至リ、稍ク鎮靜セリ、右ノ如ク當時風勢強猛ナラサリシニ、斯ル暴濤ヲ起セシハ、蓋シ沖合ニ於テ颶風ノ起リシニ因ルナラン、其被害ハ左ノ如シ、

- 家屋全潰 二一戸 浸水家屋 六〇戸 波除堤防缺壊 四二〇間
- 家屋半潰 二二戸 國道缺壊 一四間 焚出米ヲ受クル者 三四三人
- 右ノ外同町ニ接近シタル水橋町、早月、加積村、西加積村ノ被害ハ左ノ如シ、
- 堤防破壊 三九八間 田砂入 四町
- 杭木流失 一、二二〇本 浸水家屋 一〇戸

十二月 朔 壬申

片貝川の片貝橋成る、

〔富山縣内務部土木課調査〕

片貝橋ハ、往時加賀藩ヨリ二名ノ川越人夫ヲ指
定シ、毎年人夫一名ニ付銀百目ツ、ノ下付アリ、尙屋敷地五十歩ニ對シテハ免
租アリ、川目毎ニ丸太橋ヲ架渡シ、通行ノ便ヲ圖リタルモノナリ、而シテ出水ノ
際丸太橋流失セハ、竿越ニ又ハ脊越川越人夫ヲ脊瓦フ者ニ依リタルモノニシテ、洪
水連日ニ涉リ通行不能ノ場合ニハ、片貝川ト布施川トノ出會口ノ下流ナル、現
在落合橋附近ニテ、渡船ニ依リタルモノナリト云ヒ傳フ、明治六年十月、銀ノ下
付廢止ニ伴ヒ、川目毎ニ巾六尺餘ノ板橋ヲ架渡シ、橋錢ヲ徴セシカ、二十五年之
ヲ廢止シ、二十六年十二月ニ至リ、經田村大字持光寺村ト天神村大字天神野新
村トノ間ニ、縣費ヲ以テ木橋長サ百間五分幅三間三分三厘ヲ架設シ、片貝橋ト
名ク、

是歲、上新川郡三郷利田用水成る、

〔中新川郡役所調査〕

三郷村利田用水町村組合用水

- 一 用水取入口 中新川郡大森村大字西大森村地内(常願寺川ヨリ)
- 一 灌漑石數 一萬五拾石五斗
- 一 同 段 別 九百二十四町一反五畝歩
- 一 沿革ノ大要 明治二十五年十一月、大森村利田村、舟橋村、東三郷村、西三郷村、
西水橋町ヲ以テ、本用水組合ヲ組織シ、開鑿ハ明治二十五年、同二十六年ノ
兩年ヲ以テ完成シ、工費二萬七千三百圓ヲ要セリ、

痘瘡流行す、

〔富山縣衛生第三次年報〕

傳染病患者

年 號	患 死 別		痘 瘡
明治廿六年	患	死	四、〇九一 九九九

明治二十七年甲午 紀元二千五百五十四年

三月 朔 壬寅

九日、^{庚戌}天皇、大婚二十五年祝典を擧げさせられ、各吏員に酒饌料を、八十歳以上の老人に養老金を下賜せらる。

〔越中史略〕 二十七年三月九日、天皇、大婚二十五年の祝典を行はせ給ひ、奏任官より町村長等に至るまで、酒饌料を賜ふこと差あり、又八十歳以上の高齢者に、養老金を賜ひぬ、この日我越中の各郡市町村にも、到る處として慶賀の式を擧げざるはなく、或は賀表を奉呈し、或は物品を獻納するもの亦頗る多かりき。

〔参考〕

〔富山縣報〕

富山縣訓令第三十二號

郡市役所 町村役場

諸學校

來ル三月九日 聖上 皇后兩陛下、御結婚滿二十五年ノ御祝儀ヲ行ハセラル、ニ付、各學校ニ於テハ、當日休業シ三大節ノ儀式ニ準シ、奉祝ノ意ヲ表スヘシ、
明治二十七年三月二日 富山縣知事德久恒範

四月 ^{癸酉}

一日、^{癸酉}富山市に北陸生命保險會社の創設あり、

〔富山縣内務部勸業課調査〕

北陸生命保險株式會社ハ、明治二十七年四月一日、富山市殿町ニ設立シタルモノニシテ、四十一年八月二十九日、富山地方裁判所ヨリ、解散命令ノ決定ヲ受ケタリ、

二十日、^{壬辰}富山米穀肥料取引所の開設あり、

〔富山市沿革志〕

四月二十日、富山米穀肥料株式會社取引所ヲ常盤町假市場ニ開設ス、米商蟻集シ、議價紛沓タリ、七月二日、米穀肥料株式取引所經營既ニ成リ、殿町本市場ニ移轉ス、關野善次郎、密田兵藏最初ヨリ興リテ大ニ力アリト謂フヘシ、

五月 ^{癸卯}

七日、^{己酉}定期掃除規則を定む、

〔富山縣報〕

富山縣令第三十一號

定期掃除規則左ノ通相定ム、

明治二十七年五月七日

富山縣知事德久恒範

定期掃除規則

第一條 此規則ニ依リ、掃除スヘキ場所ハ、家屋倉庫納屋、其他ノ建物並ニ宅地
(村落ニシテ建物ア) 建物アル地所、地先下水路共同悪水路等トス、
(村落ニシテ建物ナク) 建物アル地所、地先下水路共同悪水路等トス、
 第二條 定期掃除ハ、毎年四月五月ノ間、及十月十一月ノ間、各一回トス、但施行
 ノ期日ハ、其都度郡市長ヨリ告示スヘシ、
 第三條 傳染病豫防上ノ必要アルトキハ、一般若クハ一部分ニ、臨時掃除ヲ命
 シ、又ハ第二條ノ期限ヲ變更スルコトアルヘシ、
 略○下

十二日、寅、上新川郡布倉村を、立山村と改稱す、

〔富山縣報〕

富山縣告示第四十八號

上新川郡布倉村ヲ、自今立山村ト改稱ス、

明治二十七年五月十二日

富山縣知事徳久恒範

十三日、卯、富山市に私立勸工場競商館の開設あり、

〔富山市沿革志〕

明治廿七年五月十三日、私立勸工場競商館ヲ總曲輪ニ開設ス

十八日、庚、消防組設置區域、及び其人員を定む、

〔富山縣報〕

富山縣令第三十五號

消防組設置區域、及其人員、別表ノ通相定メ、即日ヨリ施行ス、

明治二十七年五月十八日

富山縣知事徳久恒範

〔別表〕

消防組名	消防組設置區域	消防組定員	部別	小頭及消防手配置
富山	富山市	三百十九人	第一部	消防手 五人
消防組	一圓	組頭 一人	第二部	消防手 五人
		小頭 十八人	第三部	消防手 五人
		消防手 三百人	第四部	消防手 五人
東岩瀬	上新川郡東岩瀬町	組頭 一人	第五部	消防手 五人
消防組	一圓	消防手 四十六人	第六部	消防手 五人

今上天皇明治二十七年

六二九

消防組	入善	消防組	三門市	消防組	魚津	消防組	上市	消防組	西水橋	消防組	東水橋	消防組	滑川
一團	下新川郡入善町	町一團	下新川郡三門市	一團	下新川郡魚津町	一團	上新川郡上市町	町一團	上新川郡西水橋	町一團	上新川郡東水橋	一團	上新川郡滑川町
內三	內三	內四	內四	內五	內百二十七	內五	內五	內三	內五	內五	內八	內十	內十
消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組
十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	二十七頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭
三人	一人	一人	一人	一人	六十一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人
二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人
第三部	第三部	第三部	第三部	第三部	第三部	第三部	第三部	第三部	第三部	第三部	第三部	第三部	第三部
消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組
十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭
二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人

消防組	泊	消防組	生地	消防組	八尾	消防組	四方	消防組	高岡	消防組	新湊
一團	下新川郡泊町	一團	下新川郡生地町	一團	下新川郡八尾町	一團	下新川郡四方町	一團	高岡市	一團	射水郡新湊町
內五	內五	內六	內五	內五	內六	內五	內五	內五	內五	內五	內五
消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組
十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人
二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人
第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部
消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組	消防組
十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭	十頭
二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人	二十人

消防組	福野	井波	出町	氷見	大門	伏木	小杉
一圓	礪波郡福野町	一圓	礪波郡出町	一圓	射水郡大門町	一圓	射水郡小杉町
內三	內五	內五	內五	內百二十七	內三	內五	內五
消防組十頭三人	消防組十頭一人	消防組十頭一人	消防組十頭一人	消防組十頭一人	消防組十頭三人	消防組十頭一人	消防組十頭一人
三十二人	四十三人	四十三人	四十三人	百六十二人	三十二人	四十三人	四十三人
				第一部			
				第二部			
				消防組十頭			
				六十三人			

二十三日、^{丑乙} 柚田元輔死す、
〔富山市役所調査〕

柚田青貝細工

今上天皇明治二十七年

城端	石動	福岡	福光	戸出
礪波郡城端町	礪波郡石動町	礪波郡福岡町	礪波郡福光町	礪波郡戸出町
內五	內八	內四	內五	內四
消防組十頭一人	消防組十頭一人	消防組十頭一人	消防組十頭一人	消防組十頭一人
四十六人	七十五人	三十七人	四十六人	三十七人

柳田家ハ累世富山藩ノ青貝細工業方ニシテ、藩主二世正甫封ヲ襲フヤ、荷モ一
 技一藝ニ達シ名アルモノハ、其業ノ如何ヲ問ハス廣ク天下ニ求メ、之ヲ祿スル
 ニ吝ナラス、當時柳田家ノ祖先清輔青貝細工ヲ以テ名高ク、京都ニ住ス、正甫召
 シ見其技ヲ賞揚シ、四拾俵ヲ祿シ、藩ノ青貝細工師トシ、其子元輔、父ノ業ヲ繼ギ、
 夫レヨリ代々業方トナリ、柳田家ノ秘法ニ屬シ、他ニ傳フルヲ許サズ、元來柳田
 青貝細工ハ精巧ニシテ、其堅牢無比我國美術界ニ於ケル成功者ノ泰斗ト仰ガ
 レ、其針金象眼ノ如キ、近世ニ至リ、益其聲價ヲ高メ、外人ヲシテ其妙技ニ驚歎セ
 シメ、米國ボストン等ニ於テハ美術館ニ其製造品ヲ標本トシテ陳列シ、又我政
 府ニ向ツテ其傳記ヲ照會シ來ルト云フ、柳田青貝細工ノ特長ハ、其大小貝殼ノ
 組合堅牢ニシテ、配色ノ排列針金ノ象眼、頗ル精妙ヲ極ム、其製法ノ順序一斑ヲ
 記サンニ、初ハ木地ニ地粉トテ砥粉ヲ添ニテ交ゼ合セタルモノヲ塗リ、其上ヲ
 研キオロシ、此クスル三度許リ、夫レヨリ貝殼金銀ノ針金ヲ填メ込ミ漆ヲ塗リ、
 尙幾度モ漆ヲ塗リ、青貝針金ヲ掘リ出シ、研キオロシ、朴炭ニテ磨擦シ、夫レヨリ
 色漆ヲ塗リ、漸ク仕上クルモノニシテ、人物ノ顔ニ使用スル貝ハ和蘭産ノ長貝
 ヲ用ヒタリト、又金唐革塗、布張塗、金梨子地塗等モ堅固ニシテ名アリ、世ニ用ヒ

ラル、藩政時代ニ於テハ金澤大聖寺ヲ始メ、薩摩、長州、越州、熊本侯等ヨリ其製作
 品ヲ愛賞シ、屢富山侯ニ其製造品ヲ得ンコトヲ依頼シ來リ、柳田ニテ其用ヲ達
 シタルニ、各藩主ヨリ挨拶トシテ金員及其封内ニ於ケル名所風景畫ヲ添ヘ寄
 送シ來リ、其繪畫多ク卷ヲナシ、家ニ秘藏シテ其圖案ノ研究ニ資シタリト云フ、
 後代光正能ク父祖ノ業ヲ辱メス、相繼承シテ其技ニ名アリ、
 光正ハ通稱彌平太ト稱シ、富山西横町ニ生ル、人トナリ背高ク腹方ニシテ、温良
 ナリ、幼ヨリ家業ヲ習ヒ、傍ヲ狩野風ノ畫ヲ學ブ、長スルニ及ヒ江戸ニ出テ、其技
 ヲ研キ、青貝細工ニ於ケル圖案ノ改良ヲ謀リ、且ツ研究ノ末、白漆塗ヲ發明シ家
 聲ヲ揚ゲ、又武ヲ嗜ミ、藩士ノ細野經典ノ門ニ入り、小柴山口流ノ擊劔ヲ、須田義
 泰ニ就キ、見日流ノ柔術ヲ修業シ、各其奥義ニ達シ、廣徳館ニ於ケル兩流ノ師範
 役ニ拔擢セラレ、又櫻木流、民彌流ノ居合ヲモ能クス、文化五年正月廿日、藩主武
 術賞覽ニ際シ、其技ヲ演シ大ニ名聲ヲ博シタリ、安政三年八月十五日卒ス、享年
 六十二歳、興國寺ニ葬ル、光明ハ通稱元輔、富山西横町ニ生ル、資性森嚴、質直ニシ
 テ寡言ナリ、兄光正ニ就キ、青貝細工ヲ習ヒ、青年ノ頃京都ニ出デ、其技ヲ研磨シ、
 貝殼ヲソグコトヲ研究シ、得ル所アリ、其技益世ニ鳴ル、又武術ニ出精シ、細野經

典ニ小柴山口流ノ劍術ヲ修メ、須田義春ニ見日流ノ柔術ヲ習ヒ、兄ニ繼キ兩流ノ師範トナル、又原田流ノ鎗及鎖鎌ニモ熟ス、明治二十七年五月廿三日病歿ス、年八十六、大法寺ニ葬ル、

三十日、申、壬下新川郡内山村火あり、

〔三日市警察分署調査〕

明治二十七年五月卅日午前十一時卅分、下新川郡内山村上野二方ヨリ出火シ、家屋神社等、九十九棟ヲ延焼ス、

六月 甲戌

二日、乙政社自由黨支部の組織あり、

〔富山警察署調査〕

明治二十七年六月二日、富山市自由派高橋基一、礪波郡同派武部其文、同郡同派五十嵐政雄、射水郡同派坂井敬義、礪波郡同派上安太郎等ニテ、政社自由黨支部ヲ組織シ、同三十一年八月四日解黨ス、

〔參考〕

〔中越明覽〕

三十年十一月、自由黨總理板垣退助黨勢擴張の爲め富山に來る、

九日、壬午富山開市祭を行ふ、

〔富山市沿革志〕

明治二十七年六月八日、舊藩主利同公、及ヒ利聲公等來富セラル、是ノ日、樂只園、對青閣ヲ聯絡シ、千歲館ト改稱ス、茂樹廻繞シ幽蔭翳蔚タリ、盛夏ノ亭午ト雖トモ暑氣到ラス、殊ニ曠蕩ナルヲ覺ユ、九日ヨリ 三日間更ニ延スナ、藩祖利次公入城紀念ノ爲ニ、開市祭ヲ柳町於保多神社ニ執行ス、國ヲ傾ケテ聚リ觀ル者、管ニ數萬ノミナテス、市中大ニ賑ヒタリキ、十四日、二公暨ヒ伯爵夫八、富山ヲ發シテ東京ノ歸途ニ就カル、

八月 乙亥

三日、丁丑清國と開戦の爲め、海軍豫備後備役下士卒召集令下り、翌日、陸軍第三師團第一充員及後備軍召集、並馬匹徵發の令あり、爾後陸軍の召集五回に及ぶ、

〔陸海軍召集事務功程〕

抄

海軍

下 令 年 月 日 時	召 集 區 別	應 召 人 員
明治廿七年八月三日午前二時廿分 吳鎮守府所在地司令官官印電報	豫備後備役下士卒召集	一三三

今上天皇明治二十七年

六三七

下令年月日時	召集區別	應召人員
明治廿七年八月四日午前十時三十五分 第三師團長桂太郎ヨリ電報	第三師團第一充員及後備軍召集 (馬匹徵發實施)	二、一、一六
明治廿七年八月十九日午後三時二十分 同上	待命後備役砲兵卒召集	四五
明治廿七年九月七日午後三時十分 留守第三師團長ヨリ電報	豫備歩兵大尉岡林三召集	一
明治廿七年九月十七日午後六時三十分 同上	豫備後備看護卒召集	一七
明治廿七年九月廿五日午後二時三十三分 同上	近衛師團充員召集	一七四
明治廿七年十月十三日午後四時十分 同上	工兵豫備後備下士卒在郷 看護手召集	二
計		二、三、五五

〔富山縣内務部社寺兵事課調査〕

明治廿七年八月四日、第一充員及後備軍ノ召集ト共ニ馬匹徵發ノ令アリ、金澤練兵場へ本縣ヨリ應徵シ、檢査ヲ受ケ買上

ケラレタルハ、上新川郡ニ於テ三百四十七頭、礪波郡ニ於テ二百九十八頭、計六百四十五頭ナリ、越エテ十一月又其徵發アリ、富山市ニ集合セシメ、檢査ヲ施行セラレタリ、陸海軍召集事務功程ニ依ル

〔參考〕

〔富山縣内務部社寺兵事課調査〕

應召軍人ノ待遇ニ至テハ、各市町村多少ノ差異ナキニアラズト雖モ、至賦之ヲ送ルノ精神ハ毫モ逕庭ナク、或ハ金品ヲ以テ之ヲ饒シ、酒饌ヲ以テ之ヲ饗シ、其出發ニ際シテハ社頭ニ席ヲ設ケテ之カ健全ヲ祈禱スルアリ、箠ヲ翻シテ舉村之ヲ圍境ニ送ルアリ、沿道各町村ハ大小ノ國旗ヲ掲ケ、飲料水或ハ草鞋ヲ接待シ、夜中ハ提灯篝火ヲ點シ、殆ント祭日ノ觀ヲ呈ス、應召軍人亦意氣凜然先ヲ爭フテ出發シ、遺憾ナク神州男兒ノ特性ヲ發揮シ、其他一般人民モ相會スレハ、談先ツ戰事ニ及ヒ、義氣勃々抑ユヘカラサルノ概アリキ、

〔富山市役所調査〕

二十七八年戰役應召軍人ノ歡送ハ、歩兵第七聯隊ニ入隊スヘキモノニハ、婦負郡東吳羽村白壁茶屋ニ、第三師團所屬ノ各特科隊へ入隊スヘキモノニハ、中野新町端大津賀方ニ、各歡送場ヲ設ケ、酒食及煙草ノ待遇ヲ

ナス、又上新川郡、婦負郡、富山市聯合シテ前記白壁茶屋、其他一二ヶ所ニ歡迎場ヲ設ケ、酒食及煙草ノ接待ヲナス、以上月日ハ不詳ナルモ、各應召員出發ノ都度ニ歡送シ、凱旋毎ニ歡迎セリ、明治廿八年十一月十八日、富山市櫻木町日新樓ニ於テ、將校下士卒一同ヲ招キ盛大ナル凱旋ノ祝宴ヲ開キ、其勞ヲ慰メタリ、

〔日本赤十字社富山支部調査〕

日清戰役ニ際シ、其筋ノ命令ニ基キ、救護員トシテ醫員四名看護人六名ヲ召集派遣シ、陸軍病院船及陸上勤務ニ服サシメタリ、

〔富山縣內務部社寺兵事課調査〕

明治廿七八年戰役ニ際シ、富山市ニハ軍人共濟會、高岡市ニハ報國協會起リ、應召軍人家族中ノ貧困ナルモノヲ救濟シ、各郡ノ町村ニ於テモ同シク亦各町村費若クハ義捐金ヲ醸出シテ、誠意之ヲ救助スルコトニ勉メタリ、陸海軍召集事務功程ニ依ル

〔射水神社々務所調査〕

明治二十七年十月十四日、十五日、皇軍全捷敵國降伏ノ祈禱大祭執行、右ハ當時上京ノ宮司總代ヘ社寺局長ヨリ内命口達アリ、總代宮司ヨリ通知ニ依テ執行ス、同祭ニ於テ式中神符ヲ關ヘ献上セリ、其文左ノ如シ、

今般清國御征討ニ付、廣島 御在營中 玉體御安全、且皇軍全勝速ニ敵國降伏之爲メ、今十五日當神社ニ於テ祈禱祭執行仕、其式中神前ニテ謹慎齋戒調製仕候神符献上致度、送呈仕候間、特別之趣ヲ以テ御執奏相成度、此段相願候也、

明治二十七年十月十五日

射水神社宮司加藤里衡印

宮内大臣子爵土方久元殿

五日、已富山縣物産陳列場を富山市に開設す、

〔富山縣報〕

富山縣告示第八十六號

富山市大字富山山王町ニ、富山縣物産陳列場ヲ設ケ、來ル八月五日ヨリ開場、每日午前九時ヨリ午後四時迄、諸人ノ縦覽ヲ許ス、

但シ臨時休場並ニ時間ノ伸縮ハ、其時々揭示スヘシ、

明治二十七年七月二十二日、

富山縣知事徳久恒範

〔參考〕

〔富山縣報〕

富山縣告示第七十二號

今上天皇明治二十七年

富山縣物産陳列場ハ、明治三十三年三月三十一日限り閉鎖ス、

明治三十三年四月二日

富山縣知事檜垣直右

十一日、^西神通川洪水、

〔富山縣水害誌〕 明治二十七年八月十一日、神通川出水、壹丈參尺參寸、浸水貳

千六百戸五福村堤ヲ崩ス、

〔富山市沿革志〕 明治二十七年八月十一日午前二時ヨリ、神通川出水、十二日

午前二時、最高水壹丈參尺五寸ニ達シ、四時ヨリ減水ス、浸水家屋千九百十二戸、

九月 ^{丙午}朔

十一日、^{丙辰}暴風、家屋の倒潰多し、

〔三門市警察分署調査〕 明治二十七年九月十一日午後八時三十分ヨリ、暴風

強烈ヲ極メ、下新川郡三門市町附近各村ヲ通ジテ、全境家屋神社倉庫等八十七棟、半壊七十九棟ニ及ビ、其他船舶樹木等損害多シ、

〔井波警察分署調査〕 明治二十七年九月十一日、暴風ノ爲メ、利賀村、大字岩淵

村田中徳次郎、外五名ノ家屋納屋倒潰、又ハ半潰セリ、此ノ被害金額八百圓餘ナ

リ、而シテ壹名ノ壓死者アリ、

〔中田警察分署調査〕 明治二十七年九月十一日午後七時三十分強風起リ、中

田町家屋貳棟、寺院壹棟、般若野村ニ家屋七棟、倉庫壹棟、納屋壹棟、梅楨野村家屋

五棟、東般若村家屋五棟、般若村家屋六棟、其他附近各村數十戸ノ潰家アリ、

〔高岡市沿革志〕 明治二十七年九月十一日、西南ノ風大ニ起リ、午後五時乃至

十時ノ間、最モ猛烈ナリシカ、有名ナル七本杉 ^{舊旗屋跡、宇梅山ニ在リ、傳ヘ昔フ、杉ト云フ、其ノ合シテ一トナリシヲ以テ、七本杉ト呼ヘリト、樹ノ幹四丈高サ十三丈五尺ヲ折裂シテ、二本杉トナシ、七本杉神社ヲ破壊ス、}

〔参考〕

〔井波警察分署調査〕 明治二十七年五月四日、暴風ノ爲メ、井波町金谷トコ外

十六名ノ家屋納屋倒潰、又ハ半潰セリ、

十三日、^{午戌}縣民軍事公債の募集に應ずるもの多く、軍資を献納し、軍需品を寄贈するもの前後相踵く、

〔陸海軍召集事務功程〕

明治廿七年九月十五日、本縣下ヨリ内務大藏兩大臣ヘ左ノ電報ヲ發シタリ、

公債申込高百五十萬九千圓、時間後レ謝絶セシ者モ少ナカラズ、
 同月十七日、第十二國立銀行ヨリ左ノ上申ヲ爲シタリ、
 軍事公債申込總額並ニ人員數回報告方御申越ノ趣了承、即チ別紙調製ノ通ニ
 候間、御查收被下度、此段御回報申上候也、

第一回軍事公債申込額面及口數調書

一額面壹百五十萬九千百圓 縣下申込總額

此口數三千八百九十九廉

內譯

額面五十七萬三千七百五十圓 富山代理店

此口數一千百四十七廉

額面十五萬三千圓 魚津出張所

此口數三百四十二廉

額面四十七萬五千四百五十圓 高岡出張所

此口數五百二十八廉

額面三十萬六千九百圓 出町出張所

此口數一千九百八十二廉

前記總額ノ内價額以上ト價格申込トヲ區別スルコト左ノ如シ

價格以上申込額面二十六萬圓

此口數一千六十一廉

價格申込額面壹百二十四萬九千百圓

此口數二千八百三十八廉

右之通ニ候也、

第一回軍事公債募集ノ際富山縣内ニ於テ應募申込及募入内外調書

應募		募入		募集外	
額面	口數	額面	口數	額面	口數
一、五〇九、一〇〇 _圓	三、八九九	六二二、二五〇 _圓	二九四六	八八六、八五〇 _圓	九五三

〔株式會社十二銀行調査〕

當行及縣下各支店ニ於テ取扱ヒタル日清戰役ノ軍事公債ハ左ノ如シ、

第壹回 明治二十七年九月十三日

應募額 一、五〇九、一〇〇_圓

募入額 六二二、二五〇
 第二回 明治二十七年十二月十五日
 應募額 九一一、六〇〇
 募入額 七三八、一〇〇

〔富山縣内務部社寺兵事課調査〕 明治二十七八年戰役ニ際シ、本縣人ニシテ陸軍及ヒ海軍ニ向テ軍資ヲ献納シ、或ハ恤兵部へ物品金員ノ寄贈ヲ爲セシモノ前後相踵キ、其額頗ル多キニ達セリ、陸海軍召集事務功程ニ依ル

十月丙子

二十日、乙未礪波郡戸出町火あり、

〔戸出警察分署調査〕 明治二十七年十月二十日、戸出町大字戸出村ヨリ出火

恰モ暴風ニ際シ、忽チ六十戸ニ延燒ス、

十一月丁未

十九日、乙丑礪波郡護國八幡宮、縣社に列せらる、

〔富山縣内務部社寺兵事課調査〕

縣社

鎮座地名	社名	境内坪數	昇格年月日
地生村大字	護國八幡宮	八六二九 <small>坪</small>	明治二十七年十一月十九日

二十日、丙寅富山縣工藝學校を開始す、

〔富山縣報〕

富山縣告示第百五十九號

本縣立師範學校ヲ除ク既設學校、左記ノ通改稱ス、

明治三十四年十月四日

富山縣知事 檜垣直右

舊校名	改校名
富山縣工藝學校	富山縣立工藝學校

○他校
省署

〔富山縣工藝學校調査〕

明治二十七年十一月二十日、教授開始同十二月九日

開校式ヲ舉行シ、三十三年九月新築校舍ニ移轉、十二日ヨリ授業ヲ開始ス、

〔參考〕

〔高岡市沿革志〕

明治二十六年十二月二十二日、富山縣會ニ於テ、議員五十嵐

政雄、工藝學校設立ノ建議ヲ提出シ、滿場一致ヲ以テ之ヲ通過ス、其ノ趣意タル、

今上天皇明治二十七年

六四七

略上更ニ眼球ヲ我カ富山縣ニ轉スレハ、物産陳列場アリ、工藝品陳列場アリテ、名ハ異ナリト雖トモ其ノ實ハ則チ同ジ、夫レ彼ノ高岡市タル、工藝上最必要ノ地ナルヲ以テ、今ヤ帝國議會ハ方サニ停會中ニ係ルモ、他日實業教育費國庫補助法案ニシテ、幸ニ上下兩院ヲ通過スルノ時機ニ際セハ、勸業費中ノ巡回教師ハ、工藝學校在勤トシ、工藝品陳列場ニ在ル物ハ一切之ヲ學理講究ノ材料トシ、標本トシテ存留セラル、ハ論ナク、該場ヲ工藝學校ニ引直シ其ノ經費ハ五ヶ年以上繼續支出ノ目的ヲ以テ、議案ヲ編成シ、臨時縣會又ハ二十八年年度通常縣會ニ下付セラレンコトヲ希望ス、

〔富山縣報〕

富山縣告示第三百三十號

今般工藝ノ學校ヲ設置シ、其名稱位置左ノ通相定ム、

明治二十七年十月二十二日

富山縣知事徳久恒範

名	稱	位	置
富山縣工藝學校			富山縣高岡市舊旅屋門前

三十日、^西夜學の設立を獎勵す、

〔富山縣報〕

富山縣訓令第二百二十二號

郡市役所 町村役場

市町立小學校

學制頒布已來、茲ニ二十有三年、國民教育ノ必要今更言ヲ俟タス、然ルニ縣下學齡兒童就學ノ數ハ、未タ六分ニ達セスシテ、而テ其日々出席生又其半ニ過キス、明治ノ青年輩ニシテ、無教育ニ過クル者其數幾許ナルヲ知ルヘカラス、試ニ國縣市町村ニ於ケル、議員選舉ノ狀況ヲ見ルニ、自他ノ姓名ヲ書スル能ハス、貴重ノ權利ヲ他人ニ依託シ、甚キハ之ヲ放棄スル者、所在ニ其例少ナカラス、今ヤ人文開達殖産興業富國強兵ノ急務ハ、日一日ヲ爭フノ氣運ニ際シ、如此無教育者ノ多キハ、實ニ彼等自身ノ不幸ノミナラス、又實ニ一村一郡ヨリ、施テ國家ノ不幸ト云フヘキナリ、

願フニ此等無教育ノ子弟ノ多數ハ概ネ父兄ノ爲メニ家事ヲ助ケ、就學ニ暇ナキ者ナレハ、本年訓令第三十一號補習科設置準則ニ據リ、夜學ヲ開キ就學生徒

ト合セテ、老幼男女ヲ問ハス、該子弟ヲ入レ、世間普通ノ禮儀作法ト、假名文名頭、町村名、八算等、極テ卑近ノ事ヨリ始メ、漸次修身道德ノ要、日用必須ノ書算ヲ教ヘ、以テ國民ノ徳性ヲ養ヒ、又業務ニ適切ナル知識技能ヲ授ケ、家ニ不學ノ父兄、子弟ナカラシムルハ、最モ當ニ努ムヘキノ急務トス、今ヤ農隙ニ向フ、宜ク速ニ茲ニ着手シ、國家教育ノ本旨ヲ達センコトヲ謀ルヘシ、又青年子弟ヲ教育シテ、風俗人心ノ進歩ヲ圖ル、亦補習科ノ主眼タレハ、克ク其意ヲ體シ、實効ヲ奏スルコトヲカムヘシ、

但設置ノ儀ハ、伺出ニ及ハス、其都度報告スヘシ、

明治二十七年十一月三十日

富山縣知事徳久恒範

十二月 丁丑

十一日、富山縣簡易農學校を開始す、

〔富山縣立農學校一覽〕

本校ハ元富山縣簡易農學校ト稱シ、明治二十七年十月二十九日ノ創設ニ係ル、是ヨリ先本縣礪波郡神島村ニ高木太八郎ナルモノアリ、本縣農業ノ振ハサルヲ慨シ、農學校ヲ創立セントシ、縣下有志ノ士ニツキ、切ニ農學校設立ノ必要ヲ

唱道シ、創立費トシテ礪波郡内ニ於テ已ニ二千五百餘圓ノ寄附金ヲ得タリ、茲ニ於テ事情ヲ具シ、其設立ヲ縣ニ請願セリ、然ルニ縣ハ此ノ資金ハ未ダ以テ農學校ヲ設立スルニ足ラストシテ、コレヲ却下セリ、時ニ同郡權正寺村ニ島巖ナルモノ、高木ノ説ヲ聞キ大ニ之ヲ贊シ、均シクマタコレカタメニ奔走セリ、然レドモ不幸中途ニシテ病歿ス、ソノ際家産ノ一部ヲ割キ農學校設立ノ資ニ供セシコトヲ遺言セリ、

遺族ハ即チ之ヲ縣ニ請ヒシニ、縣ハ其ノ請ヲ容レ、一時係官ヲ設ケテコレヲ保管セシムルコト、ナレリ、時ニ明治十九年ナリキ、コレ等熱心家ノ奔走及資金ノ寄附等輿論ヲ喚起シ、遂ニ明治二十七年十月廿九日、本縣告示第一三五號ヲ以テ礪波郡福野町大字福野村ニ簡易農學校設立ノ旨公示、同日縣令第六四號ヲ以テ校則ヲ制定シ、同年十一月二日、告示第一三六號ヲ以テ生徒ヲ募集ス、同年十一月六日、當時福野町長山田七彦ヨリ校舍一棟及敷地七反七畝歩ヲ寄附セリ、コノ校舍タルヤ元礪波郡立高等小學校々舍ニシテ、破損甚シク、授業上不便ナルヲ以テ急ニ修繕工事ヲ施シ、同年十二月十一日ニ至リ、漸ク生徒ヲ登校セシメ、授業ヲ開始スルニ至レリト雖モ、寄宿舎修繕未タ竣工セサリシヲ以

テ、遂隔地ヨリ、來レル生徒ハ一時民家ヲ借り、コレニ寄宿セシメ、同二十八年一月七日ニ至リ、本校寄宿舎ニ入舎セシメタリ、○下略

〔富山縣報〕

富山縣告示第三百三十五號

今般簡易農學校ヲ設置シ其名稱位置左ノ通相定ム、

明治二十七年十月廿九日

富山縣知事徳久恒範

名	稱	位	置
---	---	---	---

富山縣簡易農學校 富山縣礪波郡福野町大字福野村

富山縣令第十九號

本縣東礪波郡福野町本縣簡易農學校ヲ本年三月三十一日限り廢止シ、同年四月一日ヨリ同所ニ於テ富山縣農學校ヲ設置ス、

明治三十一年三月十二日

富山縣知事阿部浩

富山縣告示第六十八號

富山縣婦負郡八尾町立八尾蠶業學校ヲ縣立ニ變更シ、富山縣農學校八尾分校ト改稱ス、

明治三十四年四月十三日

富山縣知事檜垣直右

富山縣告示第五百五十八號

本縣立(師範學校ヲ除ク)既設學校左記ノ通改稱ス、

明治三十四年十月四日

富山縣知事檜垣直右

舊校名

改校名

富山縣農學校

富山縣立農學校

富山縣農學校八尾分校

富山縣立農學校八尾分校

○他校
省略

〔參考〕

〔富山縣立農學校調査〕

島巖死ニ臨ミ作リタル遺言狀左ノ如シ、

死後相續人無之ニ付配當方願、

一金千圓也

妻きくいへ

一金參百圓也

祖母へ

是ハ阿尾村孫八方へ同居爲仕度、

一金貳百圓也

繼母へ

今上天皇明治二十七年

六五三

是ハ大谷村頼兼方ニ同居爲仕度、

一金貳百圓也

別家島應則ハ世話料

一金百圓也

手代理三郎ハ世話料

一金六百圓也

死後諸拂方見込

金貳千五百圓也

殘ル地價山地建物立木不殘

是ハ農業學校ハ獻金仕度候間、此金高ヲ以テ農學校ニ御取立名稱ノ儀ハ

島巖學校ト被仰付候、

右病中別リ兼候次第も可有之御座候得共、此段御聞届被下候様奉願上候、死後

代理之儀ハ代人理三郎ハ被命度候也、

明治十二年八月二十七日

越中國礪波郡權正寺村島巖印

石川縣令千阪高雅殿

十二日、子、戊激浪沿海を害す、

〔滑川警察署調査〕

明治二十七年十二月十二日、暴風雨、夜滑川沿海高波起リ、

滑川町大字西町ノ海岸ニ沿ヒタル箇所ニ於テ、家屋拾貳棟、其他ノ建物貳拾四

棟ヲ破壊シ、突提三ヶ所、梓七拾四箇ヲ流失セリ、

〔四方警察分署調査〕

明治二十七年十二月十三日、有磯海激浪ヲ起シ、四方町

ニ家屋三戸、納屋壹棟破壊シ、浸水家屋二十戸、道路二十四間、波除梓三個ヲ破壊

シタリ、

是月、礪波郡出町に、株式會社中越銀行設立あり、

〔富山縣統計書〕

明治三十九年

會社

會社名稱	營業種別	所在地名	設立年月	資本額	總額	拂込済額
株式會社中越銀行	銀行及貯蓄業	東礪波郡出町	二十七年十二月	七五〇、〇〇〇圓	四二二、五〇〇圓	

是歲、赤痢病流行す、

〔富山縣報〕

富山縣告諭第二號

赤痢病は、古來各地に發生せしも、其著きは明治十三年、四國九州の地方に流行し、爾來一年と其蔓延の勢を加へ、○中本縣は昨年中、高岡市、射水、礪波の二郡

今上天皇明治二十七年

六五五

の幾部に發し、其患者四百六十一人、死亡百三十四人にして、滅盡の期を見られたるも、今年には各郡市に發生し、僅々兩三月ならざるに、早く已に患者五百七十五人、死亡百四十六人の多きに至り、且發病の期は前年に比すれば頗る早く、^{○中}各自戒慎注意し、該病の慘苦に罹るなきを勉むへし、

明治二十七年八月二十一日 富山縣知事徳久恒範

富山縣告諭第一號

赤痢病豫防の事に付ては、從來告諭し訓令し、自衛の注意を喚起せしこと、一再ならざりし、昨二十七年、管内の總患者三千五人、死亡九百二十一人を、總人口七十八萬四千六百六十人に比すれば、^{○中}左表の如し、^{○中}

明治二十八年四月十九日 富山縣知事徳久恒範

○左表

郡市名	人口	患者	死亡	人口千人ニ對スル比例	
				患者	死亡
上新川郡	一五二、五五〇	一九八	四五	一、二九	〇、二九
				二、二九	二、二七

婦負郡	七五、三五一	七七	一七	一、〇二	〇、二三	二、二〇	七
下新川郡	一一八、四〇三	一、四三三	四一〇	一二、一〇	三、四六	二八、六一	
射水郡	一四四、九一〇	七四一	二五二	五、一一	一、七三	三四、〇〇	
礪波郡	二〇四、一九七	四七二	一七一	二、三二	〇、八三	三六、二二	
富山市	五九、一五四	一四	三	〇、〇二		二、四二	
高岡市	三〇、〇九五	七〇	一三	二、三二	〇、七六	三二、八五	
全管内	七八四、六六〇	三、〇〇五	九二二	三、八二	一、二七	三〇、六四	

井田川、改修工事あり、

〔婦負郡東吳羽尋常小學校報告〕

井田川ハ、東吳羽村ノ中央ニ深く入込ミ、水害ヲ被ルコト甚ダシキノミナラズ、河川灣曲多ク數多ノ面積ヲ要シタリシガ、明治二十七年、東吳羽村外ニケ村、神明村、鶴坂村、協議決定ノ上、繼續事業トシテ、三万三千圓ヲ支出シ、外ニ縣補助七千圓ヲ以テ、工事ニ着手シ、遂ニ神通川落合迄一直線ニ河線ヲ改修シタリ、之レガタメニ水害ノ厄ヲ免ル、ノミナラス、舊河線ハ漸次耕作ヲナスヲ得ルニ至レリ、

今上天皇明治二十七年

六五七

明治二十八年乙未

百五十五年

一月 朔 戊申

富山市に基督教會の創設あり、

〔富山縣内務部社寺兵事課調査〕

教會講義所

所在地	名	稱	信徒	設	立
富山市鹿島町	聖母	教會	二〇	明治二十八年一月	
富山市二番町	日本メソヂスト	富山教會	五七	明治三十一年七月	明治三十一年七月十五日三派合同許可
高岡市二番町	日本メソヂスト	高岡講義所	一〇	明治三十一年七月	明治三十一年八月四日三派合同許可
富山市總曲輪	日本基督教會	富山講義所	四五	明治三十三年十二月	
射水郡小杉町大字小杉三ヶ町	日本基督教會	小杉講義所	一	明治三十九年八月	
下新川郡魚津町大字荒町	日本メソヂスト	魚津教會	一三	明治四十一年七月	明治四十一年七月三派合同許可

三月 朔 丁未

二十七日、^癸神通川洪水、

〔富山縣水害誌〕

明治二十八年三月二十七日、神通川出水一丈二尺、浸水二千

餘戸、

四月 朔 戊寅

十六日、^巳婦負郡八尾町火あり、

〔八尾警察署調査〕

明治二十八年四月十六日、八尾町大字下新町、加澤美邦方ヨリ出火、南風烈敷タ
メニ戸數八十戸餘全燒ス、

二十四日、^辛富山市上り立町火あり、

〔富山警察署調査〕

明治二十八年四月二十四日、午前零時二十分、上り立町四

十二番地書籍店福田榮太郎(清明堂)ヨリ出火、南風強ク忽チ大火トナリ、全町及
東西兩仲間町各一部ト、北新町全部燒失、全午前三時三十分頃鎮火ス、此類燒家
屋二百戸ナリ、

清水町免許地貸座敷營業者ノ多クハ、明治二十八年以前ハ北新町ニ居リシモ、
全年四月大火ニ罹リタル爲メ、全年八月十一日縣令第六十三號ヲ以テ、免許地
ヲ削除セラレ、同時ニ現在ノ地ヲ指定セラレタルモノナリ、

今上天皇明治二十八年

五月 戊申

十二日、^未射水郡横田村に、高岡紡績株式會社成る、

〔高岡警察署調査〕

高岡紡績株式會社ハ、明治二十六年八月十日、射水郡横田村大字横田村ニ建築シ、二十八年五月十二日、綿糸ノ製造及販賣ヲ開業シ、二十九年七月廿一日、八月二日ノ兩度、未曾有ノ大洪水ニ際シ、多大ノ損害ヲ受ケ、三十三年六月、高岡市内電燈事業ヲ竣工シタルモ、同月二十六日、大火災ノ爲メ、電柱電線等ヲ焼失シ、又大損害ヲ被ムリ、遂ニ三十七年一月閉社シタリ、三十七年九月二十二日、更ニ舊會社ノ建物、諸器械ノ全部ヲ繼承シ、高岡紡績合名會社起リ以テ今日ニ至ル、機關ハ蒸汽機關二百六十四馬力ノモノヲ用ユ、

十六日、^亥婦負郡八尾町火あり、

〔八尾警察署調査〕

明治二十八年五月十六日、八尾町大字下新町、宮腰義平方ヨリ出火シ、戸數六十戸全燒ス、

六月 己卯

二十八日、^丙避病院を設置すべき市町を指定す、

〔富山縣報〕

富山縣訓令第七十六號

郡市役所 町役場

避病院ヲ設置スヘキ市町、左ノ通指定候條、來ル七月三十一日迄ニ、設備ヲ完了シ、市長及町長ヨリ其旨報告スヘシ、

明治二十八年六月二十八日

富山縣知事德久恒範

富山市

高岡市

上新川郡ノ内 滑川町

東水橋町

東岩瀬町

新庄町

婦負郡ノ内 四方町

下新川郡ノ内 魚津町

泊町

生地町

射水郡ノ内 氷見町

新湊町

礪波郡ノ内 出町

石動町

井波町

福光町

七月 己酉

十四日、^壬歩兵第七聯隊第一大隊金澤に凱旋し、應召軍人日々歸還す、

〔陸海軍召集事務功程〕

今上天皇明治二十八年

明治二十八年六月廿三日、第三師團司令部ヨリ左ノ電報達セリ、

第三師團司令部ハ今夕宇品ニ到着ス、○中略

七月十三日、及十七日付ヲ以テ、富山大隊區司令部ヨリ左ノ通知アリ、

歩兵第七聯聯第一大隊ハ十四日凱旋、十六日復員ス、○同隊は富山縣の壯丁を以て組織さるゝの

神通橋詰軍人歡迎所ノ概況

本縣ヨリ臨時召集ニ應シタル豫後備兵ノ解隊歸郷スル者ヲ歡迎スル爲メ、縣廳、裁判所、大隊區ノ官吏共同シテ、神通橋詰ニ歡迎事務所ヲ設ケ、明治廿八年七月十日ヨリ同月十九日マテ軍人ヲ迎ヘタリ、今其歡迎ニ關スル準備等ノ概況ヲ舉クレハ左ノ如シ、

歡迎所ノ裝飾ハ、神通橋ノ南詰ニ六間半幅四間餘ノ綠門ヲ建設シ、門柱ノ右方ニ「歡迎軍人諸君之凱旋」左方ニ「富山縣廳富山裁判所富山大隊區官吏一同」ト、大ナル杉皮ニ白字ヲ以テ大書シ、門上ノ表面ニ扁額ヲ掲ケ、「祝凱旋」ト三大文字ヲ菊花ニテ造出シ、裏面モ小豆ト粟ニテ同文字ヲ造出セル扁額ヲ掲ケ、綠門ノ周圍ニ小形ナル國旗及聯隊旗數百本ヲ挿入シ、表面扁額ノ上ニ大國旗ヲ交叉ス、

而シテ綠門ヲ隔ツル六尺許ニシテ赤白ノ大吹流二旒ヲ樹テ、其二旒ノ間ニ數十ノ球燈ヲ吊シ、此ヨリ橋上ノ兩側ニハ（其長サ百廿七間）高低アル小柱ヲ樹テ之ニ繩ヲ張り、大小ノ國旗聯隊旗及球燈數百ヲ交吊シ、橋ノ北端ニ至リテハ方二間ノ二大國旗ヲ交叉シ、其前面ノ右方ニ「凱旋軍人諸君ハ橋向ノ休憩所ニ於テ御休憩ヲ乞フ」ト大書シテ標示シ、尙ホ之ヲ隔ツル五六間ニシテ、黃赤青ノ二大吹流ヲ樹テ、又綠門ト助作橋ノ間ニハ官道ノ兩側ニ長柱ヲ樹テ、之ヨリ富士山形ニ繩ヲ張り、之ニ國旗及黃紫赤或ハ赤白ノ旗並ニ球燈ヲ吊シ尙ホ之ト綠門ノ間ニ赤地ニ「祝凱旋」ト白字ニテ書シタル大旗ノ二本ヲ樹テタリ、而シテ橋詰ノ兩側ニ在ル藏本野崎ノ二茶店ヲ以テ、休憩所ニ充テ、其休憩所ノ裝飾ハ茶店二軒ノ前ニハ、各方三間ノ假屋ヲ造リ、柱ハ殘ラス杉葉ヲ以テ包ミ、屋根ハ簾ヲ以テ掩ヒ、紫及白ノ幕ヲ繞ラシ其上ニ小國旗ヲ樹テ、球燈ヲ吊シ、出入口ニ國旗ヲ交叉ス、而シテ其内部ニハ卓上ニ白木綿ヲ敷キ、花瓶ヲ設ケ、周圍ニハ軍人ニ供スル酒肴卷烟草及冷シタル麥茶等ヲ陳列シ、又卓ノ周圍ニ革椅子等ノ腰掛ヲ配列シ、又手桶金盥等ヲ備ヘテ汗ヲ洗フノ用ニ供ス、事務所ハ藏本屋ノ座敷ヲ借受ケ之ニ充テタリ、

以上ハ準備ノ概略ニシテ、凱旋軍人ノ神通橋ニ至ルヤ、豫テ備置ノ喇叭手ニ喇叭ヲ吹キ合圖ヲ爲スヤ、縣廳裁判所大隊區歡迎人ハ橋上ノ右側ニ整列シ、軍人其前ヲ通過スル比、一同萬歳ヲ唱ヒ了シ、歡迎委員進ンテ軍人ヲ導キ休憩所ニ入ラシメ、是ニ於テ吉見委員長及縣廳裁判所大隊區等ノ各高等官始メ委員ハ、軍人ノ凱旋ヲ祝シ、寒暑ヲ問シテ遠征シタルヲ暢ラヒ、酒肴ヲ侑ムル等、凱旋軍人ヲシテ大ニ満足ヲ得セシメタリ、

右歡迎ノ爲メ特ニ委員ヲ撰定セリ、委員及歡迎人ハ常ニ櫻花ノ徽章ヲ佩用セリ、○中略

歡迎事務所開設中通過セシ軍人數ハ左ノ如シ、

一總數四百九十八人

内六十一人 富山市

二百二十三人 上新川郡

百二十九人 下新川郡

十 六 人 婦負郡

六十九人 岐阜縣人

〔第三師團司令部調査〕

一明治二十七八年戰役、歩兵第七聯隊第一大隊ノ出征、及凱旋ノ年月日、隊ハ同大

中の壯丁を以て組織されたるもの

明治二十七年九月八日、明治二十七八年戰役從軍ノ爲メ宇品港出帆、同二十八年六月二十四日凱旋ノ爲メ大連出帆、七月十四日金澤ニ凱旋、

一同戰役中同大隊ノ參加セシ重ナル戰鬪地名及其年月日

明治二十七年十二月十一日 二道河子附近ノ戰鬪ニ參加

同 年同 月十二日 柝木城附近ノ戰鬪ニ參加

同 年同 月十三日 海城附近ノ戰鬪ニ參加

同 年同 月十九日 缸瓦塞附近ノ戰鬪ニ參加

同 二十八年一月十七日 海城防戰ニ參加 (第一回)

同 年同 月廿二日 同 (第二回)

同 年二月十六日 同 (第三回)

同 年同 月廿八日 石頭山及砂河沿附近ノ戰鬪ニ參加

同 年三月四日 牛莊城陷ニ參加

同 年同 月七日 田庄臺威力偵察 (第一回)

同 年同 月八日 同 (第二回)

同 年同 月九 日 田庄臺攻撃ニ參加

一步兵第七聯隊第一大隊長官氏名外征中

陸軍歩兵少佐 内藤新一郎

二十八日、^河神通川、常願寺川、黒部川洪水、浸水家屋多し、

〔富山縣水害誌〕

明治二十八年七月二十八日ノ大水

一神通川 一丈二尺八寸

一常願寺川 一丈堤防被害六百四十間

一黒部川 一丈二尺

〔富山警察署調査〕

明治二十八年七月廿八日神通川出水シ、浸水家屋五千七

百三十二戸ナリ、

八月^{庚辰}朔

四日、^{癸未}神通川出水、六日庄川、八日黒部川出水、

〔富山縣水害誌〕

明治二十八年八月四日神通川出水、一丈二尺三寸、浸水千八百

餘戸

〔富山縣警察部保安課調査〕

明治二十八年八月六日庄川出水、東開發村堤防

ノ破壊九十二間、欠塚三百十間ニ及ブ、

明治二十八年八月八日、黒部川出水、堤防ヲ欠塚スルコト八十間、山林ヲ流失ス

ルコト六百六十歩、田畑ノ流損五千八百二十歩ニ及ブ、

〔参考〕

〔富山縣内務部會計課調査〕

二十八年度土木費國庫補助金二十萬六千百圓

十二月^{壬午}朔

十六日、^{丁酉}明治二十七八年戰役戰死者の靈を、靖國神社に合祀せらる、

〔陸軍大臣官房調査〕

富山縣出身陸軍々人軍屬靖國神社合祀人員

戰役別	合祀年月日	員數
明治廿七八年戰役	明治二十八年十二月十六日	三五
同	明治二十九年五月六日	二

同	明治二十九年十一月六日		二
同	明治三十一年十一月四日		一三三
同	明治三十二年五月六日		二

一合祀年月日ハ、孰モ合祀大祭ノ初日ヲ掲ク、
 二明治十年西南役ノ際、今ノ富山縣ハ石川縣ニ屬シ、合祀名簿ニハ郡名ノ記載
 ナキヲ以テ、遡リテ其本貫ヲ區別スルコト能ハス、

〔富山市役所調査〕

二十七八年役戦死

戦死年月日	戦死場所	戦死當時ノ住所	官等	氏名
明治二十七年九月十七日	濟國大孤山沖波海ノ戦役ニ於テ戦死(橋立編第一分隊長)	富山市千石町	大尉	高橋義篤
同上	(吉野艦乗組)	同 西四十物町	少尉	淺尾重行

〔参考〕

〔富山縣内務部社寺兵事課調査〕

明治二十七八年役戦病死者左ノ如シ(中新川郡調査未詳)

將校二人 下士四人 兵卒百五人 計百一十一人

〔前田侯爵家調査〕

二十七八年戦役ニ於ケル吊慰金リ〇前田侯爵家ヨ

郡市	種目		戦病死者		吊慰金	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額
上新川郡	一	二〇	一	一六	一	二〇
中新川郡	—	—	—	—	—	—
下新川郡	二	四〇	二	二〇	二	二〇
婦負郡	—	—	—	—	—	—
射水郡	三	六〇	一	一六	一	一六
氷見郡	—	—	—	—	—	—
東礪波郡	—	—	—	—	—	—
西礪波郡	—	—	—	—	—	—

富山市	一〇	五〇
高岡市	一〇	一〇
計	一四〇	一三〇〇

備考 將校ハ金五拾圓宛、准士官下士ハ金貳拾圓宛、兵卒ハ金拾圓宛、但舊富山藩領地人ハ各其半額

〔前田伯爵家調査〕

日清ノ役、戰病死軍人遺族ニ對スル惠與金調リ○前田伯爵家

種別	戰病死者吊慰金		救護金	
	人員	金額	人員	金額
將校	二人	拾四圓	二人	拾四圓
兵	三人	四圓五拾錢	三人	四圓五拾錢
計	五人	拾八圓九拾錢	五人	拾八圓九拾錢

是ハ則舊領地タル富山市、婦負郡、及上新川郡ノ内舊領地ニ關スル部分ノ出征軍人下士兵卒ノ家族貧窮扶助費トシテ富山縣總へ依願寄附セシメ

備考 准士官下士該當ナシ

是歲、虎列刺病流行す、

〔富山警察署調査〕

二十八年ニ於ケル、虎列刺病ノ流行ハ、六月十八日以來、射水郡下村ニ該患者初發シ、次ニ七月十五日上新川郡滑川町ニ、同富山市西中野町ニ、同二十二日婦負郡杉原村ニ、同二十四日高岡市守山町ニ、同二十七日下新川郡魚津町ニ、八月三十一日礪波郡石動町ニ續發シ、射水、上新川郡ハ千人以上ノ患者ヲ發生シ、之レニ次ゲハ富山市、婦負郡、高岡市、下新川郡ニシテ、礪波郡最モ少數ナリシ、

〔富山縣報〕

富山縣告示第百一號

本年ハ内務省告示第百一號ヲ以テ、本縣ニ臨時檢疫部設置ヲ指定セラレタルニ依リ、本日ヨリ開設ス、

明治二十八年八月二十五日

富山縣知事 徳久恒範

富山縣訓令第百十八號

富山縣尋常師範學校

富山縣尋常中學校

傳染病流行ニ付、當分其學校授業ヲ停止ス、

明治二十八年八月三十日

富山縣知事徳久恒範

富山縣令第七十三號

虎列刺病流行ノ勢、猛烈ナルヲ以テ、更ニ自今本縣全管下ニ於テ、神社ノ祭典、社寺、教會所ノ説教、寺院ノ法會、演劇諸興行等ヲ差止ム、

但、礪波郡ニ於テハ、石動町ノ外ハ、當分本令ヲ適用セス

明治二十八年九月十三日

富山縣知事徳久恒範

富山縣告諭第四號

過般來、縣下各所ニ虎列刺病散發シ、就中上新川東岩瀬町、射水郡新湊町、富山市ニ在テハ、病勢猛烈傳染ノ勢モ亦著シク、今ヤ該病發生以來、本月十一日ニ至ル調査ニヨレハ、患者ノ數五百三十七人ニシテ、内死亡セルモノ三百二十人ノ多キニ達ス、依テ今般本縣令第七十三號ヲ以テ、祭典、説教、法會、演劇諸興行等差止メ候ニ付、此際人民各自ニ於テ、可成群集會筵等ヲ慎ミ、專ラ攝生ヲ務ムヘシ、

明治二十八年九月十三日

富山縣知事徳久恒範

富山縣告示第六十五號

本年十一月、內務省告示第三百三十八號ニ依リ、本縣臨時檢疫部、本月十五日限り閉鎖ス、

明治二十八年十二月十三日

富山縣知事徳久恒範

〔富山縣衛生第三次年報〕

傳染病患者

年	號	患死別	虎列刺	赤痢
明治二十八年		患	三四五二	一九五三
		死	二、六九七	七三〇

明治二十九年丙申

紀元二千五百五十六年

一月 朔 癸丑

十七日、已市町村の中央に、里程表を建設す、

〔富山縣報〕

今上天皇明治二十八年 二十九年

富山縣訓令第三號

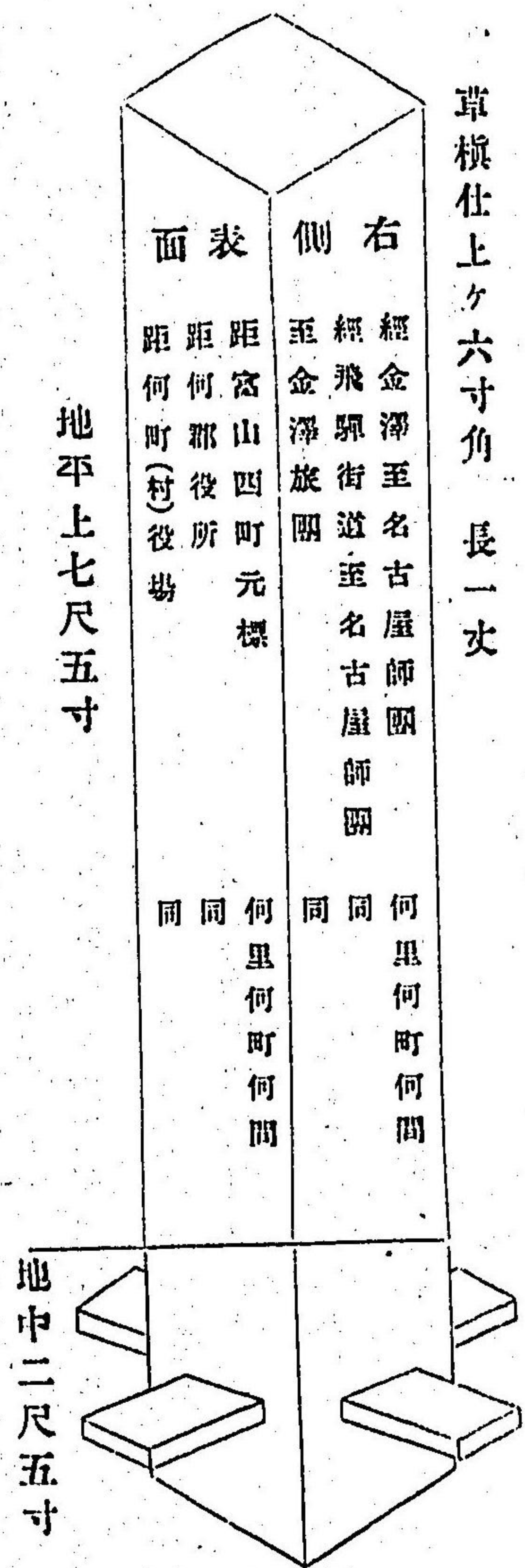
郡市役所 町村役場

國縣道ニ沿ヒタル町村ハ、里程標ヲ建設スヘキ旨、明治二十年六月六訓令第二百二號ヲ以テ、訓令ニ及置候處、自今各市町村共、其市町村ノ中央ニ當ル往來最頻繁ノ道路ニ沿ヒ、左ノ雛形ニ依リ里程標ヲ建設スヘシ、但其費用ハ市町村ノ負擔トス、

明治二十九年一月十七日

富山縣知事德久恒範

草横仕上ケ六寸角 長一丈



〔参考〕

〔富山縣布達〕

訓令第百貳號

郡役所 戶長役場

國道及假設縣(其他郡長必要ト看認ル地)ニ沿ヒタル町村ハ左之雛形○雛形ニ據リ、里程標ヲ建設シ、其費用ハ町村ニ於テ負擔スヘシ、

但無戸町村或ハ戸數僅カ二三戸ニ過キササル町村ニハ、建設スルニ及ハス、

明治二十年六月二十三日

富山縣知事國重正文

二月 朔 甲 申

十九日、壬寅高岡商業會議所の設立あり、

今上天皇明治二十九年

〔高岡商業會議所調査〕

高岡商業會議所ハ市内重ナル有志ノ創立ニ係リ、明治二十九年二月十九日ヲ以テ設立ヲ認可セラレタルモノニシテ、同年五月三十一日會員ノ選舉ヲ爲シ、同六月十二日初回會議ヲ開ケリ、爾來會員ノ半数改選ヲ行フコト六回、會議ヲ開クコト六十一回ニ及ヘリ、

是月、高岡市に、株式會社高岡共立銀行の設立あり、

〔富山縣統計書〕

明治二十九年

會社

會社名稱	營業種別	所在地名	設立年月	資本額	拂込済額
株式會社 高岡共立銀行	銀行業	高岡市守山町	二十九年二月	1,000,000	50,000

富山市に、富山工業會の創設あり、

〔富山縣工業會調査〕

工業品ノ粗製濫造其弊害百出シ、進歩發達ノ障礙尠シトセス、依テ富山市ノ有志者工業團體組織ノ必要ヲ感シ、明治二十八年富山工業會設立ヲ發起シ、同二十九年二月、發會式ヲ舉ケ其事業ヲ開始セリ、同三十二年五月、事業ヲ擴張シ縣下一圓ヲ區域トシ、且社團法人トナシ、富山縣工業會ヲ設立スルニ至レリ、

三月 癸丑

二十六日、憲兵隊富山分隊を開設す、

〔富山縣報〕

富山縣告示第三十號

客年七月勅令第三百三號陸軍定員令中、憲兵隊編製表ノ改正ニ依リ、第三憲兵隊下

ニ、富山分隊ヲ置カレ候處、今般其首部ヲ富山市ニ、屯所ヲ富山市高岡市及魚津

町ニ置キ、其巡察區左表ノ通定メラレタリ、但勤務實施ノ期日ハ追テ告示ス、

明治二十九年二月十四日

富山縣知事德久恒範

第三憲兵隊富山分隊各屯所巡察區

屯所名	郡市別	町村名
富山市總曲輪屯所	富山市	〇町 〇村
	上新川郡	〇町 〇村
高岡市	婦負郡	〇町 〇村
	高岡市	〇町 〇村

今上天皇明治二十九年

六七七

高岡市利屋町屯所		射水郡	名○町略村
魚津町屯所		礪波郡	名○町略村
上新川郡	上新川郡	名○町略村	名○町略村
下新川郡	下新川郡	名○町略村	名○町略村

富山縣告示第六十四號

第三憲兵隊富山分隊首部及各屯所本月二十六日ヨリ勤務實施ノ旨通知アリ、

明治二十九年三月二十七日

富山縣知事徳久恒範

〔參考〕

〔富山縣報〕

富山縣告示第四百四十一號

憲兵條例改正ニ付、憲兵巡察區並屯所名稱等、左ノ通改定ノ旨、第三憲兵隊長ヨリ通知アリ、

明治二十九年七月三十一日

富山縣知事安藤謙介

略○中

改稱屯	所名	位置
富山憲兵警察區	富山市屯所	富山總曲輪
富山憲兵警察區	高岡市屯所	高岡市利屋町
富山憲兵警察區	魚津町屯所	下新川郡魚津町

〔金澤憲兵隊本部調査〕

第三憲兵隊富山分隊並富山市屯所、高岡市屯所、魚津

町屯所ハ、明治三十一年十一月勅令第三百三十七號、憲兵條例改正ノ結果、同年十一月三十一日廢止トナル、

〔法令全書〕

陸軍省令第十七號

憲兵隊管區施行ノ期日、憲兵隊配置、憲兵分隊管區ノ改正、及管轄區分左ノ通定ム、

明治四十年十月十日

陸軍大臣子爵寺內正毅

東京、仙臺、名古屋、大阪、廣島、熊本、旭川、弘前、金澤、姫路、善通寺、小倉、臺灣、韓國駐劄、及關東各憲兵隊管區ハ、明治四十年十月九日ヨリ、其ノ他ノ憲兵隊管區ハ、當該憲

今上天皇明治二十九年

六七九

兵隊本部設置ノトキヨリ之ヲ施行ス、

憲兵隊配置及憲兵分隊管區別表ノ通改正ス、
略〇中

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス、

明治三十七年陸軍省令第四號ハ之ヲ廢止ス、

(別表)

憲兵隊配置及憲兵分隊管區表

憲兵隊	憲兵隊本部位置	憲兵分隊	同上位置	憲兵分隊管區
金澤	石川縣金澤市西町	金澤	石川縣金澤市四町	石川縣 福井縣 今立郡南條郡 福井市、大野郡、坂井郡、吉田郡、足羽郡、丹生郡
富山	富山縣富山市	富山	富山縣富山市	富山縣 岐阜縣 吉城郡、大野郡、益田郡

略〇中

〔金澤憲兵隊本部調査〕

金澤憲兵隊富山憲兵分隊ハ明治四十一年三月十日

開始セリ、

是月、水害復舊の爲め、始めて縣債を起す、

〔富山縣内務部地方課調査〕

本縣ハ財源ニ乏シキヲ以テ、非常災害ニ遭遇スル場合ハ、勢公債ヲ起スノ外ナシ、即チ水害復舊ノ爲メ、明治廿八年度ニ拾參萬七千八百參拾四圓、貳拾九年度ニ拾萬圓、參拾年度ニ參拾四萬參千貳百六拾九圓、水害復舊並ニ監獄建築ノ爲メ、參拾壹年度ニ參拾六萬九千七百九拾圓、工藝學校建築並ニ共進會費支辨ノ爲メ、參拾貳年度ニ五萬千貳百貳拾四圓、災害復舊ノ爲メ、參拾參年度ニ五拾八萬九千七百圓、參拾五年度ニ七萬五千圓ノ縣債ヲ起シ、毎年次ノ償還額ヲ差引キ、參拾參年度ニハ縣債總額百參拾九萬五千五百五拾參圓ヲ有シ、參拾五年度末ニハ百拾壹萬六千七百圓トナリタリ、參拾六年度以後ハ整理縣債ヲ起シ、從來ノ高利債ヲ整理スルト共ニ、一面繰上ケ償還ヲナス等、專ラ償還ニ力ヲ盡シタル結果、既ニ大部分ノ償還ヲ行ヒ、四拾壹年度ニハ殘額貳拾貳萬四千圓ニ下レリ、

四月、甲申

一日、甲申富山縣下の郡の分離及び廢置を行ふ、

〔法令全書〕

法律第五十一號

今上天皇明治二十九年

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル、富山縣下郡分離及廢置法律ヲ裁可シ、茲ニ之ヲ公布セシム、

御名 御璽

内閣總理大臣臨時代理

明治二十九年三月二十九日

樞密院議長伯爵黒田清隆

内務大臣 芳川顯正

法律第五十一號

富山縣越中國上新川郡ノ一部(西水橋町西三郷村東三郷村舟橋村利田村寺田村五百石町高野村下段村大森村釜ヶ淵村立山村上段村東谷村柿澤村大岩村弓庄村白萩村音杉村上市町相ノ木村宮川村上條村下條村東水橋町滑川町南加積村山加積村中加積村西加積村北加積村東加積村早月加積村濱加積村)ヲ以テ中新川郡ヲ置ク、

富山縣越中國射水郡ノ一部(太田村宮田村窪村佛生寺村布勢村神代村十二町村氷見町加納村上庄村熊無村速川村久目村阿尾村藪田村余川村稻積村碁石村八代村宇波村女良村)ヲ以テ、氷見郡ヲ置ク、

富山縣越中國礪波郡ヲ廢シ、其ノ區域ノ一部(北山田村山田村南山田村大鋸屋村城端町能美村平村上平村利賀村青島村東山見村雄神村榊檀山村榊檀野村般若村東般若村般若野村中田町南般若村北般若村柳瀬村太田村中野村油田村庄下村井波町南山見村井口村高瀬村山野村種田村福野村南野尻村廣塚村野尻村東野尻村五鹿屋村出町)ヲ以テ東礪波郡ヲ置キ、其ノ區域ノ一部(石動町宮島村子撫村南谷村植生村北蟹谷村南蟹谷村蟹谷村菰波村石黒村西野尻村福光町西太美村廣瀬村廣瀬館村太美山村東太美村吉江村東石黒村戸出町津澤町水島村鷹栖村高波村林村醍醐村是戸村小勢村福田村東五位村立野村山王村福岡町正得村大瀧村松澤村若林村荒川村西五位村五位山村石堤村赤丸村國吉村)ヲ以テ、西礪波郡ヲ置ク、

附 則

此ノ法律ハ、明治二十九年四月一日ヨリ施行ス、

〔參考〕

〔富山縣報〕

富山縣告示第六十五號

今上天皇明治二十九年

新設郡役所位置、左ノ通相定ム、

明治二十九年三月三十一日 富山縣知事徳久恒範

中新川郡役所 同郡滑川町

氷見郡役所 同郡氷見町

東礪波郡役所 同郡井波町

西礪波郡役所 同郡石動町

富山縣告示第五十六號

東礪波郡役所位置ヲ、同郡出町ニ變更ス、

明治三十五年四月一日 富山縣知事小倉 久

富山縣告示五十七號

東礪波郡役所事務ハ、本月十四日マテ井波町ニテ同郡役所ニ取扱ハシメ本月十五日ヨリ出町ニ於テ開應ス、

明治三十五年四月一日 富山縣知事小倉 久

〔中新川郡役所調査〕

中新川郡長

任 命	退 官 轉 任	氏 名
二十九年 四月 一日	三十二年 八月 七日	前田 則 邦
三十二年 八月 七日	三十五年 七月 九日	秋永 蘭 次 部
三十五年 七月 九日	三十六年 三月 九日	廣瀬 昌 柔
三十六年 三月 九日		松山 順 武

〔氷見郡役所調査〕

氷見郡長

任 命	退 官 轉 任	氏 名
二十九年 四月 一日	二十九年 五月 二十五日	國枝 逸 蝶
二十九年 五月 二十五日	三十一年 七月 十五日	福田 伊 八
三十一年 七月 十五日	三十一年 十二月 五日	萩原 昌 朔
三十一年 十二月 二十六日	三十六年 三月 九日	松山 順 武
三十六年 三月 九日	三十七年 五月 十六日	藤井 務

三十七年 五月十六日	三十八年 九月十八日	早川嘉儀
三十八年 九月十八日		松本於苑

〔東礪波郡役所調査〕

東礪波郡長

任 命	退 官 轉 任	氏 名
二十九年 四月一日	三十四年 十月八日	石坂專之介
三十四年 十月八日	三十五年 四月十二日	國枝逸蟻
三十五年 四月十二日		箕浦元

〔西礪波郡役所調査〕

西礪波郡長

任 命	退 官 轉 任	氏 名
二十九年 四月一日	二十九年 五月二十五日	小島綱次郎
二十九年 五月二十五日	二十九年 十月三十日	國枝逸蟻

二十九年 十月三十日	三十一年 十二月二十六日	藤井務
三十一年 十二月二十六日	三十二年 八月七日	秋永蘭次郎
三十二年 八月七日	三十六年 三月九日	吉田安喜
三十六年 三月九日		廣瀬昌柔

五日、^戊町立八尾蠶業學校を開始す、

〔町立八尾蠶業學校錄事〕

町立八尾蠶業學校開校式ヲ、明治二十九年四月五日、八尾尋高等小學校内ニ於テ舉行シ、同年七月十二日、新築校舍へ移轉ス、

〔富山縣報〕

富山縣告示第六十八號

富山縣婦負郡八尾町立八尾蠶業學校ヲ縣立ニ變更シ、富山縣農學校八尾分校ト改稱ス、

明治三十四年四月十三日

富山縣知事森山 茂

富山縣告示第五百五十九號

本縣立(師範學校ヲ除ク)既設學校左ノ通改稱ス、

今上天皇明治二十九年

明治三十四年十月四日

富山縣知事楡垣直右

舊校名

改校名

富山縣立農學校八尾分校

富山縣立農學校八尾分校

富山縣令第十八號

富山縣立農學校八尾分校ヲ明治四十一年四月一日ヨリ富山縣立蠶業學校ニ變更シ其ノ規則左ノ通り相定ム、

明治四十一年三月六日

富山縣知事川上親晴

○規則省略

十一日、^甲安藤謙介、富山縣知事に任す、

〔官報〕

明治二十九年四月十一日

任香川縣知事

富山縣知事正五位勳四等

德久恒範

任富山縣知事

檢事從五位

安藤謙介

〔中越明覽〕

明治二十九年四月、知事德久恒範轉任し、安藤謙介其後を襲ふ、恒範知事たること四年、大に勸業を奨励し、勸業知事の名あり、

是月、富山市に、株式會社富山橋北銀行の設立あり、

〔富山縣統計書〕

明治三十九年

會社

會社名稱	營業種別	所在地名	設立年月	資本金
株式會社 山橋北銀行	貯蓄及 貯蓄銀行	富山市愛宕町	二十九年四月	五〇〇、〇〇〇圓 三九〇、〇〇〇圓

是春、射水郡新湊町南島間作、支那沿岸の航海を開始す、

〔射水郡新湊尋常小學校報告〕

明治二十九年春、當町南島間作、志賀浦丸有磯

浦丸ノ二隻ヲ以テ、印度支那沿岸ノ航海ヲ開始ス、蓋シ一個人トシテ外國航政ヲ專航スルモノハ、本邦ニ於テ之ヲ嚆矢トスト、當時ノ官報ニ記セリ、

〔參考〕

〔高岡市役所調査〕

漁船高陵丸所有者ハ、本市木舟町菅野傳右衛門ニシテ、其

噸數千五十噸ナリシカ、明治二十六年十二月二十八日、北海道小樽沖ニ於テ沈没セリ、而シテ其損害約十五萬圓ナリ、

〔社伏木商工會報告〕

三十四年三月二日、日本海沿岸對露韓各港間ノ定期航

路ヲ開始セラレ、航海船交通丸始メテ伏木港ニ入レリ、

六月 朔乙酉

一日、乙酉郡制を施行す、

〔富山縣報〕

富山縣告示第九十八號

内務大臣ノ命令ニ依リ、本年六月一日ヨリ、本縣下ニ於テ郡制ヲ施行ス、

明治二十九年五月五日

富山縣知事安藤謙介

〔富山縣内務部地方課調査〕

明治二十三年五月、法律第三十四號ヲ以テ郡制

ヲ發布セラレタルモ、當分實施ニ到ラス、二十九年四月、郡分合ノ確定ト共ニ、同年六月一日ヨリ郡制ヲ實施セラル、然ルニ初度ノ郡制ハ法文上缺漏多ク、行政機關ノ權限明確ヲ缺キ、執行上紛議醸出セリ、依テ三十二年三月、法律第六十五號ヲ以テ、改正法律ヲ發布セラレ、同年七月一日ヨリ實施セラル、事トナリ、郡自治ノ制度茲ニ完成ス、

〔參考〕

〔上新川郡役所調査〕

上新川郡會議長

當選年月日	退職年月日	氏名
三十二年十月十八日	三十五年一月十八日	三鍋 磯右衛門
三十五年一月十八日	三十六年九月廿九日	黒田 晴耕
三十六年十月廿四日	四十年九月二十九日	城川 與三左衛門
四十年十月十五日		長井 清吉

〔中新川郡役所調査〕

中新川郡會議長

當選年月日	退職年月日	氏名
三十二年十月八日	三十六年九月三十日	金山 從革
三十六年十月廿三日	四十年九月三十日	神保 東作
四十年十月十九日		正木 善一郎

〔下新川郡役所調査〕

下新川郡會議長

今上天皇明治二十九年

當選年月日	退職年月日	氏名
三十二年十月二十日	三十四年十月十九日	濱田長次郎
三十五年二月十五日	三十六年九月廿九日	同人
三十六年十月二十日	三十八年二月一日	菅野新作
三十八年二月一日	三十九年二月十日	佐伯有台
三十九年二月十日	三十九年十一月五日	大菅甚五右衛門
四十年二月二十日	四十年二月二十六日	阿波加蕃
四十年二月廿六日	四十年九月二十九日	菅野新作
四十年十月十五日		佐伯有台

〔婦負郡役所調査〕

婦負郡會議長

當選年月日	退職年月日	氏名
三十二年十月二十日	三十四年十月廿六日	若林爲太郎

三十四年十一月廿九日	三十六年八月廿一日	稻垣梅太郎
三十六年十月十五日	三十八年八月廿一日	岡崎佐次郎
三十八年十二月十六日	四十年九月二十九日	淺尾清太郎
四十年十月廿一日		同人

〔射水郡役所調査〕

射水郡會議長

當選年月日	退職年月日	氏名
三十二年十月廿八日	三十六年九月三十日	寺島松右衛門
三十六年十月二十日	四十年九月三十日	坂井敬義
四十年十月十五日		同人

〔氷見郡役所調査〕

氷見郡會議長

今上天皇明治二十九年

當選年月日	退職年月日	氏名
三十二年十月二十日	三十六年二月四日	陸田又五郎
三十六年二月四日	三十六年九月十九日	岩間覺平
三十六年十月二十日	三十八年四月十三日	陸田又五郎
三十九年二月十四日	三十九年二月十四日	山崎善造
三十九年二月十四日	四十年九月二十九日	荻野助右衛門
四十年十月十八日		清水幸太郎

〔東礪波郡役所調査〕

東礪波郡會議長

當選年月日	退職年月日	氏名
三十二年十月廿五日	三十五年九月廿九日	岡本八平
三十六年十月二十日	三十八年三月七日	根尾宗四郎
三十八年三月十日	三十八年三月十日	坂井與次右衛門

三十八年七月八日	三十九年八月三日	佐藤助九郎
三十九年八月廿二日	四十年九月廿四日	山河次吉郎
四十年十月十八日		松島與信

〔西礪波郡役所調査〕

西礪波郡會議長

當選年月日	退職年月日	氏名
三十二年十月	三十六年九月	河合八十八
三十六年十月	三十九年一月	矢木安一
三十九年一月	四十年九月	杉野武平
四十年十月		北六一郎

七月、乙卯

一日、乙卯、府縣制を施行す、

〔富山縣報〕

今上天皇明治二十九年

富山縣告示第百二十號

內務大臣ノ指揮ニ依リ、本年七月一日ヨリ、府縣制ヲ施行ス、

明治二十九年六月十三日

富山縣知事安藤謙介

〔参考〕

〔法令全書〕

法律第三十五號 明治二十三年五月十七日

府縣制

第一章 總則

第一條 府縣ノ廢置分合及府縣境界ノ變更ハ、法律ヲ以テ之ヲ定ム、○中

第二章 府縣會

第二條 府縣會ハ府縣內郡市ニ於テ、選舉シタル議員ヲ以テ、之ヲ組織ス、○中

第四條 府縣內市町村ノ公民中選舉權ヲ有シ、其府縣ニ於テ一年以來直接國

稅十圓以上ヲ納ムル者ハ、府縣會ノ被選權ヲ有ス、

住居ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失ヒタル者、其住居同府縣內ニ在リ且

他ノ要件ヲ失ハサルトキハ、仍府縣會ノ被選權ヲ有ス、

其府東京府ハ略縣ノ官吏、及有給吏員、神官、諸宗ノ僧侶、又ハ教師ハ、府縣會議員タルコトヲ得ス、

前項ノ外ノ官吏ニシテ、當選シ之ニ應セントスルトキハ、本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ、

府縣會議員ハ、衆議院議員ト相兼スルコトヲ得ス、

第五條 府縣會議員ハ、名譽職トス、其任期ハ四年トシ、每二年其半數ヲ改選ス、

若其員數二分シ難キトキハ、初會ニ於テ、多數ノ一半ヲ解任セシム、初會ニ於テ解任スヘキ者ハ、府縣會議長府縣會ニ於テ、自ラ抽籤シテ之ヲ定ム、

解任ノ議員ハ再選セラルルコトヲ得、○中

第六章 附則

第九十七條 明治十三年四月、第十五號布告、府縣會規則、明治十四年二月、第八

號布告、區郡部會規則、明治二十二年二月、法律第六號、府縣會議員選舉規則、其

他此法律ニ抵觸スル成規ハ、此法律施行ノ府縣ニ於テ、其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス、

法律第六十四號 明治三十二年三月十五日

府縣制

第一章 總則

第一條 府縣ハ從來ノ區域ニ依リ、郡市及島嶼ヲ包括ス、

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第四條 府縣會議員ハ、各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス、○中略

第六條 府縣内ノ市町村公民ニシテ、市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ、且其ノ府縣内ニ於テ、一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ、府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス、

府縣内ノ市町村公民ニシテ、市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ、且其ノ府縣内ニ於テ、一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ、府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス、

家督相續ニ依リ、財産ヲ取得シタル者ハ、其ノ財産ニ付、被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ、其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス、

府縣會議員ハ、住所ヲ移シタル爲、市町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ、其ノ住

所同府縣内ニ在ルトキハ、之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ、
府縣會議員ノ選舉權、及被選舉權ノ要件中、其ノ年限ニ關スルモノハ、府縣郡市町村ノ廢置分合、若ハ境界變更ノ爲、中斷セラルルコトナシ、左ニ掲クル者ハ、府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス、其ノ之ヲ罷メタル後、一箇月ヲ經過セサル者亦同シ、

一 其ノ府縣ノ官吏、及有給吏員

二 檢事、警察官吏、及收稅官吏

三 神官、僧侶、其ノ他諸宗教師

四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ、之ニ應セントスルトキハ、所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ、

選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ、其ノ關係區域内ニ於テ、被選舉權ヲ有セス、其ノ之ヲ罷メタル後、一箇月ヲ經過セサル者亦同シ、

府縣ノ爲請負ヲ爲ス者、又ハ府縣ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ、其ノ府縣ノ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス、

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼スルコトヲ得ス、

第七條 府縣會議員ハ名譽職トス、

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲、又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲、解任ヲ要スル者ハ、抽籤ヲ以テ之ヲ定ム、略、○中

第七章 附則

第三百三十七條 此ノ法律ハ、明治二十三年法律第三十五號、府縣制ヲ施行シタル府縣ニハ、明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ、其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ、府縣知事ノ具申ニ依リ、内務大臣之ヲ定ム、略、○中

第四百四十六條 明治十三年、第十五號布告府縣會議規則、明治十四年、第八號布告區郡部會規則、明治二十二年、法律第六號府縣會議員選舉規則、其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル法規ハ、此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ、其ノ効力ヲ失フ、略、○下

七日、西辛各川洪水且暴風あり、被害頗る多く、高岡市殊に甚し、因りて救恤金を御下賜せられ、國庫よりも土木費を補助す、

〔富山警察署調査〕

明治二十九年七月七日神通川ヨリ、出水シ、流失家屋ハ四戸、浸水床上七百四十

三戸、床下八百十戸ナリ、

明治二十九年七月二十一日、又神通川出水シ、人畜ノ死傷ハ、死人二名、畜十三頭、傷ハ人三名、流失家屋十戸、浸水ハ床上五千九百三十二戸、床下千八百戸ナリキ、

〔富山縣水害誌〕

明治二十九年七月二十一日、神通川再洪水、水量一丈六尺五寸、

一 溺死 二人 一 浸水床上七千六十二戸

一家畜溺死 十三頭 一同 床下 千四百九戸

一 負傷 三人 一 倉庫流失 一棟

一家屋流失 二十五戸 一 破壊 五十二戸

一 倉庫破損 五棟 一 納屋流失 三棟

堤防破損二十二ヶ所、三千四百六間、欠壊十一ヶ所、七百七十七間、橋渠破壊十三、橋渠流失十七、

〔富山警察署調査〕

明治二十九年八月二日、神通川又出水シ、流失家屋六戸、浸水ハ床上二千五百六十一戸、床下二千三百八十二戸ナリ、

〔高岡市統計一斑〕

明治二十九年七月中旬ヨリ連日霖雨ノ爲メ、庄川暴漲シ、二十一日午前射水郡二塚村前ニテ、該川堤防第一第二第三、共一時崩壊シ、全川ノ洪水千保川ニ浸入シ、實ニ名狀ス可カラサルノ災害トナレリ、今其被害ヲ記スレハ左ノ如シ、

- 一 橋 梁 流 失 四 橋 但中島、横田、新幸、内免橋ナリ其他ノ橋梁ハ省略ス
- 一 諸建物流失及崩壊 貳百四拾八棟
- 一 破損及浸水家屋 千五百六拾九棟
- 一 田 地 流 亡 壹反參畝貳拾六步
- 一 畑 流 失 四反參畝貳拾九步
- 一 田畑生毛ノ損耗 六町九反八畝貳拾八步
- 一 宅 地 流 亡 八反壹畝八步
- 一 森 林 流 亡 八畝拾八步
- 一 堤 防 欠 壞 六百三十間
- 一 用惡水路破損 拾壹ヶ所
- 一 道 路 破 損 三千七百間

一 被 害 町 數 參拾壹ヶ町

其他波止場雜種地等損害多シ

災禍ハ前記一回ニ止マラス、尙ホ續テ同八月二日、同九月十日、同様ノ洪水アリテ、水量高カリキ、其被害左ノ如シ、

- 一 諸建物流失及崩壊 貳百貳拾參棟
- 一 破損及浸水家屋 貳千四百四拾壹棟
- 一 用^(田)地 流 亡 壹町六畝五步
- 一 畑 流 亡 四町七反
- 一 田畑生地ノ損耗 貳町九反四畝貳拾四步
- 一 宅 地 流 亡 貳町八反五畝拾步
- 一 浸 水 宅 地 拾八町壹反四畝貳拾步
- 一 堤 防 欠 壞 參百六拾六間
- 一 用惡水路破損 拾八ヶ所
- 一 道 路 破 損 貳千百六拾八間
- 一 被 害 町 數 四拾參ヶ町

今上天皇明治二十九年

其他雜種地等損害多シ、

以上貳回ノ水害ニ係ル損失見積額ハ、凡ソ金七拾九萬四千四百七拾九圓四拾九錢八厘ニシテ、實ニ高岡ニ在テハ、古來未曾有ノ災禍ナリシト云フ、而シテ之レカ復舊土木費トシテ、明治二十九年、同三十年、同三十一年度ニ支出セシ、總金額貳萬七拾參圓參拾壹錢壹厘(壹萬千貳拾圓八錢九厘縣補助)ニシテ、横田橋上下兩岸及中島橋上下兩岸ニ、堤防ヲ築キ、新幸、内免ノ兩橋、其他小橋ヲ架設シ、各町破壞道路ノ修築ヲ爲セリ、

〔新湊警察署調査〕

明治二十九年八月二日、暴風雨起リ海岸ハ高波起リ、又庄

川出水シテ、川口堤防ヲ破壊又ハ欠壞シ、新湊町内川ノ西南ハ、庄川洪水ノ爲メニ市街ノ過半浸水シ、又内川ノ東南ハ、海岸高波ノ爲メニ、海岸波除堤防ヲ欠壞セラルル等、其慘狀名狀スヘカラス、此損害ハ浸水家屋千三十六戸、田地ノ浸水百四十四町二反十九步、畑ノ浸水二町九反七畝三步、宅地流失八畝步、宅地ノ浸水二十五町三反四畝二十四步、波除堤破壞損三百間、川除堤破壞損二百間、堤防欠壞十間、道路毀損三十五間、橋梁流失二ヶ所、同毀損四ヶ所ナリ、

〔三日市警察分署調査〕

明治二十九年七月一日ヨリ八月二日ニ至ル間、前後

九回ノ出水アリ、七月七日黒部川ハ水量一丈二尺ニ達シ、下立、浦山、若栗、萩生ノ各村及大布施村大字沓掛村、村椿村大字荒俣村ノ各前堤數ヶ所、此延長千四十一間ヲ破壊シ、稻田及家屋ニ浸水シ、尙流失田畑二町八反二畝步餘ニ及ヘリ、又七月八日ニ至リ片貝川水量一丈、布施川水量六尺ニ達シ、石田村字八番ノ上堤防六十間ヲ破壊シ、本流布施川ニ注キ、同村字向丁場、及田家新村字林川原下丁場等數ヶ所、此延長五百五十九間ヲ破壊シ、大水黒瀬川ヲ壓シテ石田本村ニ奔流シ、爲メニ同村大字堀切村方面ヨリ、西方一帯ノ土地家屋ハ浸水ノ災害ヲ受ケ、半潰家屋二棟アリ、浸水約五日ニシテ荒蕪地ハ多大ニ生シ、一時免租トナリシモノ、當時百町步以上ニ涉レリ、

〔富山縣警察部保安課調査〕

明治二十九年七月七日、八日、黒部川出水、堤防流

失四百四十間、欠壞千四十一間、流失田畑凡三町步、家屋ノ流失六戸、破壊十四戸、布施川堤防ノ破壊五百五十九間、田地荒廢百町步、

〔富山縣報〕

富山縣告示第五百五十二號

一金壹萬六千六百拾五圓五拾錢參厘

右ハ本年七月七日、同二十一日、八月二日、縣下各川水害ニ際シ、罹災窮民救助ノ爲メ本縣備荒儲蓄金百分ノ五以上ヲ支出スルヲ以テ、備荒儲蓄法第七條ニ依リ、中央儲蓄金ヨリ補助アリタリ、

明治二十九年九月十一日

富山縣知事安藤謙介

富山縣告示第四百十七號

今般本縣下非常出水被害不尠段、憫然ニ思召サレ、聖上 皇后兩陛下ヨリ金千圓下賜リ、目下救恤ノ補助ニ充ツヘキ旨、御沙汰有之候ニ付、其分配方ハ郡市長ニ於テ取調ヘ、罹災者ヘ配付セシムヘシ、

明治二十九年八月十九日

富山縣知事安藤謙介

富山縣告示第九十一號

一金五千貳百七圓四拾錢七厘

右ハ本年八月三十一日ノ暴風及ヒ九月七日ヨリ同十日ニ至ル、縣下水害等ノ罹災窮民救助ノ爲メ本縣備荒儲蓄金百分ノ五以上ヲ支出スルヲ以テ、備荒儲蓄法第七條ニ依リ、中央備荒儲蓄金ヨリ補助アリタリ、

明治二十九年十月十日

富山縣知事安藤謙介

富山縣告示第七十二號

今般本縣下暴風ノ被害尠カラサル段、憫然ニ思召サレ、聖上 皇后兩陛下ヨリ金五百圓下賜リ、目下救恤ノ補助ニ充ツヘキ旨、御沙汰有之候ニ付、其分配方ハ郡市長ニ於テ取調ヘ、被害者ニ配付セシム、

明治二十九年十月七日

富山縣知事安藤謙介

〔富山縣內務部會計課調査〕

明治二十九年度、土木費、國庫費、國庫補助金、百十

六萬千圓、

〔參考〕

〔婦負郡神明尋常小學校報告〕

年々洪水ノ害ヲ被ムルヲ以テ、神明村ハ隣村

東吳羽鶴坂ノ二村ト共同シテ、明治二十九年ヨリ四ヶ年繼續事業トシテ、井田川改修ヲ爲セリ、其潰地反別ハ八町九反三畝二歩、經費總額壹萬千六百四十五圓二十八錢九厘ナリ、其後三十八年ニハ逆流止水間ノ築造ヲナセリ、

八月丙戌

大日本蠶絲會富山支會の創設あり、

〔富山縣內務部勸業課調査〕

大日本蠶絲會富山支會ハ、明治二十九年八月縣

下蠶絲業有志者ニヨリテ組織セララル、同月八尾町ニ於テ其發會式ヲ舉ケ、尋テ同卅二年第二回總會ヲ開キタルガ遂ニ中絶ノ姿トナリス、後三十四年十一月四日有志者再ヒ相謀リ之レヲ再興シ、三十五年ニハ其事業トシテ、八月二十三日ヨリ三日間、八尾町縣立農學校分校ニ於テ蠶種、繭、生糸ノ品評會ヲ開催セリ、即チ出品點數ハ、繭二百四點、蠶種二百四十五點、生絲廿五點ナリトス、後三十六年ノ交、又不振ノ狀ニ陥リ、遂ニ解散ノ決議ヲ見ルニ至レリ、然レトモ時世ハ永ク之レカ廢絶ヲ許サ、ルモノアリ、乃チ明治四十年一月、官民間ニ於ケル會員等協議ノ結果、從來ノ組織ヲ全ク一變シ、同月二十九日ヲ以テ、更ニ其第一回總會ヲ開クコト、ナリ、同年五月七日ヨリ五日間八尾町縣立農學校分校ニ於テ、蠶種、繭、生絲品評會ヲ開催スルノ盛運ニ向ヘリ、同品評會ノ出品點數ハ、蠶種百二十一點、繭千三百二十五點、生絲五十九點ニシテ、斯業發展上至大ノ好影響ヲ與ヘタリ、

〔參考〕

〔大日本農史〕

明治七年三月二十二日、内務省ハ府縣ヲシテ、前年ノ蠶種優等受賞者名ヲ各所

ニ揭示セシメタリ、其内富山縣ニ屬スル分左ノ如シ、

十一月^{戊午}朔

婦負郡八尾町 翠田太平

一日、^{戊午}收稅署を稅務署と改め、富山縣を金澤稅務管理局の管轄に屬せしむ、

〔法令全書〕

勅令第三百四十六號

明治二十九年十月二十日 抄

稅務管理局稅務署及管轄區域表

稅務局名	府	縣	稅務署名	管轄區域
金澤	富山	山	富山	富山市 上新川郡
			上市	中新川郡
澤	富山	山	魚津	下新川郡
			八尾	婦負郡
富	山	山	高岡	高岡市 射水郡
			水見	水見郡

附則

本令ハ明治二十九年十一月一日ヨリ施行ス、

〔富山縣報〕

富山縣告示第九十五號

金澤稅務管理局及本縣內稅務署位置、左ノ通ニ有之候旨通知アリ、

明治二十九年十一月六日

富山縣知事安藤謙介

石	石動	西礪波郡
井	井波	東礪波郡

外〇は富山縣略以

局 署 名	位 置
金澤稅務管理局	石川縣金澤市大手町一十九、二十、二十一番地
富山稅務署	富山市大字富山總曲輪四百八十三番地
上市稅務署	中新川郡上市町五十八番地
魚津稅務署	下新川郡魚津町大字荒町二十七番地
八尾稅務署	婦負郡八尾町大字今町千六百六十二番地

高岡稅務署	高岡市堀上町四十二番地
氷見稅務署	氷見郡氷見町大字氷見下伊勢町二番地
石動稅務署	西礪波郡石動町大字今石動町三百五十六番地
井波稅務署	東礪波郡井波町大字井波村千百十七番地

〔法令全書〕

勅令第二百四十二號

明治三十五年 十月三十一日 抄

稅務署官制

稅務署名稱及管轄區域表

稅務署名稱	管轄區域
金澤	富山、上市、魚津、八尾
富山	富山、富山市、上新川郡
上市	中新川郡
魚津	下新川郡
八尾	婦負郡

附則

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ施行ス

三日、庚申射水郡堀岡村火あり、

〔新湊警察署調査〕

明治二十九年十一月三日午後二時、射水郡堀岡村大字堀

岡新村堀岡みよヨリ出火、明神新村ニ延焼シ、戸數百二十八戸焼失ス、

十二月戊子

四日、辛卯大日本武徳會富山支部の創設あり、

〔大日本武徳會富山支部調査〕

明治二十九年十二月四日、大日本武徳會富山

支部創設セラレ、當時ノ會員僅カニ三千、演武場ノ設置モナカリシガ、卅七年十一月十三日、武徳會演武場及附屬建物ヲ新築セリ、目下ノ會員通シテ二萬三千

高岡	水見	石動	井波
高岡市	水見郡	西礪波郡	東礪波郡
射水郡			

外○富山縣以

九百四十五名ヲ有ス、尙又各郡市ニテ武術講習ノ爲メ、建設シタル演武場ハ、滑川町、小杉町、新湊町、上市町ノ四ヶ所ニ及ヒ、新湊町ノ分ハ、火災ニ罹リ焼失セリ、是歳、明治二十七八年戰役戰利品を神社に奉納シ、各學校にも下賜せらる、

〔富山縣内務部社寺兵事課調査〕

明治二十九年其筋ヨリ射水神社以下ノ重

ナル神社へ二十七八年戰役ノ戰利品ヲ配付セララル、

〔富山縣内務部教育課調査〕

明治二十九年日清戰役ノ戰利品ヲ各中等學校

及高等小學校へ下付セララル、

明治三十年丁酉

紀元二千五百五十七年

四月己丑

七日、乙未石田貫之助、富山縣知事に任す、

〔官報〕

明治三十年四月七日

任富山縣知事

石田貫之助

非職被仰付

富山縣知事

安藤謙介

九日、丁未市立富山簡易商業學校開始あり、

〔市立富山商業學校調査〕

明治三十年四月九日、富山市立富山簡易商業學校、授業ヲ開始シ、同年九月二十二日開校式ヲ舉行ス、同三十四年六月一日、富山市立富山簡易商業學校ヲ、富山市立富山商業學校ト改稱ス

五月己未朔

四日、戊壬中越鐵道株式會社の中越鐵道開通す、

〔富山縣統計書〕

明治三十九年

類別	線路名	停車場名	區間哩數	開業年月日
私	中越鐵道	伏木	二・一 <small>分</small>	明治三十三年十二月二十九日
		能岡	二・五	同上
		高岡	四・五	同 三十年五月四日
		油出	一・五	同 三十三年十二月二十九日
		出町	二・三	同 三十年五月四日
計	儀	一・五	同 三十二年五月三十日	

股道	福野	福光	城端	計
	三・三	三・三	三・三	二・三・二
	同 三十年五月四日	同 三十年八月十九日	同上	

〔富山縣統計書〕

明治三十九年

會社

會社名稱	所在地名	設立年月日	資本金總額
中越鐵道株式會社	射水郡下關村	二十八年十一月	七〇〇、〇〇〇 <small>圓</small>

〔參考〕

〔富山縣統計書〕

明治三十一年

鐵道乗客貨物抄 明治三十一年度調

類別	線路名	停車場		貨物	貨物	乗客	貨物	計
		乗	降					
私	中越	高岡	三九、三〇三 <small>圓</small>	三、六六四 <small>圓</small>	一、六七三、〇〇〇 <small>圓</small>	一、四九七、七〇〇 <small>圓</small>	一、八六九、五〇〇 <small>圓</small>	五、三三三、一三〇 <small>圓</small>
計								一、四九七、七〇〇 <small>圓</small>

今上天皇明治三十年

七二五

設	鐵道	城端	三、六、〇	三、〇、八	四、三、〇、五、〇	三、〇、五、〇、〇	四、三、八、六、〇	一、三、三、八、〇	五、六、二、五、〇
---	----	----	-------	-------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

六月 庚寅

七日、^丙市立高岡簡易商業學校創立あり、

〔市立高岡商業學校調査〕 明治三十年六月七日、高岡簡易商業學校ヲ創立ス、

明治三十二年十一月、高岡簡易商業學校ヲ、市立高岡甲種商業學校ト改稱ス、

明治三十四年三月、市立高岡商業學校ト改稱ス、

〔高岡市役所調査〕 高岡商業學校ハ、明治三十三年十一月五日ノ建築ニシテ其

工費ハ一万九百九拾八圓ナリ、

二十六日、^乙富山縣私立教育會發會式を行ふ、後の富山縣教育會是れなり、

〔富山縣内務部教育課調査〕 明治三十年六月二十六日、富山縣會議事堂ニ於

テ富山縣私立教育會發會式ヲ舉行シ、後三十四年組織ヲ變更シ、各郡市教育會
ト聯合シテ、互ニ氣脈ヲ通スルコト、シ、三十七年三月富山縣教育會ト改稱ス、

七月 庚申

七日、^丙神通川洪水、尋テ常願寺、黒部、早月の諸川亦屢出水あり、

〔富山警察署調査〕

明治三十年七月七日、神通川出水シ、浸水家屋ハ床上五千六戸、床下三百九十六
戸、同月二十一日、亦出水、浸水家屋ハ床上百十六戸、床下四百七十八戸ナリ、

〔富山縣警察部保安課調査〕

明治三十年七月八日、九日、黒部川出水沿岸堤防ノ欠壞凡三百五十間、田畑ノ流
失五十餘町歩ニ及フ、

〔富山縣水害誌〕

明治三十年七月十三日ノ出水、

一 常願寺川堤十ヶ所八百九十五間欠損、

一 早月川堤四ヶ所二百八十間欠損、

一 黒部川十一尺堤二ヶ所三百七十間欠損、流失家屋二戸、

〔富山縣警察部保安課調査〕

明治三十年八月十三日、黒部川出水一丈五尺、沿
岸大布施村等堤防六百八十四間ヲ破壞シ、百五十間ヲ欠壞シ、田地十六町餘、人
家二戸ヲ流失セリ、

〔富山縣水害誌〕 抄

明治三十年九月九日ノ出水、

- 一 神通川一丈二尺五寸
- 二 庄川一丈二尺
- 三 小矢部川九尺

〔参考〕

〔富山縣内務部會計課調査〕 明治三十年度土木費國庫補助金七十萬圓、十七日、丙神通川、萩浦橋成る、

〔富山縣内務部土木課調査〕

河川名	橋名	長	幅	架橋年月日	摘	要
神通川	萩浦橋	二二〇 <small>尺</small>	一一 <small>尺</small>	明治三十年七月十七日	縣道	自西水橋村間(貸取)

九月壬戌

八日、巳髹漆業者石井勇吉死す、

〔高岡頌孝會調査〕

石井勇吉略傳

高岡市ニ於テ髹法ヲ新案家トシ、特産漆器ノ開始者トシテ、其名ヲ博セシハ實ニ石井勇吉ナリ、勇吉ハ通稱ヲ勇介トイヒ、天保十四年十二月廿六日ニ生ル、資

性敏悟加フルニ堅忍不拔ノ氣象ニ富ミ、常ニ其弟與三吉ト共ニ、父勇助ヲ扶ケテ漆器ノ改良ヲ計リ、髹法ヲ研究シテ遂ニ一種獨特ノ塗法ヲ製出ス、所謂勇介塗之レナリ、勇助ハ當時指物ト塗師トヲ兼業トナシ、其技熟達セシヲ以テ、加賀藩主及藩士ノ知遇ヲ受ケ一年中四分ノ三ハ是等ノ製作ニ從事セリトイフ、勇吉父ノ職ヲ襲クニ及ヒ、一意専心器物ノ改善ト髹法ノ新案トニ全力ヲ注キ、腦漿ヲ絞リ單身獨歩種々ノ實驗ニヨリテ、遂ニ新案ノ器物ニ己ガ獨特ノ髹法ヲ施ス、雅致アリテ優美ナリシガハ、人稱シテ支那風トイヒ、唐物製ト呼ビテ大ニ之ヲ賞揚セリ、其後唐風剗ぎんま描ぎんま塗物ぞんせ、ちんきん剗堆剗塗ヲ製作シ、又青貝入ノ箔繪蠟石細工、唐木細工ヲ製作シ、又一種ノ屈輪ヲ案出ス、

明治五年澳地利國博覽會ニ、漆器料紙箱壹個ヲ出品ス、

明治十年第一回内國博覽會ニ茶棚ヲ出品シテ、風絞褒賞ヲ受ク、

爾後倍々經驗ニ研究ニ辛酸ヲ嘗メ來リシガ、明治十二年ニ至リ、塗物ぞんせヲ基礎トシ、寶石ヲ嵌入シ、各種ノ色彩ヲ有セル髹漆ヲ用ヒテ、自由ニ隆窪起伏ノ皮肉ヲ附シ、人物山水ノ景ヨリ、或ハ禽獸草木ナドノ形狀風趣ニ至ルマテ、微細ニ描現スルコトヲ案出シ、大ニ世上ニ賞贊セラレ、勇介ノ名更ニ遠近ニ喧傳シ、

今ヤ世上ニ最モ多クノ種ノ糝法ヲ流行セシムルニ至レリ、
 明治十四年第二回内國博覽會ニ、密陀畫步障ヲ出品シテ、三等妙技賞ヲ受ケ、宮
 内省御用品ニ採用セララル、
 明治十六年、古銅色ノ糝法ヲ按出ス、全十七年ニ各種ノ寶石細工ヲ嵌セル石
 象嵌塗ノ新法ヲ發明ス、
 明治廿三年五月、宮内省ヨリ書架壹個、同年六月同省ヨリ桐大風爐壹對、製作ノ
 恩命ヲ蒙ル、
 同年開設ノ第三回内國博覽會ニ石象嵌卷煙草入ヲ出品シテ、三等妙技賞ヲ受
 ケ、宮内省ノ御用品ニ採用セララル、
 明治廿八年ニ開設ノ、米國シカゴ府大博覽會ニ、梅形菓子器ヲ出品シテ、優等銅
 牌ヲ受ケ、其他各府縣ノ共進會等ニ其製品ヲ出シテ、賞牌ヲ受クルコト尙多シ、
 明治三十年九月八日病シテ死ス、高岡本陽寺ニ葬ル、其後明治三十一年五月ニ
 至リ農商務省ヨリ特ニ勇吉ノ斯道ニ盡セシ功勞ヲ追賞セララルニ至レリ、
 是秋、浮塵子蔓延シ、大に稻田の收穫を減す、

〔富山縣報〕

富山縣告諭第一號

今般浮塵子蔓延ニ付、慘害ヲ蒙リタル町村ニ於テハ、猶ホ翌年再發ノ虞有之ニ
 付、○中奢侈ニ流レサル様注意スヘシ、

明治三十年十月二十二日

富山縣知事石田貫之助

富山縣訓令第六十號

郡市役所

昨年ハ、浮塵子、螟虫等ノ被害ニテ、縣下重要ノ農産タル稻作ニシテ、其收穫ヲ減
 少セシコト、無慮五拾萬石餘ノ巨額ニ昇レリ、○下

明治三十一年七月二十九日

富山縣知事阿部 浩

〔富山縣統計書〕

明治三十九年

米作付段別及收穫高累年比較 抄

年次	收穫高	年次	收穫高
三十年	九三三、二〇七 <small>石</small>	三十五年	一、〇六〇、〇〇一 <small>石</small>
三十一年	一、四二九、一三三	三十六年	一、五六六、四五〇

今上天皇明治三十年

七二一

三十二年	一、三五二、四八六	三十七年	一、七〇七、二四五
三十三年	一、三八二、五二四	三十八年	一、二三五、二九八
三十四年	一、五七八、四〇八	三十九年	一、四〇九、八三八

明治三十一年戊戌 百五十八年五

二月乙未

五日、亥阿部浩、富山縣知事に任す、

〔官報〕

明治三十一年二月五日

任富山縣知事

從四位勳五等阿部 浩

依願免 本官

富山縣知事石田貫之助

三月癸亥

黒部川の黒部橋成る、

〔富山縣内務部土木課調査〕

黒部橋ノ架設

國道ノ黒部川ヲ横斷スル個所飯野村大字香掛村間ハ、古來貸取渡船ヲ設ケ、
 交通ノ便ニ供シタルモノナルモ、明治十八年十月、本派本願寺法主ノ北陸巡行
 ヲ機トシテ、河中ニ假杭ヲ建設シ、之カ假杭ハ神通川舟橋ニ使用シタル、鐵鎖ヲ
 以テ繋留シ、貸取假橋梁ヲ架設シタルモ、更ニ幅員拾尺ノ木橋ヲ架設シ、橋名ヲ
 櫻枝橋ト名ケ、明治二十年一月ヨリ、同三十年三月マテ、一般通行者ヨリ橋錢ヲ
 徴收シタルモノナリ、而シテ現在ノ橋梁延長參百七拾四間、幅員二間三分三厘
 ハ、縣費ヲ以テ明治三十一年三月竣工シタルモノニシテ、同時ニ橋名ヲ黒部橋
 ト改稱セリ、

四月甲午

一日、甲午富山縣高岡尋常中學校を開始す、

〔富山縣報〕

富山縣令第十七號

本縣高山市ニ富山縣高岡尋常中學校ヲ設置シ、明治三十一年四月一日ヨリ開
 校ス、但校舍ノ位置並授業開始日限ハ追テ告示ス、

本校ニ關スル規則規程等ハ、總テ富山縣富山尋常中學校ノ規則規程等ヲ適用

今上天皇明治三十一年

七三三

ス、

明治三十一年三月十一日

富山縣知事阿部 浩

〔高岡中學校調査〕

明治三十一年五月四日、高岡市博勞巖町舊大谷派教校ヲ、假校舍ニ充テ授業ヲ開始シ、三十二年四月一日、富山縣第二中學校ト改稱、同年五月二十四日、射水郡下關村大字中川村ニ於テ、本校ノ一部新築落成ニ付移轉、三十四年十月四日、富山縣立高岡中學校ト改稱ス、

十五日、^中東礪波郡井波、城端の兩町火あり、尋テ救恤金を御下賜せらる、

〔井波警察分署調査〕

明治三十一年四月十五日、井波町大字北川村字宮前、桑谷彦市ヨリ失火シ、戸數二百一戸ヲ燒失ス、此被害金額八萬二千圓餘ナリ、

〔城端警察分署調査〕

明治三十一年四月十五日午後三時四十分、城端町大字城端町笹田藤一郎方ヨリ出火シ、折悪ク南風烈シク、戸數二百八十二戸、棟數三百二十四棟ヲ延燒シ、同日午後十時鎮火セリ、人畜死傷ナシ、此被害金額拾八萬圓餘ナリ、

〔東礪波郡役所調査〕

東礪波郡訓示第六六號

井波町役場

去月十五日、井波町及城端町出火、罹災民困難ノ趣憫然ニ被思召、天皇皇后兩陛下ヨリ金五百圓、目下救恤ノ補助ニ充ツル爲メ、御下賜ノ旨宮内大臣ヨリ通牒有之旨ヲ以、聖恩ノ御旨趣、罹災民ヘ貫徹候様、其筋ヨリ訓達有之候ニ付、右之趣罹災者ヘ篤クト懇諭セララルヘシ、

明治三十一年五月 日 富山縣東礪波郡長石坂專之介

〔井波警察分署調査〕

明治三十一年五月九日、井波火災慇然ニ思シ召サレ、救恤金五百圓、天皇皇后兩陛下ヨリ下賜アラセラレ、又兩本願寺ヨリ金八十圓ノ寄贈アリタリ、

五月 期 甲 子

富山市に、大日本私立衛生會富山縣支會の設立あり、

〔大日本私立衛生會富山縣支會調査〕

大日本私立衛生會富山縣支部ハ、明治三十一年五月ノ創立ニシテ、今ヤ一萬八千餘人ノ會員ト、基金一萬四千七百圓ト有セリ、事業ノ重ナルモノヲ舉クレハ、同三十三年ヨリ産婆養成所ヲ開設シ、修業期ヲ一ケ年トシ、年々繼續シテ既ニ第八回ノ養成ヲ了シ、卒業生百二十

六名ヲ出セリ、同三十六年縣下凶作ノ爲メ、窮民婁者少カラス、依テ資金一千餘圓ヲ支出シテ、八百餘名ニ對シ施療ヲ爲シタリ、其他三十二年ニ衛生幻燈ヲ十組買求メテ、各郡市ニ配布シ、同三十七年ニ蓄音機一組ヲ購入シテ、衛生講話會ニ專ラ利用シ、又毎年一回宛總會ヲ開キ、縣下ノ衛生狀態ヲ報告シ、時々大家ヲ招聘シテ、講話會ヲ催フシ、各郡市ニ於テモ衛生講話會ヲ開キ、又赤痢コレラ等ノ流行時ニ際シテハ、之カ豫防上注意スヘキ事項ヲ網羅シタル印刷物ヲ一般ニ配布スル等、直接間接ニ衛生思想ノ普及發達ニ勉メタリ、

〔參考〕

〔大日本私立衛生會富山縣支會記錄〕

明治三十三年八月六日、大日本私立衛生會總會ヲ西別院本堂ニ於テ開ク、當日ノ報告及演題左ノ如シ、

- 一 前年中内國衛生上ノ景況報導 評 議 員 三宅 秀
- 一 前年中海外衛生上ノ景況報導 評 議 員 高木友枝
- 一 傳染病救濟金庫設立趣意ニ就テ 同 同
- 一 公 共 心 醫學博士大澤謙二

- 一 慢性傳染病ニ就テ 同 木村孝藏
 - 一 齋藤氏ノ消毒器ニ就テ 同 中濱東一郎
 - 一 如何スレハ脚氣病ヲ撲滅シ得ヘキ乎 同 荒木寅三郎
- 明治三十三年八月七日、大日本私立衛生會富山縣支會總會ヲ開ク、當日ノ演說左ノ如シ、

- 一 赤痢病豫防ニ就テ 醫 學 士高木友枝
- 一 神經衰弱病ニ就テ 同 山崎 幹
- 一 免疫性ニ就テ 上田計二
- 一 大阪ノベスト 醫 學 士栗本庸勝
- 一 地方衛生會ニ就テ 法 學 士窪田靜太郎
- 一 傳染病院 醫 學 士佐々木 達
- 一 實行ノ秘訣 本會評議員柳下士興
- 一 自心ノ養生 醫學博士大澤謙二

六月 乙未

十六日、戊辰、各川出水、

〔富山縣水害誌〕

明治三十一年六月十六日出水、神通川一丈一尺、浸水家屋千二軒、常願寺川五尺堤防六十間、缺壞、黒部川八尺、國道四十間、破損、庄川一丈、小矢部川一丈一尺、井田川八尺、堤防缺損數百間、其他諸川各出水アリ、

七月 朔乙丑

八日、^{中、壬}日本赤十字社富山支部、第一回社員總會あり、總裁小松宮彰仁親王、臺臨あらせらる、

〔日本赤十字社富山支部調査〕

本社總裁小松宮彰仁親王殿下、社長代理石黒軍醫總監、清水幹事御附武官等ヲ隨ヘサセラレ、福井右川兩支部社員總會ヲ經テ、明治三十一年七月七日、御來縣、翌八日富山縣廳構内ニ於テ、開催ノ當支部第一回社員總會ニ臺臨、式場ニ於テ御諭旨ヲ旨ハリタリ、當日參列ノ社員ハ約六千人ニシテ、功勞者篤志者ヘ有功章及特別社員章、若クハ三組木盃ヲ御親授アラセラレタリ、斯クテ殿下ハ同日高岡ニ御一泊、翌九日御歸京ノ途ニ上ラセラレタリ、

十一日、^{乙亥}金岡又左衛門等、政社憲政黨富山支部を組織し、幾くならずして解散す、

〔富山警察署調査〕

明治三十一年七月十一日、金岡又左衛門、内山松世、上野安太郎、佐々木平兵衛等ニテ、政社憲政黨富山支部ヲ組織シ、同年十一月五日解散ス、

十五日、^{己卯}戸籍役場を開始す、

〔富山地方裁判所調査〕

明治三十一年六月、法律第十二號公布、同月三十一日勅令第廿三號ヲ以テ、同年七月十五日ヨリ、現行法ノ施行ヲ見ルニ至リタルモノナリ、而シテ戸籍役場ノ數ハ、二百七十二ニシテ、之ヲ區別スレハ左ノ如シ、

富山市	一	高岡市	一
上新川郡	二四	中新川郡	三四
下新川郡	四三	婦負郡	三三
射水郡	三三	氷見郡	二一
東礪波郡	三九	西礪波郡	四三
以上			

八月 朔丙申

今上天皇明治三十一年

三日、^戊金尾稜殿、富山縣知事に任す、

〔官報〕

明治三十一年八月三日

任千葉縣知事

富山縣知事從四位勳五等阿部 浩

任富山縣知事

金尾稜殿

二十六日、^辛東礪波郡能美村を分割して、北野村、藪谷村を置く、

〔富山縣報〕

富山縣告示第百三十六號

町村制第四條ニ依リ、東礪波郡能美村ヲ分割シ、大字北野村、同北野新村、同是安村、同梅井新村敷地、同野田新村敷地、同是安村敷地ヲ以テ北野村ヲ置キ、其他ヲ以テ藪谷村ヲ置ク、

明治三十一年八月二十六日

富山縣知事金尾稜殿

十一月 ^初 戊辰

一日、^戊富山縣農工銀行、營業を開始す、

〔株式會社富山縣農工銀行調査〕

明治三十一年六月二十九日、本行設立免許狀ヲ下附セラレ、同年十一月一日ヨ

リ營業ヲ開始ス、同三十二年十月二十七日、當市山王町八番地營業所建築落成

ニ付、翌二十八日移轉ス、

一 資本金四拾萬圓(全額拂込済)

一 株式貳萬株 壹株金貳拾圓

一 株主數 壹千拾八名

一 諸積立金七萬壹千八百五拾圓

官設北陸鐵道、福岡、高岡の諸驛開通す、翌年富山まで通す、

〔富山縣統計書〕

明治三十九年

類別	線路名	停車場名	區間哩數	開業年月日
官	北陸	津幡	八二	明治三十一年四月一日
		石動	四六	同 三十一年十一月一日
		福岡	五四	
		高岡	四六	

設	鐵	小	六
道	道	山	七
計	山	杉	同
			三十二年三月二十日
			二九五

〔参考〕

〔富山縣統計書〕

明治三十二年

鐵道乗客貨物 抄

明治三十二年度調

別	類	乗客		貨物		乗客	貨物	計	金
		乗	降	出	入				
官	北陸	二〇四、八四〇 _人	二四、三五五 _人	一五、九六六 _噸	一六、三九〇 _噸	六、八八二 _円	四、四九九 _円	一一〇、三〇一 _円	
設	鐵道	富山	一四、二四五	一五、九六六	九、四二六	三、四四二	八五、九四	二九、〇四九	一、四、九七三

三日、庚午、神通川改修工事成る、

〔富山縣内務部土木課調査〕

神通川ノ取擴

神通川ハ、年一年土砂ノ流出増加シ、毎年三四回ノ洪水アリテ、富山市街ニ浸水

スルヲ常トス、茲ニ於テ川幅取擴ノ計畫ヲ立テ、三ヶ年間に繼續事業トシテ工事ヲ施行シ、明治三十一年十一月三日竣功ヲ告ケタリ、而シテ本工事ノ豫算總額ハ、金貳拾貳萬五千圓ニシテ、其ノ工事ノ計畫ハ左ノ如シ、

神通川改修工事計畫書

一 神通川ノ改修タル、上流富山市大字藤井町ニ起リ、下流上新川郡奥田村大字

廣田中島村ニ至ル、此延長貳千五百貳拾間

一 右改修ニ係ル市町村ハ如左

富山市	大字藤井町	同船頭町
同	古手傳町	同愛宕町
同	婦負郡櫻谷村大字愛宕村	同牛島村
同	四ッ屋村	
同	上新川郡奥田村大字東田地方	同奥田村
同	西稻荷村	同奥田下新村
同	西田村	同廣田中島村
同	一右敷地ノ内、右岸延長千百間、幅員平均四十五間七分弱、左岸延長千九百間、幅	

今上天皇明治三十一年

七三三

員平均四十四間、式分弱ノ地盤、深壹間、式分四厘強ヲ切取リタリ、其上流ハ川幅新舊ヲ併テ百五十間、下流ハ同上、式百間トス、

一右切取土砂ヲ以テ、新堤ヲ築クモノ、右岸延長三百間、左岸延長千貳百間、敷平均八間、馬踏貳間、高平均敷平均九尺トス、

一土砂切取口ニ、護岸工事ヲ要スル所、右岸延長八百間、左岸延長七百間、此仕様ハ深五分以上、敷堀ノ上、切取ノ全面ヲ平一坪四拾貳石以内ノ川石羽取トス、
一右取擴土砂ハ築堤ニ使用シ、外各所水溜ノ凹所等ヲ埋立尙殘餘アラハ、海岸ニ棄捨スルモノトス、

一神通川ニ架設アル字神通橋ハ、長貳拾八間、架増ヲ要スルニ付テハ、現橋ノ如ク、橋幅ヲ四間トシ、其他橋杭高欄等都テ現橋ノ構造ニ倣ヒ、且北詰橋臺ハコシク、リート床堅ヲナシ、在來ノ石材及他ノ切石ヲ以テ、積立ツルモノトス、

一川幅取擴ノ爲メ、川敷及堤敷トシテ、拾四萬五千坪買上ヲ要ス、其内左岸川敷八萬三千八百九拾貳坪、同堤敷六千七百九十坪、右岸川敷五萬三千三百二十八坪、同堤敷三千坪トス、

二十六日、^巳富山市に於て、第一回農產物品評會の開設あり、

〔富山縣農會調查〕

第一回農產物品評會

明治三十一年十一月二十六日ヨリ同十二月六日迄、十日間、本縣物產陳列場ニ於テ、本會第一回農產物品評會ヲ開設セリ、之レ第七回關西府縣聯合共進會出品準備ノ爲メナリ、其經費ハ凡テ千二百圓トシ、内縣稅補助千圓、郡農會寄附金貳百圓トナス、出品物ハ米三千四百六十四點、麥貳百七十八點、大豆四百十二點、茶七十四點、葉煙草八十三點、紫雲英十點、蘭草百十六點、蘭七十點、合計四千五百七點ナリ、外ニ參考品トシテ、各郡模範農場一覽、并ニ當業者ヨリ成蹟表類五十六點、米表類二百九十七點、蔬菜類百十一點、農具六點、雜品三百三十八點ノ出品アリ、同月二十八日ヨリ審査ヲ開始シ、一等賞十一點、二等賞四十四點、三等賞百二十五點、四等賞三百九十五點、褒狀四百四十五點、合計九百二十一點ノ優等品ヲ撰出シ、十二月五日褒賞授與式ヲ舉行セリ、右品評會開催ノ結果、大ニ地方農民ヲ鼓舞獎勵シ、將來農事ニ大改良ヲ加フル動機ヲ與ヘタリ、

第二回農產物品評會

明治三十二年十一月二十一日ヨリ同十二月三日マテ、新川郡魚津町ニ於テ

第二回農産物品評會ヲ開催ス、出品點數實ニ三千五百六十五點、同會ハ主トシテ、越中米ノ改良増進ヲ圖ルヲ目的トシ、米ハ一點ニ付、四斗三升入一俵宛東京へ輸出シ、廻米問屋ノ品評ニ付シ、越中米ノ聲價ヲ深川市場ニ博スルノ端緒ヲ開キ、産米檢査實施ノ一大動機ヲ起セリ、

是月、米澤紋三郎等、政社憲政黨富山支部を組織す、

〔富山警察署調査〕

明治三十一年十一月、米澤紋三郎、浮田總叔、淺野長太郎、坂井敬義、武部其文、五十嵐政雄、日南田宇八郎等ニテ、政社憲政黨富山縣支部ヲ組織ス、自由改進黨兩黨合同ノ憲政黨瓦解ニ依リテ、更ニ起レルナリ、其後同三十三年九月十八日之ヲ解散ス、

〔參考〕

〔富山縣警察部保安課調査〕

明治三十二年十月、憲政黨、候補伊藤博文、男爵末松謙澄、子爵渡邊國武、金子堅太郎ノ一行、黨勢擴張ノ爲メ來縣ス、

是歲、英照皇太后の大喪に際し、皇室より救濟事業の資金を下賜せらる、

〔富山縣内務部地方課調査〕

英照皇太后陛下ノ大喪ニ際セラレ、ヤ、特ニ皇室ヨリ内帑ノ資參拾八萬圓ヲ割カレ、以テ地方救濟事業ノ資金ニ充テラレ

タリ、本縣ニ於テハ下賜セラレタル金額六千六百圓ヲ基金トシ、縣特別會計トシテ、自三十一年至三十六年間、毎年度金五千圓宛ヲ支出シ、之ヲ累積シ三十七年度以降ハ、縣經濟ノ都合上之カ積立ヲ見合セタルモ、目下元利ヲ合シ、金五萬八千八百餘圓ニ達シタリ、

明治三十二年己丑

四月 別己亥 紀元二千五百五十九年

一日、己亥富山縣第三中學校を、下新川郡魚津町に開始す、

〔富山縣報〕

富山縣告示第三十四號

明治三十二年四月一日ヨリ、本縣下新川郡魚津町ニ中學校ヲ新設シ、富山縣第三中學校ト名稱ス、

明治三十二年三月十日

富山縣知事金尾稜殿

〔魚津中學校調査〕

明治三十二年五月一日開校式ヲ舉行シ、卅四年十月四日、富山縣立魚津中學校ト改稱、卅六年四月一日、下新川郡加積村及道下村ノ新築校舎ニ移轉ス、

富山電燈株式會社電燈を架設す、

〔富山警察署調査〕

明治二十九年二月、上新川郡大久保用水ヲ利用シ、富山市内ニ電氣事業開始ノ議、有志者間ニ起リ、遂ニ三十二年二月二十五日富山電燈株式會社資本金十萬圓ノ設立認可ヲ受ケ、三十二年四月一日ヨリ開業スルニ至レリ、原動力ハ右水力ニテ馬力二百馬力、當時點燈數約千燈ニシテ、同年八月富山市大火ノ際、類焼ノ厄ニ遇ヒ、巨額ノ損害ヲ受ケ、爲メニ資本金ヲ六萬圓ニ減シタルカ、後更ニ三萬圓ヲ増シ、漸次點燈供給者増加シタルヲ以テ、四十年一月、更ニ資本金ヲ六拾萬圓ニ増資シ、從來ノ供給區域ヲ擴メ、新庄、西水橋、滑川、魚津、東岩瀬、八尾、上市ノ各町へ供給ノ企圖ヲナシ、婦負郡細入村大字蟹寺村ヨリ神通川ノ水流ヲ引キ、同村大字菴谷村ニ二千馬力ノ發電所ヲ設ケ、目下事業擴張ノ進捗中ナリ、又以上ノ外、急速火力百六十五馬力ノ發電所ヲ上新川郡奥田村ニ設置シ、四十一年八月二十四日ヨリ開業シ、水力火力ヲ以テ發電スルコト、ナレリ、而シテ同年末ニ於ケル該社點燈數ハ五千百十五燈ニシテ、電力馬力數ハ六十九馬力ナリ、

〔參考〕

〔富山警察署調査〕

明治二十七年五月、富山市ニ於テ市設博覽會開會中、同市密田孝吉等ノ發起ニテ、會場内ヘ千二百燭光弧光燈貳個、白熱燈大小五十個ヲ點燈ス、是レ富山市ニ電燈ヲ點セシ嚆矢ナリ、

二日、庚富山縣廳を、富山市山王町に移す、

〔富山縣報〕

富山縣告示第五十二號

當縣廳、本日富山市山王町五番地へ移轉ス、

明治三十二年四月二日

富山縣知事金尾稜嚴

〔參考〕

〔富山縣報〕

富山縣告示第二百二十二號

當廳燒失ニ付、富山市總曲輪師範學校内ニ、假廳舍ヲ開設ス、

明治三十二年八月十二日

富山縣知事金尾稜嚴

富山縣告示第二百二十六號

今般縣廳ヲ富山市梅澤町八尾町大法寺内へ移轉シ、本日ヨリ事務取扱フ、

明治三十二年八月二十五日

富山縣知事金尾稜殿

五月己巳

十日、戌寅婦負郡八尾町火あり、

〔八尾警察署調査〕

明治三十二年五月十日、八尾町大字上新町、久保次郎吉方

ヨリ出火、南風激烈ノタメ、二百餘戸ヲ全燒ス、

十四日、壬午中新川郡東水橋町火あり、

〔滑川警察署調査〕

明治三十二年五月十四日午後九時三十分、東水橋町大字

同町土肥四郎平ヨリ出火シ、九十餘戸ヲ燒失シタリ、

六月庚午

十六日、乙卯海事局の事務を分掌せしむる爲め、伏木海務署を開始せらる、

〔法令全書〕

遞信省告示第七十六號

海事局ノ事務ヲ分掌セシムル海務署ノ名稱位置並管轄區域、左ノ通相定メ本

日ヨリ施行ス、

明治三十二年六月十六日

遞信大臣子爵芳川顯正

海務署名稱位置並管轄區域

名	稱	位	置	管	轄	區	域
伏木海務署	越中國伏木	富山縣石川縣加賀國ヲ除ク					

○他ハ省略

〔伏木海務署調査〕

明治卅二年六月一日遞信省告示第六十二號ヲ以テ、東

京船舶司檢所伏木支所ノ設置ヲ公布セラレ、同年六月十四日勅令第二百六十

三號海事局官制ノ制定ニ依リ、署名ヲ伏木海務署ト改メ、六月十六日ヨリ事務

ヲ開始ス、之レヨリ先越中國ニ於ケル船舶事務ハ、東京船舶司檢所（現今ノ東京

海事局）ニ於テ、船員事務ハ浦役場ニ於テ、取扱ヒ來リタルモ、海務署設置ヨリ其

事務ヲ伏木海務署ニ於テ、繼承スルコト、ナレリ、

是月、免囚保護の爲め、富山縣獨立寄留舎の創設あり、

〔富山縣內務部地方課調査〕

復歸スヘキ家ナク、又頼ルヘキ故舊ナキ刑餘出

獄人ニ對シ、相當ノ職業ヲ與ヘ、再罪惡ヲ犯スナカラシメントスル趣旨ヲ以テ、

明治三十二年六月、富山市ニ於テ、富山縣獨立寄留舎ナルモノヲ創設シ、家族的

ニ擬シテ、數人ノ幼年放免囚ヲ收容感化シ、同年十二月富山縣免囚保護會ト改稱シ、縣稅ノ補助金及ヒ大谷派本山ノ補助、其他ノ寄付製作品ノ賣上金等ヲ以テ維持ス、創立以來ノ被保護者ハ十九名ナリ、

〔參考〕

〔富山縣內務部地方課調査〕

名稱	創立	維持	狀況
富山慈善會	明治廿七年一月廿一日	市內有志ノ寄付	創立以來ノ入會三百二人
富山市私立積善學校	同月廿三日	特志者ノ寄付及會員ノ寄附	現在兒童員數男二十名
四方育兒院	同月廿六年	婦吉ノ郡四方町柴竹脇	ヲ創立以來孤兒五名ヲ收容ス
本江育兒院	同月廿六年	高岡市坂下町柴本江	現今男兒八名ヲ收容ス
富山市育園	同月四十年	富山市梅澤町柴谷	現在孤兒十二名ヲ收容ス

七月 庚午 朔

二十五日、神通川洪水、

〔石碕記録〕

七月二十四日午後より神通川水量増加し、翌二十五日午前遂に

一丈一尺五寸に及び、神通橋は水勢の激する所となり、將に墜落せんとす、故に十數艘の船を橋上に登せ、唧筒を以て泥水を其中に盈たし、漸く落橋を防禦し、午後僅かに減少の徴候を現出せしが、市内に在ては七軒諏訪川原總曲輪鐵砲、鹿島長柄中長柄堀端桃井相生古手傳の各町悉く浸水したり、此の出水たる、神通川一方の水源なる高原川上流、飛驒國吉城郡上寶村中尾組地内字外ヶ谷と稱する官林數十町歩崩壊して、一時は方一里濬涪したるも、深さ三間幅五間噴水道を生じて、濁水の流水の流失せしより、幸に危険を免るゝを得たり、若し夫れ不幸にして、流脈の壅塞する事、數日の久しきに彌れば、我が富山市は豈に雷泥水浸入のみにして止まんや、如何なる慘害を被むるやも、亦未だ測り知るべからざりしなり、

三十一日、^{庚午}罹災救助基金支出規則を定む、

〔富山縣報〕

富山縣令第四十一號

罹災救助基金法第十六條及ヒ府縣制第四百三十三條ニ依リ、罹災救助基金支出規則、左ノ通相定ム、

今上天皇明治三十二年

明治三十二年七月三十一日

富山縣知事金尾稜嚴

罹災救助基金支出規則

第一條 罹災救助基金法第八條ノ各費目ハ、此規則ニ依リ支出スルモノトス、
第二條 災害ニ際シ、一時其急ヲ救フノ必要アルトキハ、家屋ヲ借上ケ若クハ
假屋ヲ營ミ、罹災者ヲ避難セシム、

第三條 食料ハ、白米ヲ給スルヲ定例トシ、他ニ救助ノ途ナキ者ニ限り左ノ區
別ニ從ヒ、日數三十日以内之ヲ給與ス、

一 男 一 人 一 日 五 合

一 女 一 人 一 日 四 合

一 年齢七十歳以上、十五歳未満ノ者ハ、男女ヲ問ハス壹人一日三合、但シ年
齡二歳未満ノ者ハ、之ヲ算入セス、

第四條 罹災ノ狀況ニ依リ、罹災者ニ臨時焚出米、及ヒ鹽噌ヲ給スルコトアル
ヘシ、

焚出米ハ、總テ第三號ノ標準ニ依リ之ヲ給シ、鹽噌ハ一人一日金壹錢五厘以
内ヲ以テ之ヲ給ス、

第五條 焚出米ノ給與ヲ止メタル後、尙ホ食料ノ救助ヲ要スル者ハ、第三條ノ
規定ニ從ヒ之ヲ給與ス、但シ焚出米給與ノ日數ヲ通シテ、三十日ヲ超ユルコ
トヲ得ス、

第六條 被服ハ、罹災ノ爲メ生活上闕ク可カラサル被服ヲ亡失シ、他ニ救助ノ
途ナキ者ニ限り、左ノ制限金額内ニ於テ現品ヲ給ス、

一 男女年齢十五歳以上、一人ニ付金壹圓以内、

一 同十五歳未満一人ニ付、金五拾錢以内、

第七條 災害ノ爲メ、傷痰疾病ヲ受ケタル者ニシテ、自ラ治療スル資力ナク且
他ニ救助ノ途ナキトキハ、病院若クハ醫師ヲ指定シ又ハ臨時治療所ヲ設ケ
テ之ヲ治療セシム、但シ罹災ノ日ヨリ十四日間以内トス、

罹災患者ニシテ、重症措キ難キ者ハ、前項ノ要件ニ當ラスト雖モ、一時應急治
療ヲ施スコトアルヘシ、

第八條 罹災ノ爲メ居宅ヲ亡失シ他ニ救助ノ途ナキ者ハ、左ノ制度金額内ニ
於テ、木材其他小屋掛ニ必要ナル材料ヲ給與ス、
一 一家一人ノ者ハ、金參圓以内、

明治三十二年十月三日

富山縣知事金尾稜嚴

富山縣令第七十號

内務大臣ノ許可ヲ經、本年九月十五日ヨリ、明治二十三年法律第四十六號水利組合條例ヲ施行ス、

明治三十三年九月十二日

富山縣知事檜垣直右

〔法令全書〕

法律第四十六號 明治二十三年六月二十日

水利組合條例

第一章 總 則

第一條 府縣稅、又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル、水利土功ニ關スル事業ニシテ、其利害關係ノ區域、市町村ノ區域ト符合セサルモノ、又ハ符合スト雖、二市町村以上ニ涉ルモノニシテ、特別ノ事情ニ依リ、市町村若ハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ、此法律ニ依リ、水利組合ヲ設置スルコトヲ得、

第二條 水利組合ハ分テ左ノ二種トス、

一 普通水利組合

二 水害豫防組合

第三條 普通水利組合ハ、用惡水等專ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲、設置スルモノトス、

第四條 水害豫防組合ハ、水害防禦ノ爲ニスル、堤防浚渫沙防等ノ工事ニシテ、普通水利組合ノ事業ニ屬セサルモノ、爲、設置スルモノトス、○中

二日、^壬富山市日枝神社、縣社に列せらる、

〔富山縣内務部社寺兵事課調査〕

縣社

鎮座地名	社名	境内坪數	昇格年月日
富山市山王町	日枝神社	二、一一六、九	明治三十二年八月二日

十二日、^壬富山市中野新町火あり、四十六ヶ町村四千六百九十二戸を焼く、困りて特に侍從を差遣し、救恤金を下賜あらせらる、

〔富山警察署調査〕

明治三十二年八月十二日午前零時三十分、富山市中野新町、質屋桑田安左衛門方ヨリ出火、折節南風猛烈忽チ四方ニ延焼シ、市街樞要ノ

地ヲ燒拂ヒ、上新川郡奥田村、婦負郡牛島村等ニ飛火シ、火勢猖獗ヲ極メ高岡、魚津、新湊、其他ヨリ消防組ノ應援アリシカド、縣廳、上新川郡役所、市役所、稅務署、警察署、病院、中學校、商業學校、其他銀行、諸會社、小學校、建築中ナリシ關西聯合共進會場等皆類燒ニ罹レリ、然シテ其被害總計ハ、四十六ヶ町村、戶數四千六百九十二、土藏納屋九十五ニ及ヒ、毀潰セシ家屋倉庫四十五、官公署七、社寺十三、學校七、病院銀行諸會社等二十二、電柱百四十七本、此損害額約貳百六萬五千圓ナリ、

〔富山市役所調査〕

富山縣訓令乙第十號

本月十二日、其市火災ノ趣感然ニ被思召、目下救恤ノ補助ニ充ツル爲メ、天皇皇后兩陛下ヨリ、金六千五百圓ヲ下シ賜ハリ、尙又實地視察トシテ侍從片岡利和ヲ差遣ハサレ候旨、宮内大臣ヨリ、通達ニ接シ候條、直ニ罹災民ニ告示シ、天恩ノ優渥ナルヲ知ラシムヘシ、

明治三十二年八月十五日

富山縣知事金尾稜殿

富山市長市川伯孝殿

〔參考〕

〔富山縣內務部土木課調査〕

明治三十二年八月十二日ニ於ケル、富山市ノ火災ヲ機トシ、自越前町國道至富山縣廳道路ノ一部ハ、中央ノ車道ヲ延長四十三間、幅員六十七尺五寸、内兩側溝幅一尺五寸ニ、兩側ノ人道ヲ延長八十七間八分、幅員十八尺ニ、又自越前町國道至覺中町道路ハ、延長五十間、幅員二十四尺ニ取擴工事ヲ施行セリ、而シテ前者ハ明治三十四年八月九日、後者ハ明治三十五年三月八日竣功ヲ告ケタリ、之ニ要シタル縣費支出額ハ、工費及敷地收用費ヲ通シテ金六千六百四十五圓八十八錢九厘トス、

〔富山警察署調査〕

明治三十二年八月十二日、富山市火災ノ際、櫻木町ハ燒失セシヲ以テ、同年八月廿五日、縣令第五十號ヲ以テ、貸座敷免許地ヲ削除セラレ、更ニ同年九月一日、縣令第五十二號ヲ以テ、愛宕村ニ之ヲ指定セラレタリ、

〔富山市沿革志〕

明治四年十二月、稻荷町北新町等紅烟翠柳ノ巷各所ニ散在シ、淫賣ノ婦女日ニ蕃シク、遊冶艶放ノ遊客月ニ多キヲ加フルヲ以テ、○中途ニ藝娼妓貸座敷營業者ヲシテ、千歲跡ニ移轉シ、之ニ居住セシメ櫻木町ト稱ス、

九月壬申

八日、己卯各川洪水、

〔富山縣警察部保安課調査〕

明治三十二年九月七日八日九日各川出水、庄川、淺井村堤防欠壞、田地三十町歩ヲ流失シ、三口堤防六ヶ所破損、新湊町人家一千七百十九戸ニ浸水シ、橋梁二ヶ所墜落ス、又野積川、山田川、保内川、室收川、井田川等、各川氾濫、田地ノ流失數萬町歩、其他堤防橋梁等ノ損害數フルニ逸アラズ、人家ノ流失セルモノ、山田村ニ五戸、室收村ニ七戸、富川村ニ一戸、音川村ニ三戸アリ、

〔富山警察署調査〕

明治三十二年九月八日、神通川出水シ、浸水家屋床上三千三百六十七戸、床下五百九十一戸ナリ、

十二月 朔 癸卯

十一日、^丑射水郡八幡宮、縣社に列せらる、

〔富山縣内務部社寺兵事課調査〕

縣社

鎮座地名	社名	境内坪數	升格年月日
新湊町大字 放生津町	八幡宮	二、二八七	明治三十三年十二月十一日

二十三日、^丑下新川郡生地町に海嘯あり、

〔三日市警察分署調査〕

明治三十二年十二月二十三日、下新川郡生地町ニ浪害アリ、家屋二棟ヲ流失シ、家屋納屋等三十七棟ヲ破壊シ、壓死者ヲ出セリ、浸水ヲ被レルモノ百八戸ニ及ヘリ、

〔參考〕

〔滑川警察署調査〕

明治三十三年十二月七日、午後二時ヨリ暴風雨トナリ、引續キ同九日夜、滑川高月沿海高波起リ、山王町ヨリ高月村ニ至ル道路ヲ破壊ス、尙電柱八本、加茂神社境内ノ松木壹本ヲ倒シ、上梅澤村ニ於テ家屋一棟ヲ倒潰セリ、

是歲、東礪波郡立野原に第九師團砲兵射撃場を設く、

〔東礪波郡南山田尋常小學校報告〕

立野原射撃場 本村西南部ヨリ、西礪波郡東太美村及ヒ太美山村ニ亘リテ、一帶ノ平夷ナル上陵アリ、元ハ千福山中、地山、圓山、立野等ト稱ヘタリシカ、明治三十三年此地ヲ相シテ、第九師團砲兵ノ射撃場トセラレタリ、

〔第九師團司令部調査〕

一立野原砲兵射撃演習地、面積九拾八萬貳千九拾坪

三十二年十一月及三十三年七月ニ買收ス、
 一同上付屬廠舎敷地面積三萬五千六拾坪
 三十八年五月、九月、三十九年五月、六月、ニ城端町ヨリ獻納ス、
 一明治三十二年七月、立野原砲兵射撃演習地、面積九拾八萬貳千九拾坪ヲ陸軍
 省ニ買收ス、
 一明治三十九年六月、立野原砲兵射撃演習地付屬廠舎敷地、面積三萬五千六拾
 坪ヲ獻納ス、

〔參考〕

〔富山縣内務部土木課調査〕 軍隊交通ノ利便ヲ計リ、併セテ地方ノ繁榮ヲ促
 進セントスルノ必要ニ出テタル東礪波郡城端町ヨリ立野ヶ原、陸軍砲兵射撃
 場ニ達スル道路中、城端町南山田村地内ノ改築工事ハ、明治三十九年八月三十
 日竣功ヲ告ケ、九月十七日開道式ヲ舉ケタリ、工費總計金壹萬四千九百四拾圓
 八拾錢五厘縣費支出ニシテ、本工事ニ要シタル道路ノ敷地ハ、地籍町村ノ寄附ナリ、
 布哇へ移住せしもの、七十三人あり、

〔富山縣警察部保安課調査〕

明治三十二年ニ於ケル布哇へノ移民ハ、七十三人、
 明治三十六年ヨリ、同四十年ニ至ル、五ヶ年間ニ於ケル海外移民ハ、左ノ如シ
 布哇 男三二三人 女二三 黒西哥 男二四七 加奈陀 男一
 ニユーカレドニア島 男一四八 女三〇 計 男七一九 女五三
 明治三十三年庚子 紀元二千五
百六十年
 一月甲戌朔

十二日、乙酉富山地方森林會を開く、

〔富山縣報〕

富山縣告示第二百六號

左記ノ箇所〇箇所ノ保安林編入及ヒ解除ノ爲メ、來ル明治三十三年一月十二
 日ヨリ、富山地方森林會ヲ開ク、

明治三十二年十二月十一日

富山縣知事金尾稜嚴

〔富山縣内務部勸業課調査〕

保安林編入及解除ニ關スル件ハ、去ル明治三十
 年、法律第四十六號森林法ノ發布以來、地方森林會ノ決議ヲ要スルニ至リタル
 ヲ以テ、本縣ニ於テハ、明治三十三年一月、始メテ第一回地方森林會ヲ開キ、爾來

同四十年ニ至ル迄前後九回ノ會議ヲ起シテ、保安林ノ編入及解除ヲ決議セシモノ、左ニ記載スル所ノ如シ、

一編入ヲ決議セシモノ、六千六百五十一筆、此反別四萬千二百二十六町壹反七畝九步五合、

一解除ヲ決議セシモノ、參百拾壹筆、此反別二百五拾參町壹反四畝二拾步五合、
十九日、^{壬辰}檜垣直右、富山縣知事に任す、

〔官報〕

明治三十三年一月十九日

任富山縣知事

德島縣書記官從五位勳六等檜垣直右

富山縣知事金尾稜嚴

文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ、休職被仰付

三月 ^{癸酉}

二十一日、^{癸巳}政社憲政本黨富山縣支部の設置あり、

〔富山警察署調査〕

明治三十三年三月廿一日、富山同志俱樂部ヲ、治安警察法

ニ依リ、政社組織ニ改メ、憲政本黨富山縣支部ト稱シ、事務所ヲ總曲輪富山日報

社内ニ置ク、其當時ニ於ケル重立者ハ、江守精一、菅池岩吉、赤祖父牛知、神保東作、岡本八平、菅野新作等ナリ、

三十一日、^{癸卯}庄川の庄川橋成る、

〔富山縣内務部土木課調査〕

河川橋	橋名	長	幅	架橋年月日	摘要
庄川	庄川橋	二四六 ^四	一〇 ^八	明治三十三年三月三十一日	縣支辨里道 ^{自出町間} 至八尾町間(貸取)

是月、上新川郡東岩瀨町に岩瀨銀行の設立あり、

〔富山縣統計書〕

明治三十九年

會社名稱	所在地名	設立年月日	資本金總額
株式會社 岩瀨銀行	上新川郡 東岩瀨町	三十三年三月	五〇〇、〇〇〇 ^圓

四月 ^{甲辰}

一日、^{甲辰}庄川筋に河川法を施行せらる、

〔法令全書〕

内務省告示第十八號

今上天皇明治三十三年